

演習林の概要	1
演習林の活動	2
研究活動	2
地方演習林研究活動報告	2
森林生態圏管理学協力大講座ゼミ	8
演習林技術官等試験研究・研修会議	15
試験研究業務	17
試験研究業務実行位置図	17
利用状況	51
演習林を利用して行った論文等	51
全利用者	57
教育活動	102
大学院（講義および演習）	102
学部講義など	103
他大学への非常勤講師	104
講習会・セミナー等	104
実習	105
科学研究費・受託研究費等によって行われた研究	108
科学研究費	108
他機関との共同研究	109
受託研究	110
奨学寄付金	110
研修	110
技官	110
事務官	111
安全・防災	112
国際交流	112
国際シンポジウム	112
共同研究	113
外国人研究者の来訪	113
外国人研究者の招聘	113
外国人研究者の講演会	113
外国出張	113
海外研修旅行	113
出版広報活動	114
演習林報告	114
演習林	114
著書	115
新聞・雑誌・放送等	115
学内広報	115
各種委員会報告	116

運営委員会	116
地方林長会議	116
補佐会議	116
演習林会議	116
将来計画委員会	116
演習林編集委員会	116
演習林施設委員会	116
全演の事務主任会議	116
学外各種委員会	117
山火事予防活動	118
主要設備	118
年間行事	119
資料	120
人事異動	120
収入・支出	125
予算及び決算額	125
歳入決算内訳書	125
演習林収入歳入決算内訳細分表	126
組織図	127
本部	127
千葉演習林	128
北海道演習林	129
秩父演習林	131
愛知演習林	132
富士演習林	132
樹芸研研究所	133
田無試験地	133
付録	134
東京大学農学部附属演習林 同縮尺図	134
各演習林所在地および連絡先	136
研究部	136
千葉演習林	136
北海道演習林	136
秩父演習林	136
愛知演習林	136
富士演習林	136
樹芸研研究所	136
田無試験地	136
教職員の写真	136

演習林の概要

1890年に、東京農林学校は帝国大学に併合されて農科大学となり、1894年にはその附属施設として初めて大学演習林が房総半島の東南部に位置する清澄に設けられた。これが、今日の東京大学千葉演習林である。引き続いて、地域の生態的条件、教育研究目的に応じて、北海道演習林（1899年）、秩父演習林（1916年）、愛知演習林（1922年）、富士演習林（1925年）、樹芸研究所（1943年）、田無試験地（1929年）が設置された。現在、当演習林はこれら7つの地方演習林と本部から構成されている。千葉演習林は暖帯林及び中間温帯林に位置し、その面積は約2,200ha、スギ、ヒノキ、マツなどの主要林木の育成技術と持続的森林施業に関する試験を100年余にわたって実施してきた。また、モミヤツガ、広葉樹からなる天然林を有し、これらの試験研究、貴重な天然資源は学内外の様々な分野の研究・教育に多大の貢献をしている。また、近年では、自然史や立地生態系に関連した調査、研究が幅広く行われている。

北海道演習林は亜寒帯に位置し、その面積は約22,800ha、択伐施業の実証的かつ理論的研究を通じて林学ならびに北方林業の発展に寄与してきた。特に1958年以降、北方地域の森林の持つ環境保全機能と木材生産機能との調和を図る森林施業実験（林分施業法）が行われ、その成果は国の内外から高い評価を受け、この施業法の提案者である高橋延清名誉教授はエディンバラ公賞を受賞している。各種の試験林が造成され、また奥地天然林には11,000haに及ぶ鳥獣保護区が設けられ、北海道の森林動植物に関する各種の調査・研究に利用されている。遺伝子資源・生物資源の宝庫として世界的に貴重なフィールドである。

秩父演習林は温帯に位置し、その面積は約5,800haである。その山容は険しく、森林環境は変化に富み、生物相もきわめて多様である。また、大面積にわたる貴重な原生林を対象に森林生態系に関する調査・研究が数多く行われている。また、育苗・育林技術、天然林の更新、中部山岳林の施業法などに関する研究も行われている。そのような多様な森林を背景に、当演習林は森林植物学、森林土壌学、森林土木学など多くの実習教育の場となっている。

一方、愛知、富士、樹芸、田無の演習林は、主に林学個々の専門領域に対応した特別な研究・教育林として設置されている。

愛知演習林では、低生産性林地を対象として森林水文ならびにせき悪地の造林法に関する研究が主に行われている。森林水文に関する60年余にわたる量水観測は、わが国における土壤保全、水文研究の科学的、技術的発展に重要な役割をはたしてきた。さらに、今日では、河川の不安定化、洪水の増大などで苦しんでいる熱帯地域への国際協力の面でその貢献が期待されている。

富士演習林は富士山麓山中湖畔に位置し、森林の保健休養機能の開発及び評価を中心的課題としている。

樹芸研究所は伊豆半島南端にあり、特用樹木の利用と育成に関する基礎研究と温泉熱を利用した熱帯・亜熱帯産樹木の育成試験が実施されている。

田無試験地においては、造林学、森林植物学、森林動物学などの生物系諸分野の圃場実験、室内実験などが行われている。事務部、研究部からなる演習林本部は弥生キャンパス農学部設置されており、各地方演習林を有機的に結びつける役割を担っている。

事務部は、庶務、会計、管財、用度の4掛からなり、全演習林の予算、人事、国有財産管理などを統括している。

研究部は弥生キャンパス内にあり、演習林全体の試験研究計画の円滑な実行を支援・統括する役割を担っている。また、全演習林にまたがる総合的なプロジェクト研究の立案と実行、森林科学その他専攻、他分野との共同研究を推進する企画・調整機能を有するとともに、所属する各教官はそれぞれの専門において独自の研究を進めている。一方、「演習林報告」及び「演習林」の発行、森林科学関係雑誌の受け入れによる図書館機能、各演習林における気象観測結果のとりまとめと公表、演習林の各種基本データのデータベース化とその提供などの業務が行われている。現在、インターネットに接続されたネットワークシステムが導入され、各地方演習林を結ぶ枢軸としての研究部の情報機能が一層大きくなっている。さらに、大学院農学生命科学研究科森林科学専攻の協力講座として、森林生態系学、森林遺伝子科学、森林情報・システム学、森林水資源学の4分野からなる森林生態圏管理学大講座を組織し、博士課程及び修士課程の学生を受け入れて大学院教育を行っている。

演習林の活動

研究活動

地方演習林研究活動報告

千葉演習林

ヒノキ人工林造成過程における遺伝的多様性の変動

人工林、特に収穫までに 100 年近い長期を要するヒノキなどの樹種では、成林の安全性の確保が重要であり、それを保証するためには、林を遺伝的に多様な状態に保つことが有効である。ところが、現在のところ、人工林の造林、保育等の過程での、集団の遺伝的多様性の変化については、ほとんど明らかになっていない。そこで、本研究では、秩父演習林における天然林と人工林の遺伝的多様性の比較、樹芸研究所における人工林の取り扱いによる多様性の変動の追跡、民間苗畑における育苗過程における多様性の変動の追跡、また、千葉演習林や演習林研究部における遺伝子の分析等を通じて、ヒノキ人工林の遺伝的多様性の実態を明らかにする。これまでに、育苗過程において、自家受粉に起因すると思われるホモ接合体の減少やクローン化による多様性の変動状況、天然林と人工林の遺伝的違いなどについて明らかにした。

人工林における雑草木群落とその動態に関する研究

房総清澄山地のスギ人工林における雑草木群落の性質とその動態に関する調査および解析結果をふまえて、遷移の観点からの皆伐後の幼齢林から老齢林に至る群落組成の長期的変化の特徴や、群落動態に及ぼす立地や造林施業の影響等についての検討をおこなった。同時に遷移の観点からみた群落の状態、植生パターン、動向等による評価を基本において、スギ人工林における雑草木管理の必要性・効率化についての若干の意見をまとめた。

スギ・ヒノキ人工林における長伐期、複層林施業に関する間伐方法の研究

千葉演習林のスギ、ヒノキ人工林の面積は約 800ha あり、そのうち 60 年生以上の伐期に達した高齢林が約 50% を占める。今後これらの高齢林の施業方法として、ニホンジカの食害等を考慮し、皆伐面積を極力控え、教育・研究に必要な面積、年 1 ～ 2ha とし、その他の人工林は長伐期林に移行する。したがって、益々高齢の人工林が増加する。現在、この高齢人工林を健全に維持するために間伐方法の検討を行なっている。平成 9 年度から次の 4 種の間伐方法を実施し健全な高齢林の造成を図っている。

1) 環境保全型間伐法

本間伐法は過密高齢林分を比較的低い間伐率により、個体間競争を緩和し、林床植生が繁茂する健全な林分の造成を目的とする。

2) 長伐期施業型間伐法

本間伐法は長伐期施業を想定し、間伐により最大限の利益を得ると同時に将来の大径良質材の生産を目的とする。

3) 複層林施業型間伐法

本間伐方法は複層林施業を念頭にいたもので、長伐期施業型間伐より、さらに強度な間伐を行ない、林床に植栽した下木の成育に必要な林内照度を維持する事を目的とする。

4) 帯状間伐法

本間伐法は主策線に対し魚骨状に 20m の幅で伐採区、残存区を繰り返し、本間伐法の長所、短所を明らかにする。

スギ人工林におけるスギカミキリ被害の発生機構解明

千葉演習林でスギは最も主要な造林樹種である。今日まで千葉演習林でのスギカミキリ被害はほとんど無いに等しかったが、現在では演習林周辺の開発による環境変化の可能性があり、また、職員の減少から育林施業をこれまでと同様に行うことは難しく被害の発生拡大が懸念される。よって、千葉演習林におけるスギカミキリ被害の実態とスギカミキリの生態を把握すべく調査を行った。若齢林から老齢林までのスギ人工林を数ヶ所モニタリング林分として設定し、ダンボール巻きトラップにより毎年の発消長を記録している。捕獲されたスギカミキリを用いて繁殖させ、スギ丸太に幼虫密度を変えて接種することによりスギカミキリ被害の密度効果を調査している。モニタリングしている林分ではスギカミキリの徐々に減少しており、被害木の増加も見られなかった。今後は他の林分での調査・モニタリングも必要であると思われる。接種によるスギカミキリの飼育は成功したので、今後密度効

果や野外生立木での接種も考えた研究計画を策定し、スギカミキリ被害の発生予察に役立つデータを蓄積し、システムチックな防除体制を確立する予定である。

総合対照流域法による森林－環境系の応答解析

森林が環境に及ぼす影響を、対照流域法を用いて総合的に解析することを目的として、2林班 C 1 小班に袋山沢試験地を設定した。試験地はひとつの集水域 (C 流域、2.03ha) からなり、北側の A 小流域 (0.80ha)、南側の B 小流域 (1.09ha) および残流域に3分される。植生はスギ、ヒノキ壮齡人工林である。A,B,C の3流域にそれぞれ量水堰堤が設けられており、流出水量・水質、堆砂量、浮遊砂濃度などを観測している。各流域の中では、降雨が樹冠に触れてから溪流へ流出するまでの経路に沿って、樹冠通過雨、樹幹流下雨の水量と水質、地表面流の発生場の分布、不飽和土壌水の深度分布と水質、地下水位の変動と地下水水質、地温、土壌中 CO₂ 濃度などの観測を行った。平成 10 年度に B 小流域の森林を皆伐した。今年度以降は皆伐の影響を重要課題として解析する計画である。これまでに A,B 小流域で観測された流出量を比較したところ、年流出量では A 流域の方が多いいにもかかわらず、基底流出の逓減時の流出量は B 流域の方が多いという結果が得られた。

ヤマビルの生態

房総半島南東部では 1985 年頃からヤマビルの大量発生が認められるが、防除方法を考える上で重要なヤマビルの生態についてはほとんど明らかにされていない。ヤマビルの総合的管理（密度低下、分布域の局限化など）システム確立の基礎として、当地域における個体群変動要因、生活史、生息環境要因などを明らかにする。そのため、千葉演習林全域およびその周辺において、定点および一定ルートにおける定期的な野外個体群の採集を行い、ヤマビルの分布、生息数および寄主動物等を調査している。天津実験室において、給餌を伴う飼育個体の観察から生活史を解明している。清澄作業所管内の林内にデータロガーを設置し、生息場所の温度と湿度を測定している。これまでの調査からヤマビルにとってニホンジカは好適な寄生であり、また、運搬者であることがわかった。ヤマビルはふ化から産卵までの最短期間は5ヶ月であると推定された。ヤマビルの生息場所である落葉の下の温度は林内気温と比較して変動幅が少なく、比較的安定していると思われた。

北海道演習林

北方天然林の持続的森林経営の実験

森林生態系の保全に配慮し、林分の個性を尊重しながら、健全で活力ある森林の育成を目指す「林分施業法」による大規模な施業実験を行い、約 40 年が経過しようとしている。実験の対象面積は約 2 万 ha あり、これを里山と奥地の2つの作業級に分け、10 年ないし 20 年周期で成長量に見合った弱度の択抜（材積伐採率 16～17%）を丁寧に行い、残った樹木の生育を促進させるよう、樹木の個体数、現存量、種の多様性の維持を林分ごとに図っている。施業実験林では林分施業法を広く普遍化させるため、択抜、補植などの林分をタイプ分けし、それぞれの林分に適した取り扱いを行いながら、森林を構成する生態系を解明し、森林構造と生産力を定量化し、より確実な後継樹確保のための技術や、これらを統合した情報管理システムの確立と最適な森林の取り扱い方について理論的・実践的な研究を行っている。

遺伝子資源の保全管理と利用に関する研究

本演では 1952 年に林木育種の研究が開始され、成長が速く耐病性や耐鼠性などに秀でた樹種に関する研究および育成が行われてきた。現在ではカラマツ属やカバノキ属の樹木を中心に、主に北方圏の諸外国から種子を収集・育苗し、開葉や黄葉などのフェノロジー特性の調査や DNA 分析による種間関係の解明を行っている。また、全演協の共同研究で、前年に引き続きナラ類の種子交換を行い、発芽時期、開芽、紅葉のフェノロジー調査を行った。さらに、産地別に植栽されたミズナラの初産齡と樹木サイズとの関係を調査した。

一方、天然林において、トドマツとエゾマツの遺伝的多様性を評価するために、産地標高の異なる家系を対象に、成長や繁殖特性に関する調査を行った。その結果、高標高の家系と低標高の家系では様々な点で特性が異なることが明らかとなった。さらに、トドマツについてはアイソザイム分析を行い、標高による形質の違いを遺伝的側面で検証し、加えて択抜施業がトドマツ個体群の遺伝構造に与える影響について検討を行った。

天然林の長期観測大面積プロットによる林分動態の解析

天然林では樹木の生育分布が均一でなく、わずかな立地条件の差の影響を受けやすいので、その動態を把握するためには十分な個体数と現存量のある箇所で大面積プロットによる継続調査が必要となる。また、樹木の寿命は非常に長く、環境変化に対する反応速度が遅いため長期的な継続調査によ

て個体の成長、枯死、更新の状況を把握することが不可欠である。これらについての良質な情報は大面積プロットにおける長期観測でしか得られない。本演では前山保存林に 1992～1993 年に 36ha、岩魚沢保存林に 1994 年に 19ha の大面積プロットを設置し、個体ごとの成長、進界・枯死木の記録測定を 5 年毎に行うことによって森林の動態を長期モニタリングを実施している。1997～1998 年に前山保存林プロットの測定を行った。

人工林育成技術と施業法に関する研究

本演では、山火事跡地、風害跡地及び天然更新の難しいところを中心に、これまでに約 3,463ha の人工林を造成してきた。これまでに植栽された樹種数は、針葉樹 58 種 13 変種・広葉樹 48 種 7 変種で、その多くは林木品種改良を研究目的として、国内外より導入したものである。このうち事業的造林樹種としては、トドマツ・アカエゾマツ・エゾマツ・ストロブマツ・カラマツ・グイマツ×カラマツ F1・ヨーロッパトウヒ・シラカンバ・ヤチダモ等であるが、第 10 期(1986 年～1995 年)以降は試験的なものを除き、自生種以外の造林は実行していない。また、ミズナラ・ハリギリなど広葉樹林の造成を積極的に行っている。今後、これらの人工林は試験林を除き、間伐期に到達した各種人工林に対しては、機械化による間伐システムの開発や林内更新法の確立をめざし、また択伐施業地内の人工林に対しては、皆伐せずに針広混交多層林に誘導することを目的として、針葉樹と広葉樹との混交化を調整する間伐を積極的に進めるとともに、保育の段階でも侵入した広葉樹の本数調整を行なう等の方法を取り入れることにしている。

風害地の森林形成過程に関する研究

1981 年(昭和 56 年)、北海道を襲った台風 15 号は本演の森林にかつてない大被害をもたらし、被害面積約 8,700ha(内、激害地 3,100ha)、被害材積約 81 万 m³に達した。このため、多くの施業実験地や試験地が壊滅するとともに、広大な無立木地も生じた。

これらの風害地に対し、風害直後からその森林復旧対策として、植林と地がきを施し、現在までようやく造林地が面積にして 1,154ha、そして地がき地のそれが 860ha を終了した。また、これらの復旧対策と関連して、風害地内に各種の試験地を設定し、植生の遷移、立地と天然更新状況、森林形成過程における森林土壌動物相の変化、菌類の動向、さらには水収支の変化等を課題とする研究を行ってきた。その結果、これまでに風害跡地は、その環境により森林の回復パターンに大きな違いがみられること、天然下種更新を促進させることによって相当の更新稚苗が期待できること、また更新樹種によっては共生菌や菌害がその生残に大きく関与していること等々が明らかとなった。このように、一度破壊した森林復元の技術確立は、極めて長期的な時間経過を必要とするが、これは地球規模での緑の回復のためにも重要な研究課題であるので、今期も本研究を継続する。

森林生態圏が生み出す水資源及び水辺の環境に関する研究

本演では、1983 年(昭和 58 年)より亜寒帯林の水収支の研究として、その基礎資料の収集を行ってきたが、その解析は不十分であった。そこで、今期(1996 年～2005 年)は、1)天然林の流域における短期及び長期の流出特性、2)風害地流域における降雨・流出関係の特性、3)河畔林の構造とそこに生育する生物種との相互関係、4)天然林流域における水質(pH、ミネラル、味、色など)の評価・解明のために、更なる研究を進めることとした。本演は、北海道の主要河川である石狩川の支流最上流部に位置し、寒冷多雪地の火山灰堆積地帯に位置しており、日本の他地域に比較してマイルドな応答関係をもつといわれている。従って、この地における広域な集水域の森林状態と併せて、降雨・流出関係を特定することは水文学の研究上意義深いことである。また今後、多様化するであろう水資源および水辺の環境に関する知的需要のなかで、森林生態系が生み出す水資源の醸成機能と森林流域の生態的特性の解明は、森林災害防止の観点からも重要な研究課題である。

秩父演習林

森林施業情報管理利用の高度化とシステム化に関する研究

地理情報と施業履歴情報を対としてシステム化し、森林での施業実験計画を具体化する研究を行っている。試験研究として行われる目的の異なる森林の取り扱いに関しても高度に配慮しながら、施業実験を編成し、摺り合わせて、限られた森林空間で多数の試験研究、施業実験を並立していくことに関する研究を行った。地理情報システムを活用すると共に、情報ネットワークを高度に活用し、試験研究、施業実験などのデータベースを、地図情報と合わせてイントラネットを通して高度にまた容易に用いることを可能とする施業情報管理利用システムを開発研究した。研究成果を、迅速に世界的に公開する方法や基準について検討した。施業実験においては、作業車両の走向移動や伐倒木の採材のしかたなど、リアルタイムでデータを採取、データベース化しながら、付加価値の高い資源利用の方法を、森林を攪乱しないやさしい技術で実現することも検討を行った。

山岳林における森林利用基盤整備に関する研究

地形急峻な山岳森林地帯における森林施業実験や試験研究を効率的に遂行するための基盤整備手法について研究した。林道や歩道及び軽軌条施設など、質の異なる施設を特色を生かしながら組み合わせ、広大な奥地林内に広がる試験地へのアクセスを容易にし、林況の異なる林分を広範に試験研究の対象とすることを可能とすることを目的とした。現在、自動車道路の規格で、道路延長が約12km、密度は2m/haとなり、試験地を多く沿線に設定しているが、より広範な規模内容での試験研究、施業実験の効果的な推進には、基盤としての道路網のさらなる整備が不可欠であることが明らかであった。地形急峻である故に安易な道路の開設は森林の破壊、攪乱に繋がるので、地形に応じて、モノレールなど自動車道路以外の規格・施設を適用することによって、森林にやさしい林道網を具現化する方法について検討した。現在の歩道を含む39m/haの林道網は、試験地や施業実験対象林分への最低のアクセス条件を確保したものである。自動車道や軽軌条施設などを組み合わせ、少なくとも現在の歩道程の密度の道路網によって、林地への到達性を実現することが適切であると考えられた。

大面積プロットによる山地帯天然林の生態系の解明

入川林道の到達にともない、1991年から、標高1,200m付近のブナ・イヌブナ原生林において、測量、水平距離25mの方形区内の樹木測定、リター回収などを始め、順次、気象観測ステーションや宿泊・休憩施設、樹冠観察・林内微気象観察用の鉄塔建設などを行ってきた。1994～1996年度に文部省科学研究費を得て、約25mの鉄塔を2基加え、再測量と毎木調査などを行った。林道の両側の16.5haの地域のうち、5.0625haの毎木調査を終了し、72種の樹木を記録した。優占種はイヌブナ（胸高断面積合計12.16 m²/ha）、ツガ（10.44）、ブナ（7.21）であった。

さらに1998年度の文部省科学研究費により、前回毎木調査を行った地域のうち3.9375haで2度目の測定を行い、新た1.8125haを調査した。

1998年度も微気象観測（5つの階層における気温、日射量）、樹冠部の昆虫群集、ロボットビデオカメラによって撮影した映像の解析（フェノロジー）などの研究を森林科学専攻の研究室と共同で行った。

大型野生動物の個体群管理のための基礎研究

本（1998年度）は当演習林内に開通する国道140号線の工事や交通の、自然環境への影響を明らかにするため、ツキノワグマ、ニホンザルなど個体群の動態を中心に調査している。ツキノワグマについては、国道周辺の3カ所、入川林道周辺の4カ所の計7ヶ所で、捕獲器を使って雌2頭、雄7頭を11回捕獲し、標識、計測、資料採集を実施した。国道周辺の捕獲個体数が多く、また、また雄の新捕獲個体数が多かった。

ニホンザルについては、1998年3月と1999年2月に、国道周辺で捕獲された雄2頭に発信器を装着し、テレメトリーによって行動位置を確認した。主として川又から豆焼橋・曲沢の間での行動が確認された。

国道周辺において、ニホンザル、ニホンジカ、イノシシによる農作物の被害調査を行った。とくにニホンザルによる被害が多く、キャベツ、カボチャ、トウモロコシ、大豆、大根、白菜等による被害があった。

土捨て場跡地の植生回復

奥秩父トンネルと雁坂トンネルの開削によって生じたズリが、ワサビ沢とトウバク沢に埋め立てられた。緑化工がトウバク沢では平成7（1995）年と平成9（1995）年に、ワサビ沢では平成9（1997）年にが施工された。捨て土の安定状態をモニタリングするために、植生調査を行った。

シカ防護柵の内外で、客土、播種を同じように行った3区をくらべると、平均植被率、最大植物高において差が認められない。昨年度はシカの食害によって、柵の外で平均植被率と最大植物高が小さい値となったが、本年度はノウサギ以外の糞は確認できなかった。シカの出現が少なかったのは、チェーン脱着場と休憩施設の建設のために工事関係者の出入りが多かったことによるものと思われる。

緑化のために行われたヨモギ、イタドリ、コマツナギ、ヤマハギ、メドハギの5種の播種によって、播種種が被度に占める割合は、ワサビ沢の柵外で96%、ワサビ沢柵外で87%、トウバク沢で83%であった。緑化工の行われた場所は、メドハギ、ヨモギ、コマツナギの3種が寡占する多様性の低い群落となっている。

秩父地方山地帯天然林の更新に関する基礎的研究

当演習林内には人為的な攪乱がほとんど入っていない天然林（原生林）が保存されている。そのうち1988～1993年に太平洋側の山地帯林を代表する林分であるブナ・イヌブナ林に2カ所、シオジ林に2カ所、900～2500 m²の調査区を設置して、樹木の更新問題をあつかう上で重要な基礎資料となる種子落下数の季節および経年変化調査を、ブナ、イヌブナ、シオジ、サワグルミを中心にリタートラッ

ブを用いた方法により行っている。1988～1998年でそれぞれの年間種子落下数が最大であったのは、ブナが1993年の282個/m²、イヌブナが1988年の944個/m²、シオジが1996年の949個/m²、サワグルミが1997年の401個/m²であった。またそれぞれの年間種子落下数が100個/m²以上であった年は、ブナが1993、1996年、イヌブナが1988、1993、1995年、シオジが1988、1990、1993、1995、1996、1998年、サワグルミが1990、1991、1994、1997年で、樹種ごとに種子の豊凶特性が異なっていた。この他に、葉、枝など他器官の落下量の季節および経年変化、デンドロメータによるブナとイヌブナの胸高直径の季節および経年変化などの調査も行っている。

秩父山地亜高山帯域における風倒跡地の更新過程

標高1950m付近に位置する1959年15号台風(伊勢湾台風)により生じた風倒跡地に1971年に130m²の調査区を、隣接する1840年頃と1880年頃の2度の風倒により更新した林分に1989年に438m²の調査区をそれぞれ設定して、風倒跡地の更新過程を調査している。前者の調査区では風倒後35年目までに高木層でダケカンバを中心にシラベとウダイカンバが混ざって優占する林分となり、設定以来7～8年毎に行った測定調査から亜高木層以下でコメツガの割合が徐々に増している様子が明らかとなった。一方、後者の調査区は成長錐により採取したコア試料の解析結果から、風倒後110年目までにシラベとカンバ類が優占する林分からコメツガ林に移行する過程にある林分と推察された。これら二つの調査区の更新過程がどのように繋がり、また後者の調査区が今後どのように推移するのかを、測定調査を定期的に行うことにより明らかにしていく。

愛知演習林

渇水時における都市近郊水源林の水資源供給量の評価に関する研究

水利の調整は極めて難しい問題であり、木曽川など多くの組織が水利権を有している場合は、後発の水利権者は極めて不利な状況におかれている。そこで、この研究では、瀬戸市などは木曽川にのみ水源を求めるのではなく、市域の水源を開発することも渇水回避の一つの手段として考えられるという立場をとる。具体的には都市近郊の水源林の整備、廃止されたため池の機能の回復を想定している。東京大学愛知演習林は潜在的に瀬戸市の水源に位置し、保安林として水源涵養林の指定を受けている。精度の高い水文資料を擁しており、自然科学的な側面からこの渇水において水源林からの流出の特性を整理することが可能である。また、この資料を基本にして、水源林の整備あるいは廃止されたため池の機能回復などの手段によって、渇水回避あるいは水資源開発が瀬戸市のレベルでどの程度可能なのかを推算してみることも比較的容易である。

森林水文に関する試験研究

試験流域の量水観測成果は、気象要素とともに観測以来70年の資料が蓄積され、きわめて貴重な学術的価値を有している。現在のところ、量水観測は降雨-流出系の観測体制であり、その種の研究が中心となっている。今後は、この貴重な森林量水試験の蓄積を継続発展させ、降雨遮断・蒸発散・斜面流出等の水文素過程別の研究と併せて、水源涵養機能のメカニズムを解明することを目標としている。

量水観測は流域の森林成長と同時に並行的に継続観測されることが学術的に貴重である。しかし、過去に遡って森林の成長過程を数量的に追跡する方法論が確立されていないことで、森林状態と雨水流出との関連づけが未だ十分に行われておらず、今後の研究テーマの一つである。

犬山地区では斜面ライシメータで集中的な素過程別収支観測が行われ、山地における水循環機構を詳解するための予備的研究が進められている。この研究は将来、小流域レベルに拡張されることを前提とした研究であり、降雨-流出系の制約にとらわれない研究手法である。

蒸発散の直接測定が可能となり、これと組み合わせて森林微気象、樹液流、降水遮断の研究が赤津でも進展しつつあり、物質循環と水循環の関係の観測・解析と同様に森林生態学と水文学を結び付けた研究が計画されている。

痩せ地における森林造成に関する試験研究

森林の環境保全機能(水源涵養、洪水防止、保健休養等)を維持しつつ木材生産を行う森林施業法を確立することも、愛知演習林における試験研究の重要な柱である。

天然生林については、1968年からモザイク状皆伐更新法試験(沢を中心に左右交互に0.1haを上限に伐採、植栽)を実施している。これは、一斉皆伐に比較して、土壌の保全、あるいは動植物への影響の軽減、台風等気象災害の防止等、有効と考えられる。

人工林においては、間伐法を変えたスギ、ヒノキの総収穫量の比較試験、植栽密度を変えたヒノキ林の生産量の比較試験、恒続的収穫と森林の公益的機能の発揮を両立させる複層林造成試験、成長が劣る林地における肥培効果の比較試験等を行っている。

都市近郊林に関する試験研究

愛知演習林は立地条件から、東海都市圏を取り巻くグリーンベルト地帯にあるので、森林の多角的機能の解明を目的とする研究実験林としての位置づけを明確にし、都市近郊林・環境林に関する自然科学、社会科学を複合する総合的研究が始まろうとしている。

計画段階の項目が多いが、具体的には、都市部と森林との相互作用を水・大気・土壌を媒介として測る自然科学的研究、都市住民あるいは都市部・農村部の産業活動に及ぼす森林環境の機能評価に関する社会科学的研究、森林生態系を保持しながら都市公園の機能を有する森林域の造成実験およびそれに関する各種の試験研究が挙げられる。

樹芸研究所

異なる繁殖方法により造成されたヒノキ人工林分の遺伝的多様性

ヒノキの人工林の遺伝的多様性の実態を解明するために、静岡県指定採種母樹林分と、樹芸研究所青野試験林に植栽されたその実生次代林分とのアイソザイム遺伝子の頻度を比較した。その結果、林分全体としての遺伝的多様性はおおむね維持されているものの、特定の個体からの採種が影響していると思われる、遺伝的の偏りが認められた。すなわち、遺伝的多様性の維持のためには母樹の偏りがなような採種を行う必要があると考えられた。次に、実生林分とそれから誘導したさし木林分のアイソザイム遺伝子の比較を行った。さし木林分では同一クローンに属する複数の個体が存在するため、ヘテロ接合体率の期待値はもととなった実生林分に比べて著しく減少した。しかし、そのような個体を同一の個体とみなすと、実生林分とほぼ同程度のヘテロ接合体率を示し、遺伝的多様性は維持できていると見ることができた。

クスノキ稚樹の被陰条件下における成長と葉の形態的变化

クスノキ人工林の非皆伐更新について研究する目的で、クスノキ稚樹の光環境適応性について樹芸研究所青野作業所苗畑において実験した。寒冷紗で作った被陰装置により相対照度 100, 55, 30, 8, 2% と相対照度環境の異なる条件を与え、クスノキ 1 年生稚樹の成長経過及び、環境に適応するための充実葉の形態的变化と気孔数について調査した。その結果、クスノキ 1 年生稚樹は相対照度が比較的低くても生存しうることが示された。しかし、非皆伐更新を考える場合、相対照度は 30% 以上必要なことがわかった。また、クスノキ 1 年生稚樹の充実葉は、相対照度のちがいに関係なく葉の単位重量当たりの気孔数はほぼ一定で、相対照度が低下すると比葉面積を増加させるように変化し、環境の変化に対応していることが示唆された。

東京大学農学部附属演習林樹芸研究所青野試験林の植物

樹芸研究所の植物相については、1943 から 1944 にかけての木村及び猪熊・倉田の調査がある。

樹芸研究所では、草地や薪炭林を人工林に転換したこと、1970 年代以降薪炭林が無手入れのままに放置されたことなどから、管内の森林環境は設立当初に比べると大きく変化した。そこで、青野試験林の植物相の現況を調査して、樹芸研究所における教育・研究に役立てると共に、森林環境の変化と植物相の変化との間の関係についても考察すべく、1995 から 1996 にかけて植物調査を実施したものを取りまとめた。

管内で確認された植物は、しだ植物 88 種類、裸子植物 6 種類、双子葉植物離弁花類 247 種類、同合弁花類 143 種類、単子葉植物 118 種類計 602 種類であった。立地環境によって異なる植物相が認められ、全体として種の多様性が保たれていることが明らかになった。また、約半世紀を隔てた植物相の比較から、草原性植物の消滅と減少、アオモジ及びヒロハコンロンカの繁茂、ヤナギイチゴとフウトウカズラの増加、シダ植物の希少種の消滅、湿地性植物の消滅と減少、帰化植物の増加などが指摘され、これらは主として青野試験林の環境変化を反映した結果であると考えられた。また、地域の植生相としては比較的希少な 13 種の植物を抽出した。これらのことから、今後、試験林の植物多様性を保全するために、草原環境と湿性環境の確保が必要である。

田無試験地

アカマツ 1 年生苗の外生菌根形成と菌叢発達の季節変化についての研究

マツ科樹木は一般に外生菌根菌によって外生菌根を形成し、相互に水分・養分の受渡しをする共生関係をとりむすぶ。外生菌根は、マツの成長に大きく影響し、極端な場合外生菌根ができないとマツは生長できないケースも知られている。外生菌根形成や菌根菌菌糸体の繁殖は様々な環境条件によって影響されると考えられるが、当然季節によっても大きく影響される。これまで、春から秋にかけて菌糸体の発達が盛なことなどが報告されているが、菌種によって季節変化のパターンが異なることも知られており、季節環境と菌根形成や菌糸体の発達との関係を正確に理解するためには、さらなるケーススタディーの蓄積が必要でありアカマツ 1 年生苗木を用いて自然条件下での外生菌根形成と菌糸体発達の季節変化を調査研究した。その結果、菌根量、菌糸体量共に、平均すると、根の伸長と平行して変化する傾向が見られた。菌根量が根の生長に相関を持つのは、菌根形成が一般に新たに形成

される細根で起こるためと考えられる。また、菌糸体量が根の伸長と平行しているのは、菌糸体が菌根から発しており、その菌根が根の伸長と平行しているためと解釈できた。

森林生態圏管理学協力大講座ゼミ

第1回 4月23日～25日（於：千葉演習林）

「シカ食害地における植生回復」

中村 昇講師

千葉演習林内3ヶ所の柵で囲うなどしたシカ食害地で植生の回復状態を調査した。調査方法は被度、植栽苗の被害程度、土壌流亡などである。2月から3月にかけて調査した結果、柵内の被度は高く、苗木の被害も柵外の苗木ほどではなかった。今後の対策として柵内苗高平均が1 mを越えたものは柵をはずす、崩壊しつつあるところは杭を打つなどして土を止める、ヘキサチューブ、大苗の導入、林床をきれいにしすぎない（歩きにくくさせる）などをし、当面は緑化を目的とするということであった。

「ヤマビルの生態と防除 - 房総半島南東部に位置する東京大学千葉演習林を例として -」

山中征夫助手

千葉演習林内で大量に発生しているヤマビルの形態、分類、分布、生活史および防除などについて発表された。ヤマビルは陸棲種のなかで唯一の吸血種であることが最大の特徴で、ふ化個体が成熟するまで4～5回の吸血が必要、産卵まで約5ヶ月を要し、一個体当たりの平均産卵回数は2～3回。寿命は不明だが、一回の吸血で長いものでは約2年間絶食状態に耐えうる。索餌、交尾行動とも季節に関係なく気温10℃湿度60%以上で可能である。防除対策として餌源である寄主動物（特にニホンシカ）の生息密度低下、生息場所である林床に直射日光を入れ乾燥させるような森林施業、天敵を発見すること、また自衛策としてヤマビルの生息域に入る場合は肌を露出させないこと、市販の防虫剤等を使い足元からの侵入を防ぐことなど、最終的にはヤマビルの生息密度低下、分布域の極限化につながる総合的管理システムの確立に向けた取り組みなどの紹介があった。

「演習林の地表徘徊性甲虫類について」

前原 忠助手

地域分化が顕著に見られ、地域固有種も多い地表徘徊性甲虫類の環境評価判断基準を明らかにし、人間と違った角度から環境を再評価することを目的として調査を行った。ピットホールトラップ（落とし穴式トラップ）を使用し、異なる環境下での分布及び群集の種構成について調べた。その結果、北海道演習林における健全林分と衰退林分では、衰退林分の方が枯損により大きなギャップがあるため多様な環境になり個体数が多く、富士演習林の湿地林、閉鎖人工林、広葉樹疎林、老齢林、湖畔林では、湿地林で多様性指数が大きく、老齢林、開放林は個体数が多いが種数は少ないなどの特徴が見られた。秩父演習林の国道工事のズリ埋め立て地では、工事の進捗に伴って各調査区での種類相に変化が見られ、いくつかの種において選好する環境が示唆された。

第2回 5月29日

「山林用植栽機械の開発」

仁多見 俊夫 助教授

スウェーデンでは、シルパノバという植栽機械が実用化されているが日本では、今まで実用に耐える植栽機械がなかった。そのためその開発を5年計画で行った。

スウェーデンの技術がそのまま使えない点は、一つには、日本の斜面は急峻であること、もう一つには、気候的に下草が繁茂しやすいので、日本ではスウェーデンより大きな苗を使わなくてはならない点である。

現在、人力による植栽は、200～400本/人・日である。この機械の効率は、現在人力の2倍であるが、将来的には4倍にしたいと思っている。

人力での植え付け手順をこの機械に機械で置き換えてみると

- | | |
|---------|---|
| !穴を掘る | →ユニットの先端に付いているドリルで穴を掘る
(深さは3段階、オペレータが設定) |
| "用土をよける | →ドリルの外側のドラムに用土を貯える |
| #植える | →ドリルの先端が割れて、空気圧で苗を下に送る |

\$用土を戻す。土砂を土に盛る。周囲を踏み固める。
→空気圧でドラム内の用土を戻す。

となるが、人力での作業のように丁寧には出来ない為、周囲をきちんと踏み固めなくても活着のいいポット苗を用いる必要がある。また、ポット苗は規格化されなくてはならず、その大きさは、直径10.5cm、高さ40～55cmである。また、この機械は車両に対して左右2条ずつ、計4条植えである。

この機械は、傾斜地に対応する為、ドラムを縦方向に16分割して傾斜地で用土が外にでないようにしてある。また、ビニールポットのようにそのまま植栽してはいけないものについても、対処できるようになっている。

現状では、石があった場合、現在自動化されてはいないので、オペレーターが自動解除→少しずつ→自動に戻すという作業が必要である。

また、ドリル先端部に強い力が掛る為、ピンが破断するというトラブルもあった。

運用面では、今まで日本では実績のないポット苗の育成技術の確立が必要と言う課題がある。

現在、この機械を用いた植栽の活着率はA判定82%という成績になっている。

将来的には海外でも使えるものにしたいということであった。

また、井出先生からは、人力で対応できない巨大苗を機械化した方がいいのではないかというご意見もあった。

苗の生産を含めた、作業システムとしてのバランスの課題であり、現状は可能な技術を具現化した点で評価できよう、とのことであった。

第3回 6月26日

「1995年国勢調査データを用いた山村の人口動向に関する一考察」

安村 直樹 助手

「山村振興法」が対象としている「振興山村」（以下山村）について、その近隣都市に着目し、山村からの所要時間や近隣都市の人口規模と山村の人口動向との関連について考察した。1960年代には近隣都市への所要時間に関係なく、いずれの山村においても人口は減少していたが、高度成長期後の1970年代以降は所要時間が短い山村ほど人口の増加している割合が高いことがわかった。このように山村の人口動向と所要時間に密接な関連が見いだせたのだが、1990年代になるとその関連は希薄になり、所要時間が人口増加には寄与しないことが明かとなった。また、人口の増加している山村についてその近隣都市の人口規模を見ると、10万人未満のものが半数以上を占めた。以上より山村の人口増加策としては、道路やトンネルの整備等によって近隣都市までの所要時間を短縮したり、人口規模の大きい近隣都市を重点的に振興させるというやり方は必ずしも有効ではないと考えられる。

第4回 7月17日

「1. 森林の成長と水収支」

「2. 都市林・都市近郊林と微気象」

芝野博文助教授

1. 森林の成長と水収支

愛知演習林の量水試験・気象観測設備紹介があった。

瀬戸市は70年ほど前ははげ山であったが、砂防緑化工事により森林が回復してきている。

観測データで、森林が成長しているのに、流出量が増大し損失量が減っているという常識では考えられないことが起こっている。また、短期水収支でみると蒸発散は増えている。

それについての仮説は、今まで無視されてきた深部への浸透を考慮に入れることで説明される。森林が成長するに連れて土壌深部が乾いて基岩深部への浸透が減っているのではないか。

この仮説によると従来説明できなかった2つの現象が説明できる。

すなわち、穴の宮で昭和30年代に行われた拡水工法の実施による水収支への影響として10年ほどの損失量の増大期間が認められるがこれは、浸透を促進したことで、深部浸透が増大し、損失量の短期的な増大を招いたと解釈できる。また、流況曲線の湧水流量が森林の回復とともに減少することも、土壌深部の乾燥がもたらしたものと解釈できる。

2. 都市林、都市近郊林と微気象

イギリスの文献の紹介を行った。

蒸発は熱収支と風の乱れの2つの要因からなる。一般的に都市に樹木を植えるのはよいとされているが、汚染物質が拡散しにくいなどマイナス面もある。

都市は気温が高く温度も下がりにくい。都市における熱収支の配分をみると、顕熱が多く潜熱がすくない。

また、微気象的には森林と類似した構造としてビルディングの存在が大きな粗度をもたらしており、空気力学的な抵抗を小さくしており、蒸発がおこりやすいという特徴をもっている。

シミュレーションによるとグリーンベルトを入れると都市気候が緩和される。

熱収支と実蒸発散量の比として定義されるプリーストリー・テイラーの係数が都市では、多雨年と乾燥年とで大きく異なるが、森林域ではこれが安定した値であることをみると都市部で乾燥年に気温が上昇すること

都市化によって気温が上昇していくプロセスが理解される。

第5回 8月28日

「ニホンザルの保護管理計画」

蒲谷 肇講師

野生鳥獣の被害が全国的に増加していることから、その対策のために「鳥獣保護及狩猟に関する法律」が改正されようとしている。この改正案には現在都道府県が処理している捕獲許可を市町村に移す内容が含まれている。そこで、市町村が鳥獣の適正な保護管理が行えるように、都道府県が広域的な観点から保護管理計画を立案しつつある。ニホンジカについては昨年までに北海道、岩手県など8県で作成されているが、ニホンザルについては県全体として作成されたのは千葉県のみである（栃木県では日光・今市地域について作成された）。

サルによる林業被害、捕獲数ともに全国的に増えてきている。千葉県（関東圏で最もサルが多い）では被害額が1億円となり、ここ4年で4,000頭以上から5,000頭以上に増えてきている。

千葉県ではサルの群れ数、生息域面積、個体数について次のような変化があった。1972年、31群、260km²、推定1,500～2,000頭、1996年、65群、560km²、推定5,000頭以上、千葉県高宕山のT-1群は、天然記念物に指定される前の1954年には60頭であったが、餌付け後、2群が分裂し、多いときは総数で330頭となった。

農業被害は餌付けの影響だけでなく農業の機械化等で水田や畑に人が行かなくなったことが原因と考えられる。

対策としては、電気柵・電牧ネットフェンス、駆除等が考えられる。

雌ザルの避妊（志賀高原等）という方法もあるが、人工的に高齢社会を作ってしまうという批判もあり、直接、駆除した方がいいという考えがある。千葉県の駆除数は1993年がピークで734頭であった。この数でも毎年の出産数（約800頭）を下回っている。

電気柵は管理を十分行えば大変効果があるが、人間が柵の中で暮らさなければならないという点において多少の問題があるという意見もある。

山に広葉樹を植え、餌を増やすという手段もあるが、成林まで20～30年かかり、今すぐの問題は対処できない。

生態学的には1,000頭以上いれば種の保存はできるので、被害を減らすために1972年くらいの水準にもどすことも容認されるだろう。千葉県の保護管理計画は、主に公有林のある地域（コアエリア）で保護し、それ以外の地域（民有地、農耕地）で密度を減らすという方向を目指している。

第6回 9月24日～25日（富士演習林と秩父演習林の見学を兼ねる）

「クマの話・野生鳥獣と森林管理」

石田 健講師

朝一番に着いた最初のフィールド。まだかすかにヒノキの香り漂う小面積皆伐跡地。伐根にみる広い年輪幅は、初期生長の良さを表している。しかし、それは“とっくり病”とよばれる病気ではない“病理”現象。“とっくり病”のヒノキは、基部が肥大していて通直な幹にならない。肥大した基部は元玉から除かれ、材の商品価値を下げる。立地が（商品としての）ヒノキにとって良すぎるらしい。それでも、現場に隣接しているヒノキ人工林には、“とっくり病”のおきていない個体がある。良すぎる初期生長を支える立地条件の広がり狭いのか。ほんのわずかの斜面方位の違いしかわからない。

続いて、ブナとイヌブナからなる天然林。大面積調査プロット。シードトラップの設置されている林床はササ類による被植がない。森林観測のための足場は高さ26m。上に登れば演習林が見渡せる。サイバーフォレストのための映像記憶装置は故障中。ブナは豊作年。たくさんの堅果をつけた樹冠のシュートは重く垂れ下がっている。豊作年とはこういう状態のことをいうのか。登るより降りるほうが恐怖感強い。

ツキノワグマの捕獲装置を見に行く。想像していたものよりずいぶん小さい。ドラム缶の継ぎ合わせが基本構造。ここはよく捕獲できる場所とのこと。なんとなく獣臭がするような気がした。

富士演習林へ移動途中、深い谷をへだてた対岸のシオジ林をのぞむ。先日通過した台風の影響で大きなギャップができたとのこと。急な斜面につらなる林冠がその部分だけへこんでいるのが遠くからもみてとれる。シオジ林は崖錐地形に発達する。あんなにも急な斜面の途中でできた崖錐に生立して

いる樹高 45m の樹というのは、その不安定さ、というより絶妙のバランスを想像しただけで頭がくらくらする。

一路、山中湖畔の富士演へ。到着後、林内見学。富士山はあいにく雲の中。場所をセミナーハウスに移して、石田講師による講義。

『ツキノワグマと森林管理学』 石田 講師

講義の導入は、研究の舞台となる秩父演習林の森林植生概説から。秩父演習林は中生代にできた中生層と、古生代にできた古生層からなる。古生層からなる地形は河川の侵食に耐える。結果、深い谷が形成されて急峻な地形となる。そのことが、人間の利用を拒み、人工林は栃本集落周辺の狭い範囲に限られている。残存している自然林は、標高 1,650m 付近を界に、上部でシラビソの優占する針葉樹林、下部はブナ帯に属する森林植生となっている。また尾根沿いには、ツガ・モミなどと広葉樹からなる針広混交林、沢沿いにはカツラ・サワグルミなどの溪畔林が成立している。

ツキノワグマの捕獲調査について。演習林内の 13 箇所に生け捕りわなを仕掛けた。捕獲個体は、体重、足型、乳腺の発達、外傷痕などについて記録し、年齢推定のために小白歯を、血中ホルモンと DNA 分析のための資料として血液を採集した。個体識別には、マイクロチップの埋込と耳タグの装着を用い、また行動追跡の対象個体にはテレメトリー調査のための発信機を装着した。

調査結果から。1994 年の調査例として、メス個体の行動圏調査から 7 パッチが確認できた。隣接する行動圏パッチはかなり重複している。推定生息密度は 7~8 平方キロに一頭である。オス個体の行動圏は季節や年変動があり一定しないために、判定が困難である。しかし、捕獲個体の性比が 1 対 1 に近いことからメスの個体数程度は生息していると考えられる。ツキノワグマの体重には、季節変動や年変動がある。とくに、オス個体の季節変動は大きく、夏期の 1 カ月で体重は激減する。この時期、オス個体は繁殖相手の探索に集中することから、体重の減少は食べる間をおしんでもメスを探すという行動で説明された。一方で、メス個体の体重変動はオス個体に比べ小さい。

交尾後すぐに受精卵が着床しない着床遅延という生理機構がいくつかのほ乳動物で報告されていて、ツキノワグマにもある。ツキノワグマは、食料資源を季節変動や年変動の激しい植物資源に多く依存している。着床遅延は不安定な餌資源環境でメスの繁殖成功を高めるためのシステムとも関係がある。つまり、夏期に受精した卵は、その後の親個体の栄養状態により着床から出産までのプロセスをスタートしえるのか否かの選択を受ける。また、生まれてくる個体が 300g 程度と小さいことから育児段階でも親個体のコンディションにより子個体の生存が強く決定づけられる。このような、親個体による子の放棄現象（親個体は当然意識的ではなく）は親個体の生命を保証するものであり、メス個体は成功の見込みのない繁殖を早い段階でやり直すことができる。結果的には、変動の激しく、短期的には予想しにくい餌資源環境下で、寿命が長い大型ほ乳動物のメス個体の繁殖成功度を高める適応的な繁殖戦略であると考えられる。

近代化以前、“奥山”にあるツキノワグマの生息圏と人間の生活圏は“里山”というバッファゾーンで適度に分断されていた。近代化以降、人間の生活域は里山の開発とともに奥山に隣接するようになり、ツキノワグマと人間の干渉が顕在化してきた。ツキノワグマの保護管理のためには、まずツキノワグマの生活史を十分に理解することが重要である。そのうえで、干渉を仲裁する対応策が練られる（例えばクマ剥ぎ。クマは生きるのに必死で樹皮を剥いでいるわけではない。だから、その対策にも相応なもので効果がある）。また、秩父演習林の調査で言えることは、ツキノワグマはけっして少くない。人間の生活域に隣接し、重複さえもしながら生活史をまっとうしている。ツキノワグマを稀少価値として扱うことは現実的でない。近代化以降失われているクマとヒトの緩衝地帯の再構成はツキノワグマと森林管理を考えるうえで重要な方法論である。

第 7 回 10 月 23 日

「ブナ及びブナ林をめぐる生態学的諸問題」

梶 幹男教授

ブナ (*Fagus crenata*) は日本の冷温帯の極相種であり、その森林面積と資源量は日本の落葉広葉樹として最大である。蓄積量は 1950 年代に一億七千万立方メートルであったが 1980 年では七千万立方メートルにまで減ってきている。森林資源として有用なブナは近年自然保護の観点からも注目されてきている。一般に伐採するとその後の更新は不良となる。母樹保残による天然下種更新が試みられているが、ブナの豊凶の周期が長くかつ不安定であり、また、ブナ林の林床を覆うササ類との競合が天然更新による施業を困難なものとしている（苗場山に成功例がある）。

日本列島に広がるブナ林は森林の群集構造や、個体レベルでの分類学的差異（個葉のサイズの違い）などから、太平洋型と日本海型に分類されている。気候帯のことなる太平洋側と日本海側では、更新動態にも違いが生じている。最新の研究成果では、遺伝的な地理変異の解析の結果 8 型に分類された。このように、日本のブナとブナ林は生態的にも遺伝的にも地理的な変異があり、一様ではない。

ブナの更新阻害要因として、種子段階では、ブナヒメシクイ（鱗翅目）などの昆虫、樹上性のネズミ類や鳥類による食害がある。実生の死亡要因には、乾燥害、立ち枯れ（菌類の感染）、植葉性昆虫（鱗翅目幼虫）、吸汁性昆虫、森林性ネズミ類などが主なものである。そのうち、ブナヒメシクイによる堅果の食害は太平洋型のブナ林で顕著である。

ブナヒメシクイによる加害が太平洋型のブナに特徴的である理由は、太平洋側のブナ林の群集構造と気候条件が影響している。樹木の豊凶の生態的意義のひとつに捕食者の個体群のコントロールがあると考えられている。ブナヒメシクイの個体群の消長はブナの豊凶に影響されていて、広範囲で年と不作年が同調するブナ林では、ブナヒメシクイの個体数が押さえられる。しかし、太平洋側のブナ林には近縁種のイヌブナ（*F. japonica*）が混在していて、ブナヒメシクイはこのイヌブナも餌資源として利用している可能性がある。もし、これが事実とすれば、ブナに較べて豊凶間隔が短いイヌブナが混在していることで、ブナヒメシクイはブナ属2種の豊凶によってホスト種のシフトを行うことが可能となり、長期的にみて十分な餌資源を得ることができる。太平洋側のイヌブナの混在するブナ林では、ブナヒメシクイが高い個体数の状態で維持されることになる。その結果、太平洋側のブナではブナヒメシクイによる堅果の捕食圧が高くなる。また、気候条件の違いもブナヒメシクイの発消長に大きく影響している。日本海側は一般に積雪が多い。そこにあるブナ林は、ブナの花芽が展開するころには林床が雪で覆われている。地中で蛹化していたブナヒメシクイは春に羽化し樹上のブナの展開した花芽に産卵するが、この時期（ブナの開芽期）に林床が雪でおおわれているような環境では、ブナヒメシクイの生活史が完結しない。花芽の展開時期に林床に雪がない太平洋側で、この昆虫による食害が発生することになる。

ブナの展葉のフェノロジーが産地の違いで大きく異なっている。より南の個体（例えば九州産）が北の個体（例えば北海道産）に比較して展葉の開始が遅い。北の個体群ほど低い積算温度で反応し、春早く成長を開始することになる。成長可能な期間が絶対的に短くなる高緯度の個体群が年間成長量を確保するための適応として開葉を早くするのはリーズナブルな生態である。しかし、それは春の進み具合との兼ね合いしだいであり、分布の北限域では破綻する。早い開葉スケジュールが晩霜の被害に遭う確立を高くしていることが考えられる。このような、ブナの内因的な生態が温量的には十分に生息が可能な北海道の大部分にブナが進出できない理由の一つであると考えることができる。また、阿武隈地域や信州地域でブナ林が欠如しているのは、内陸性の気候によるブナの晩霜害発生が関与していると予想できる。

以上のように日本の“ブナとブナ林”は生態的に多様な存在である。その天然林施業技術は完成していない。

第8回 11月30日

「木造住宅における構法と木質材料」

中村 昇講師

世界のなかでも木造住宅が盛んな、アメリカ・カナダ・ニュージーランド・オーストラリア（木造住宅の国といわれている）とはちがい、日本の木造住宅はたくさんの構法があるのが特徴である。

構法には、在来軸組構法・ツーバイフォー工法・木質パネル工法がある。

- ・在来軸組工法

床（梁・桁）、柱、筋交い、屋根（母屋・垂木）からなる。

屋根を施工してから床、壁を仕上げていく。

- ・ツーバイフォー（三井ホームが有名）

昔 2 inch × 4 inch の材を使っていたことからこの名がつく。

（今は 38 mm × 89 mm）

壁は主に 2*4, 2*6 床は主に 2*10, 2*12 で構成される。基礎から床→壁を起こして立てる→1階→2階と作られていく。

- ・木質パネル工法（ミサワホーム・エスバイエル）

プレハブ住宅。断熱材（グラスウール入り）大型パネル（道路事情によっては中型パネル）で作られる。

- ・丸太組

丸だけでなく四角もある。日本では耐震性を確保するためにボルトを入れる。

在来軸組構法の耐震性を確保するには筋交いが大変重要である。

また、きちんと施工すればどの構法も耐震性は確保できる。）

木質材料には軸材料・面材料がある。

- ・軸材料 丸太・製材・構造用集成材・構造用 LVL(Laminated Veneer

Lumper)

構造用 PSL(Parallel Stand Lumber)

- ・面材料 製材・集成材・合板・パーティクルボード・OSB(Oriented Strand Board)・ファイバーボード(ハードボード・インシュレーションボード・MDF(Medium Density Fiber Board))

加工された木質材料は、そのままではねじれて使えない材を使う手段になるし、薄くするため乾燥も容易であるという利点がある。また廃材から生産されるものもある。OSBは安いし性能もよいのでよく使われている。

構造用組み立て材料は以下のものである。

パネル・Iビーム・ボックスビーム・トラス・プレカット部材

パネルには、断熱材としてウレタンを入れたものもある。(グラスウールより結露しにくく性能が優れている。)

最後に国産材を生かした工法としてパネル材が紹介された。

10 cm 角の軸、10 cm 角を半割りにした枠材、OSB の面材で構成されている。日本には部材断面の種類が多いので、なるべく少なくする。当然のことであるが、コスト的にも性能的にも外国産のものに匹敵するものを製造することができれば、十分実用化できるであろう。(まだ実用にはいたっておらず、発想段階。)実際に工務店が使ってくれて実績を示すことが必要である。そのためには地場の材を使い地場でつくるシステムの構築が必要である。間伐材の有効利用にもなる。

第9回 12月18日

「森林生態系における菌類の多様性」

松下範久助手

きのこは森林において1分解2菌根3寄生の役割を持っている。ナラタケはこのうち1から3までの役割をあわせもつ種類である。寄生的に働くものとしては、カツラやケヤキなどを枯らすナラタケ病がある。また落葉分解や倒木など腐生的に働いたり、ツチアケビと菌根をつくるなど共生的な働きもする。このように多様な役割を持つナラタケは日本に9種あり、さまざまな生態を持っている。青森県では、拡大造林期のアカマツ造林地に被害が多く、そのためスギに樹種転換する場合もある。青森県内での被害は、谷部の水田をはさんだ北斜面からはじまり、その後南にも拡大していった。調査地は100×50 mで、アカマツの樹高は7-8 mである。まず地際の皮をはぐと、マット状になった菌糸がびっしりとついており、菌の密度が濃いせいか、スギにもナラタケ病にかかっているものがあつた。症状はまず葉が黄色、1ヶ月程度で赤くなった後、1-2年で枯死するというものである。1963年に4000本/ha造林し、現在は500本/ha程度であるが、そのうち被害にあつたのは120本くらいとみられている。この調査地から見つかったナラタケは *A. gallica*、*A. mellea*、*A. ostoyae* の3種類である。このうち *A. gallica* は樹皮を分解する程度で殆ど地面から出て腐生的な生活を行い、*A. mellea* は伐根などから発生し、同じく腐生的にはたらく。*A. ostoyae* はアカマツ、スギともに多大な被害を与えるものであつた。これらのナラタケについて、対峙培養でジェネットの識別を試みたところ、SIG(体細胞不和合性グループ)が *A. gallica* で6個、*A. mellea* で1個、*A. ostoyae* で5個それぞれ同定された。一番大きいジェネットは直径81 mになった。一般的に1年で1 m 拡大するためこれらのナラタケはジェネットの大きさから類推すると、約40年前に定着したのではないと思われる。また3種を比較すると分布域が重なることもわかつた。*A. ostoyae* と *A. gallica* では宿主が異なるので重なっても問題はなく、逆に *A. ostoyae* と *A. mellea* では宿主が同じなので避けあうのではないかと考えられる。今後はDNAを使ってジェネットを識別を試みる。

第10回 1月29日

「スコットランド東部におけるカラマツ間伐試験地の林床植生」

佐倉詔夫講師

第11回 2月19日

持続可能な森林経営の言葉の定義はさまざまである。

「森林資源とその便益（便益もまたいろいろな意味がある）の産出を最高の状態に維持するために森林を管理すること。」

「保続」（森林経理学の考え方）「森林生態系の活力を維持・活用しつつ、人類の多様なニーズに永続的に対応してゆけるような森林の取り扱い」

「将来の世代のニーズを満たす能力を損ねることなく、現在のニーズを満たす森林経営」（92年地球サミット）等が挙げられる。

持続可能な森林経営に向けた取り組みとして、いくつかの流れがある。

国際森林条約に向けての流れは、森林が環境会議で本格的に取り上げられた92年の国際環境開発会議が始まりである。この時は、森林原則声明が合意され、条約の合意には至らなかった。その後、「持続可能な開発会議」「森林に関する政府間パネル」等設置され、継続して議論されているが、大筋では合意できても細かい事になると微妙な利害関係があり、問題は先送りされている。

もうひとつの流れは、指標・基準の合意がある。

- ①熱帯林（ITTO（国際木材熱帯機関））
 - ②欧州の温帯林（ヘルシンキプロセス）
 - ③欧州以外の温帯林（モントリオールプロセス・我が国も参加）
 - ④南米（タラポトプロセス）
- の順で合意された。

我が国も参加しているモントリオールプロセスは、7基準・67指標がもうけられている。

基準1、生物多様性の保全

基準2、森林生態系の生産力の維持

基準3、森林生態系の健全性と活力の維持

基準4、土壌及び水資源の保全

基準5、地球的炭素循環への寄与

基準6、社会への要請の対応

基準7、法的、制度的、経済的枠組

このように生態レベル、生産力・資源、社会の3要素を含んでいる。

モントリオールプロセスとヘルシンキプロセスの違いは、ヘルシンキプロセスは、量的な事だけでなく質的な事を取り上げている事、林業優先であること、モントリオールプロセスは生態系重視であること、という点である。

また持続可能な森林経営のチェックの場としてモデルフォレスト（理想的な森林という意味ではない）がもうけられている。（日本では四万十川流域・石狩川流域）

また、持続可能な森林経営を推進するために、森林認証制度というものがある。

略奪的な伐採からでない林産物を認証して、差別化をはかると言うものである。大きな認証機関はFSC（森林管理協議会）がある。日本ではまだ、認証機関は存在しない。現状では認証制度を取っても木材が高く売れるわけではなく、認証を取るためにお金がかかるため、生産者にメリットがない。

＜質問・ディスカッション＞

・現実的には「持続可能な森林経営」は存在せず、基準・指標も具体的でないという状況である。

・未来永劫存在するというこういう考え方は危ないのではないか？何千年も林業が続いたところはない。身近なもので考える方が現実的。（井出先生）

第12回3月12日

「北方針葉樹林の菌類とその役割」

菌類（キノコ）が樹病を起こし・森を支えるー北海道の代表樹種エゾマツについてー

エゾマツの更新過程における菌類の関わり、更新段階の違いによる関係性の多様性を描きつくした研究。まずは、関係性の主体であるエゾマツの現状、つづいて、客体としての菌類のおおまかな分類から。いや、主体はむしろ菌類。

エゾマツは亜寒帯林の重要な構成種である。しかし、過去の過伐の影響で資源は枯渇している。また、天然更新の立地の特殊さや、育苗の困難さと、それによる人工造林の難しさは、資源の再蓄積（再生）を不全なものとしている。結果として、枯渇状態はなかなか改善されない。

このエゾマツとエゾマツ林には、その生活史段階のすべてに菌類が影響する。この菌類は以下のように分類できる。（１）腐生菌（死んでいる生物に）、（２）殺生菌（病原菌となる）、（３）寄生菌（強力な病原性）、（４）共生菌（外生菌根菌と内生菌根菌にわかれる）。

まず、更新のもっとも初期、つまり、種子の段階では、エゾマツの球果に発生するトウヒ属球果さび病菌が病原菌としてあげられる。この菌の特徴は菌の生活史段階で宿主を交替することである。シウリザクラを中間寄主とし、エゾマツシウリザクラ群落に多発する。罹患した球果は結実阻害をおこし、種子生産に影響をおよぼす。トウヒ属球果さび病菌は、天然更新の阻害要因となる。

つぎに、実生段階における菌類とエゾマツのかかわりについて。実生段階のおもな死亡要因には暗色雪腐病と苗立枯病がある。それぞれ罹患のピークシーズンがあり、暗色雪腐病は名前のとおり雪解けまで、冬期間に積雪の下で発生する。苗立枯病は夏期に発生する。稚樹にはさらにファデシウム雪腐病による死亡が加わり、これら菌類は更新初期の阻害要因として顕著な影響を示す。

しかし、倒木上や根株上に定着した幼個体はこれらの菌害を受けにくい。つまり、菌害を回避できる場所が倒木や根株上である。同様に幼個体の生残が良好な場所として鉱物質土壌の露出したところがある。以上の立地の共通点は貧栄養ということであり、このことが、病原菌の繁殖を制限すると考えられる。結果として、このような立地でエゾマツ個体の生存率が高い。

倒木が貧栄養であるからこそ更新適地であるという立場に立てば、世間に流布されている倒木更新の擬人的理解、母としての倒木は子供達に豊かな滋養を与えつつ朽ち果てる、というのは誤謬でしか無いと言える。

菌類とエゾマツのかかわりはなにも病原性の問題だけではない。良好な生育を示す個体には、かならず共生菌が付着している。外生菌根菌である *Thelephora terrestris*（チャイボタケ）と *Cenococcum graniforme*（シーノコッカム菌）の２種はとくに重要な菌類であり、これら菌類との共生が成立していることで、個体の良好な成長が保証される。また、死亡要因となる病原菌にたいする抵抗力も高まると考えられる。貧栄養環境における雑菌の少なさは、これらの有益な菌類との共生関係の成立の機会を高めていると考えられる。

稚幼樹段階を無事に過ごした個体には、アトロペリス胴枯病を引き起こす強病原性子囊菌の感染の危険が待ち構えている。林冠を構成するまで成長した個体にも病原菌は感染する。ヤツバキクイムシが青変菌の“運び屋”となり、この穿孔虫の加害をうけた個体は急速に枯れゆく。いわゆるサルノコシカケの類も生立木に取りつき、材を腐朽させる。無論、成木段階においても共生菌の役割は重要である。この成木と共生菌との関係性には、樹木個体の根系間における菌糸（束）によるネットワークが成立している可能性があり、それは異種間にまで及ぶ。

エゾマツの更新過程の終わり、個体の死とともにある倒木は、腐生菌類による分解過程を経てはじめて次世代の定着が可能となる。

以上、エゾマツの更新にかかわる菌類は、確認されたものだけで種子段階に１２種類、実生に１４種類、稚樹に１４種類、亜成木に１１種類、高木段階では７６種類と、極めて多種である。これら菌類とエゾマツとの関係性は、病原性の菌類による個体の死もあれば、共生関係の成立による個体成長の保証もあり、さらには、たんなる倒木を更新適地として機能しえるよう変容させる働きも菌類の所為である。このことを踏まえて、エゾマツの天然更新には、１）林内倒木を有効に活用すべきであること、２）それが不可能ならば、地はぎ等の地表処理による表土の除去と鉱物質土壌の露出を行うことで発芽・生育床の確保をすること、の２点が有効であると結論づける。

演習林技術官等試験研究・研修会議

日程

平成１０年１０月２９日（木）

１２：３０～１６：２５試験研究発表

１６：２５～１７：００技術研修

１９：００～２１：００懇親会

同１０月３０日（金）

９：００～１２：００千葉演習林研修（郷台、札郷苗畑 他）

12:00～13:00 昼食（清澄学生宿舎）

13:00 解散

場所

千葉演習林・千葉県君津市八重原公民館

参加者

千葉演習林 井出雄二、永島初義、石原猛、鶴見康幸、鈴木誠、中村昇、山中征夫、
前原忠、鈴木祐紀、阿達康真、大石論、米道学、山中千恵子、大塚明宏、
藤平晃司、塚越剛史、軽込勉、村川功雄、相川美絵子

北海道演習林 小笠原繁男、平田雅和

秩父演習林 蒲谷 肇、大畑茂、佐々木和男、澤田晴雄、斎藤俊浩

愛知演習林 井上 淳

富士演習林 千島 茂、西山教雄

樹芸研究所 村瀬一隆

田無試験地 大橋邦夫、石塚孝一、栗田直明

本部・研究部 八木久義、山本博一、石田健、佐倉詔夫、齊藤陽子、藤原章雄

試験研究発表・技術研修プログラム

開会挨拶（八木林長）

試験研究発表

1. 千葉演習林における立木処分単価の推移 相川美絵子（千葉演習林）

2. トドマツ・アカエゾマツ人工林の列状間伐10年後の生育状況

平田雅和、井口和信、佐藤 烈、穴戸憲治、高橋範和、岡平卓巳、木村徳志、笠原久臣（北海道演習林）

3. 大雪による若齢造林木への被害状況

大畑茂、澤田晴雄、大村和也、五十嵐勇治、小河民也、平野和男、大村幸正、神塚武一、黒沢音治、千島啓之助（秩父演習林）

4. ヒノキの間伐試験（材積と間伐後の景観）

千島 茂、西山教雄（富士演習林）

休憩

5. 苗畑根切り虫（コガネムシ類）生態及び防除試験

塚越剛史、米道 学（千葉演習林）

6. 北演の樹木園苗畑とその周辺一針葉樹3種の実生苗の育成について—

小笠原繁男（北海道演習林）

7. 秩父演習林影森苗畑のコガネムシ類

佐々木和男、田代八郎、斎藤俊浩（秩父演習林）

8. 愛知演習林白坂苗畑の概要および経過と課題

—土壌改良によるヒノキ苗の形質向上をめざして—

井上淳、高德佳絵、原孝秀（愛知演習林）

9. クスノキ稚樹の被陰条件下における成長と葉の形態的变化

村瀬一隆、辻和明、辻良子、渡辺良広（樹芸研究所）

10. 田無試験地における苗畑管理の一年

石塚孝一、栗田直明、岩本則長（田無試験地）

技術研修

「苗畑作業の遺伝的意味」 講師 井出雄二

現地研修

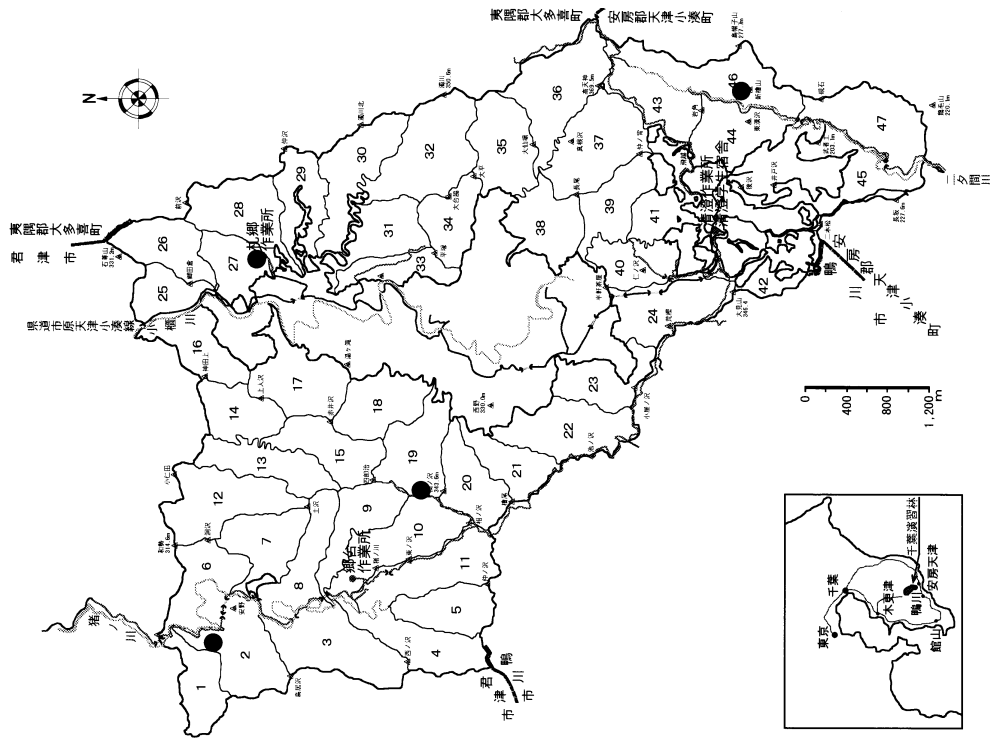
千葉演習林 郷台、札郷苗畑現地見学

試験研究業務

試験研究業務実行位置図

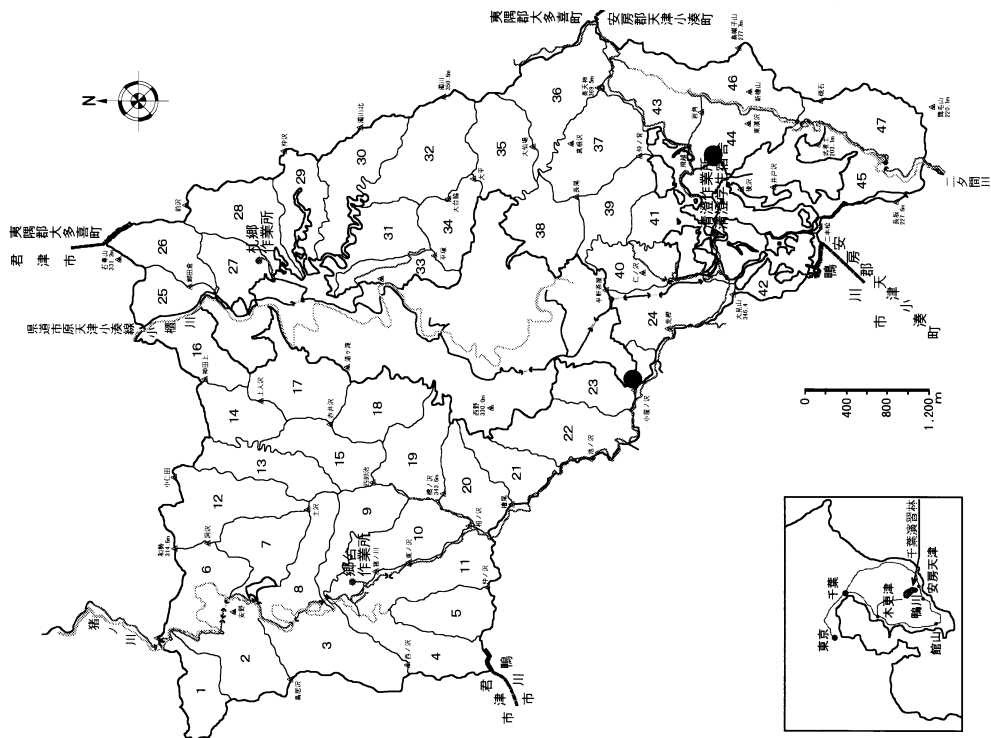
千葉演習林：種子差し穂採取

東京大学農学部附属演習林千葉演習林

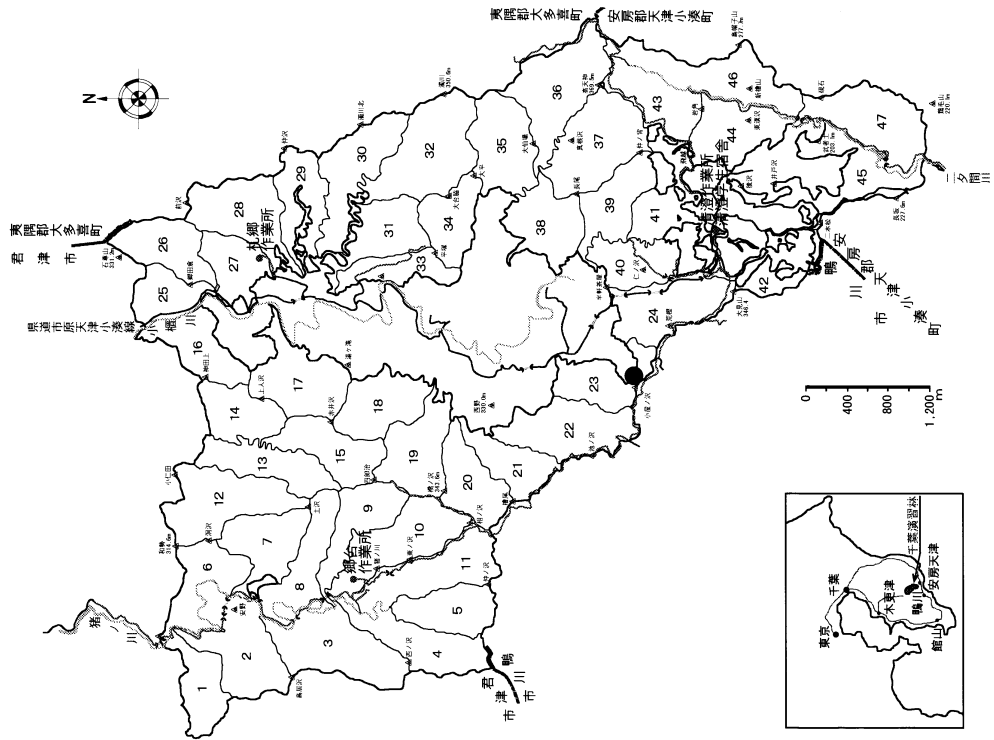


千葉演習林：地拵え

東京大学農学部附属演習林千葉演習林

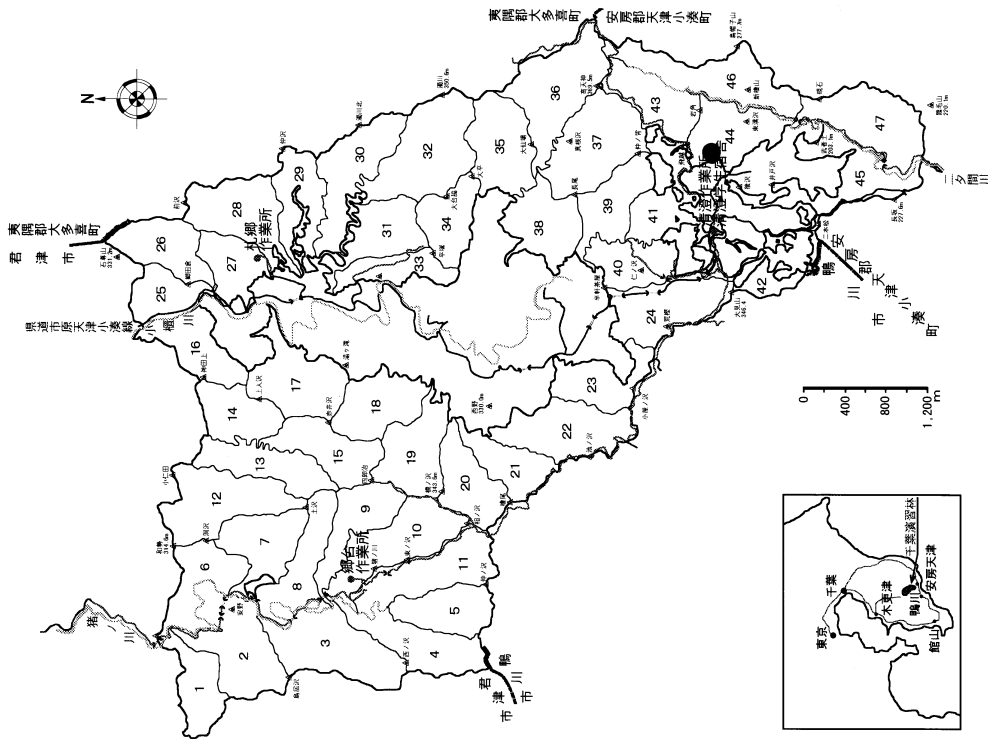


東京大学農学部附属演習林千葉演習林

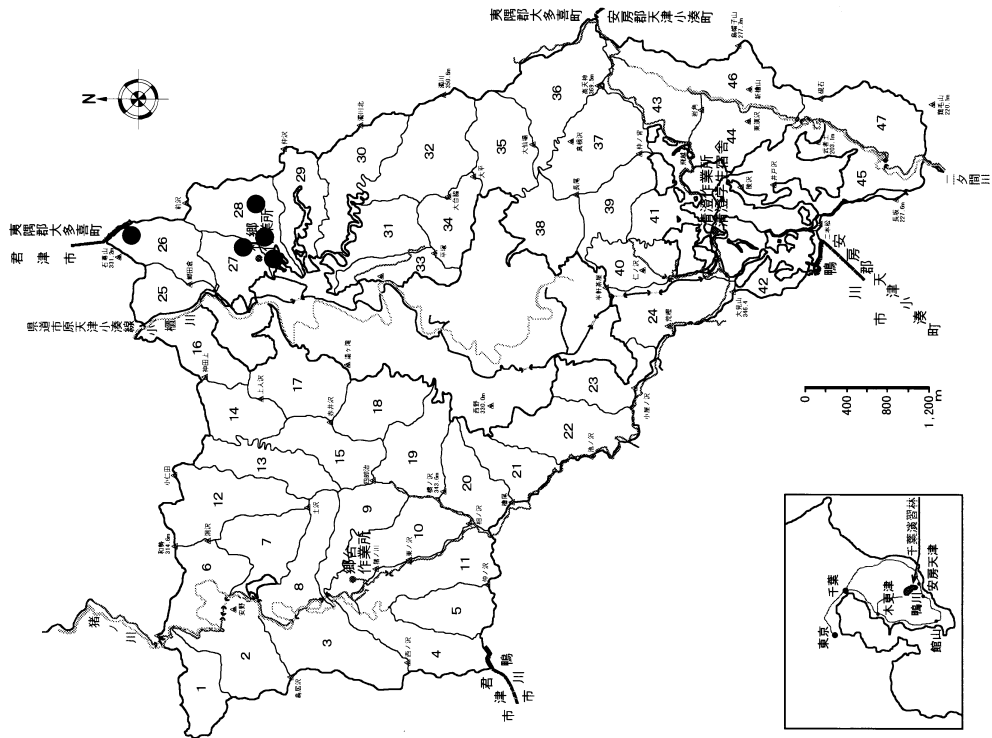


千葉演習林：シカ食害防止柵設置

東京大学農学部附属演習林千葉演習林

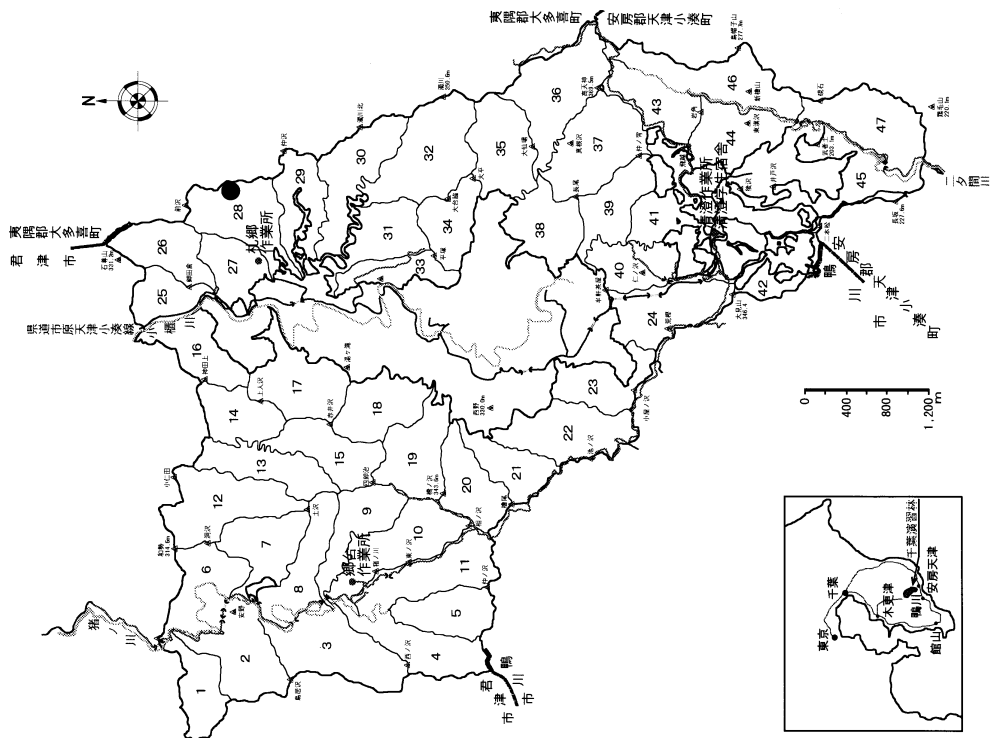


東京大学農学部附属演習林千葉演習林



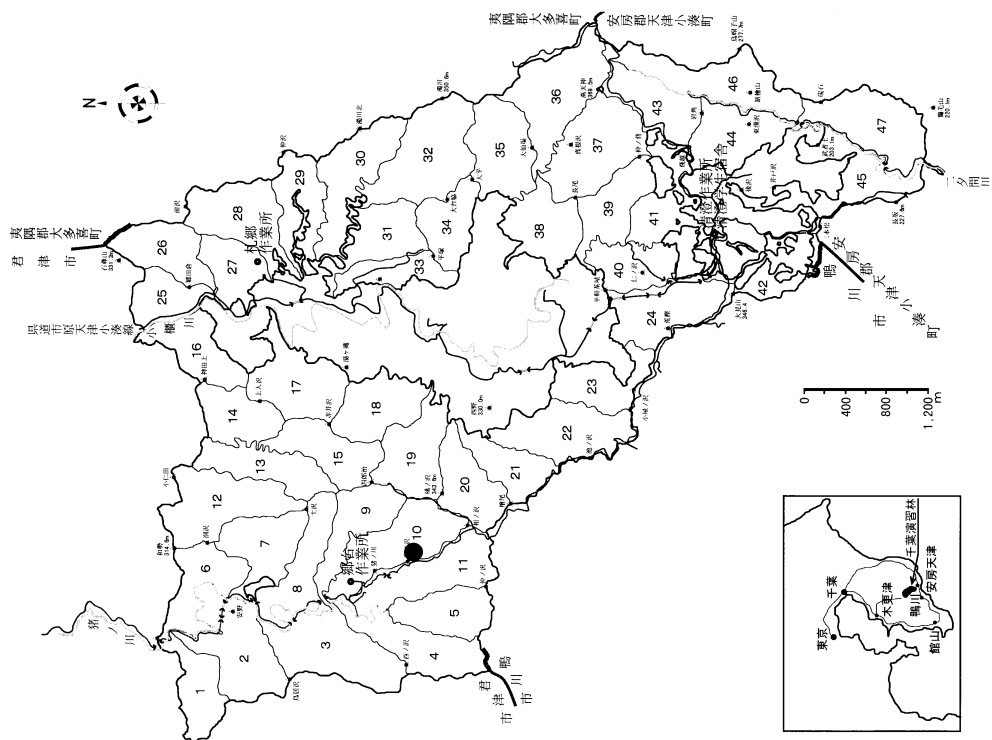
千葉演習林：枝打ち（直営）

東京大学農学部附属演習林千葉演習林



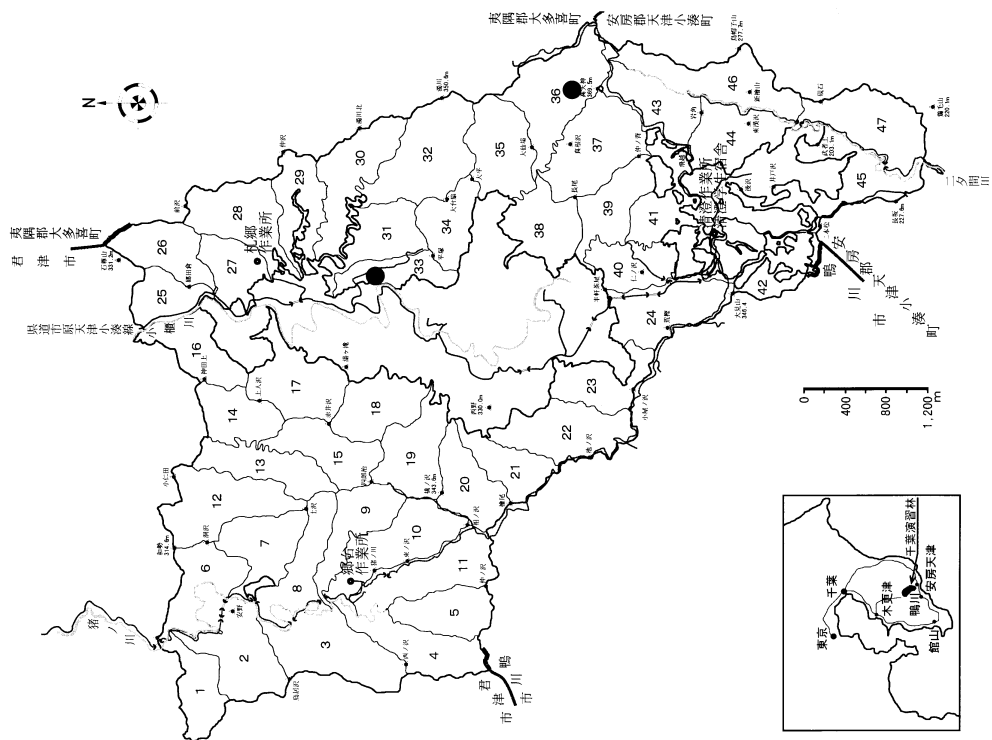
千葉演習林：枝打ち（請負）

東京大学農学部附属演習林千葉演習林



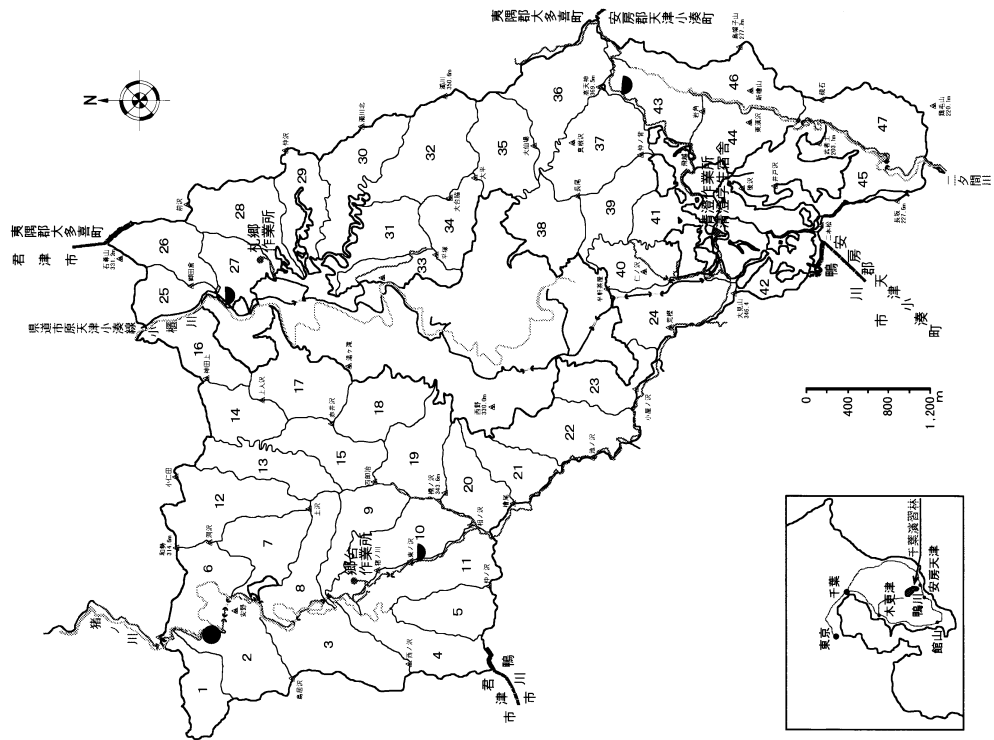
千葉演習林：除伐

東京大学農学部附属演習林千葉演習林



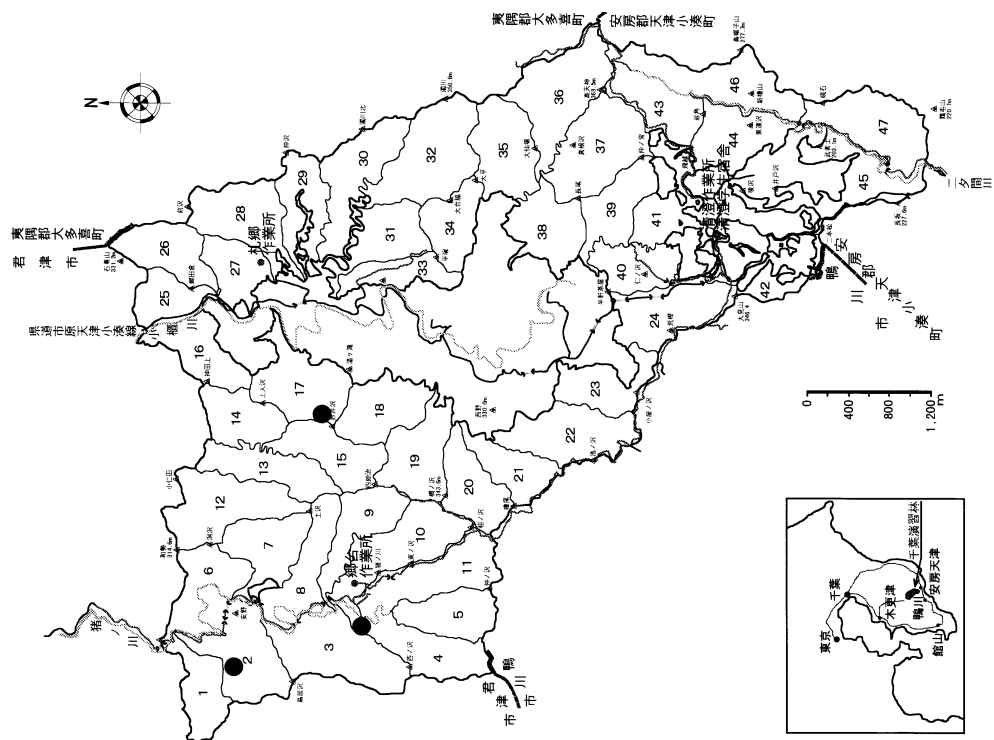
千葉演習林：皆伐・間伐処分

東京大学農学部附属演習林千葉演習林



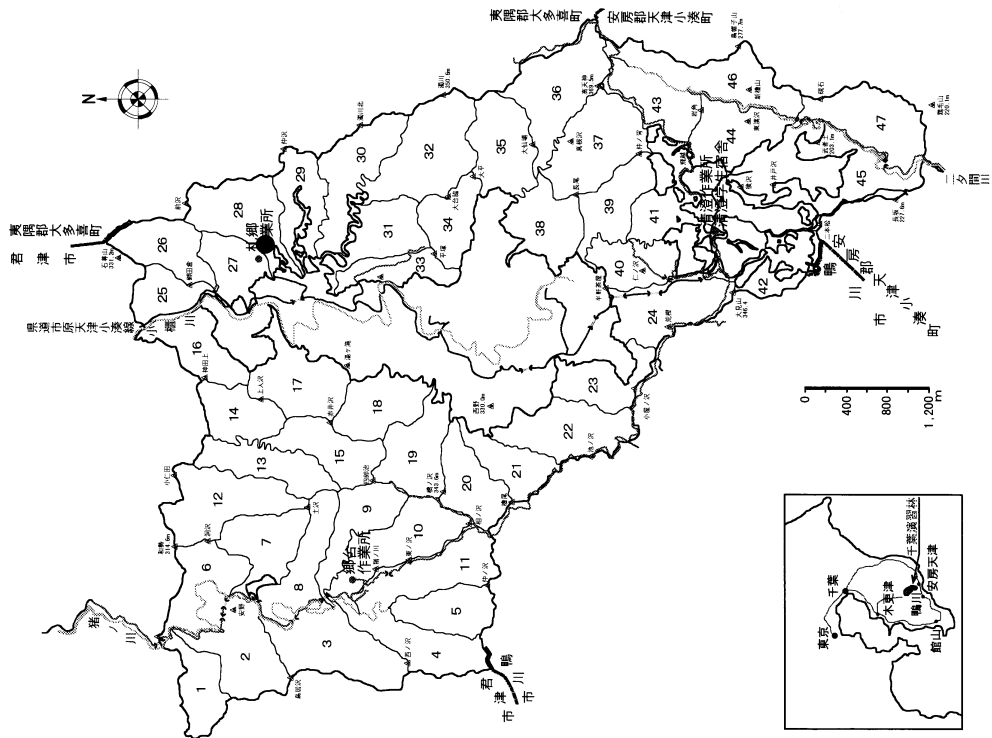
千葉演習林：間伐（請負）

東京大学農学部附属演習林千葉演習林



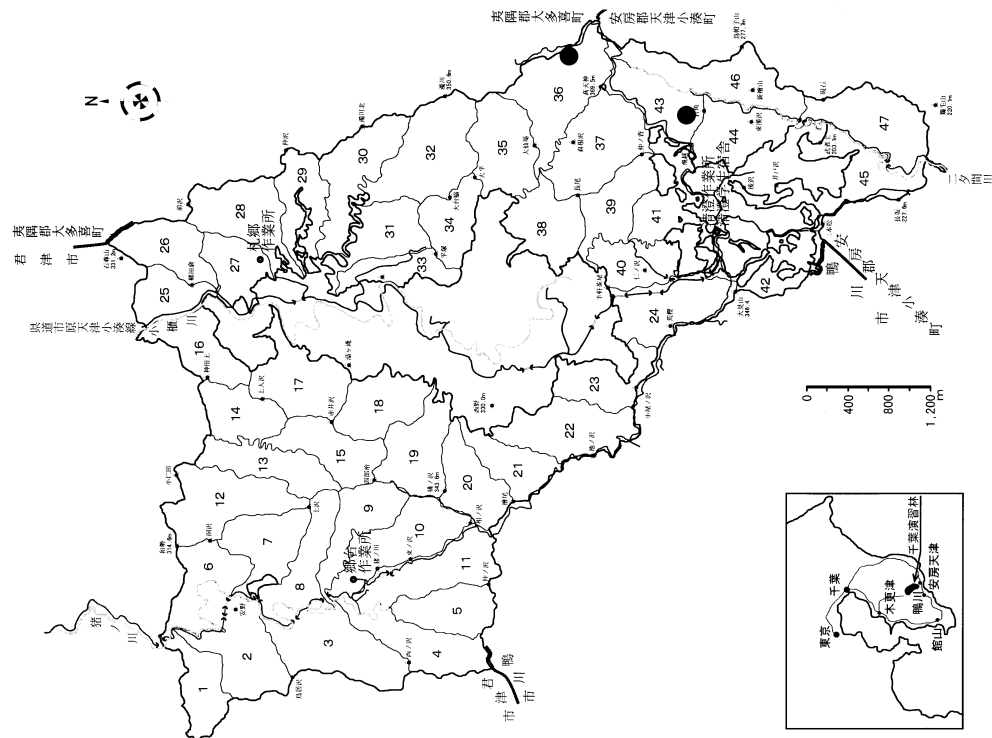
千葉演習林：松食い虫被害木伐倒駆除（直営）

東京大学農学部附属演習林千葉演習林

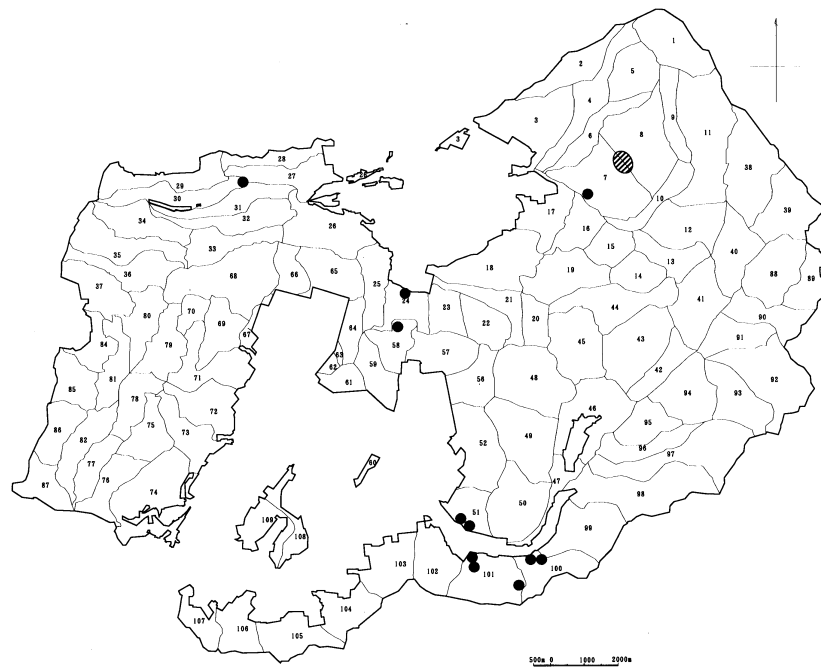


千葉演習林：松食い虫被害木伐倒駆除（請負）

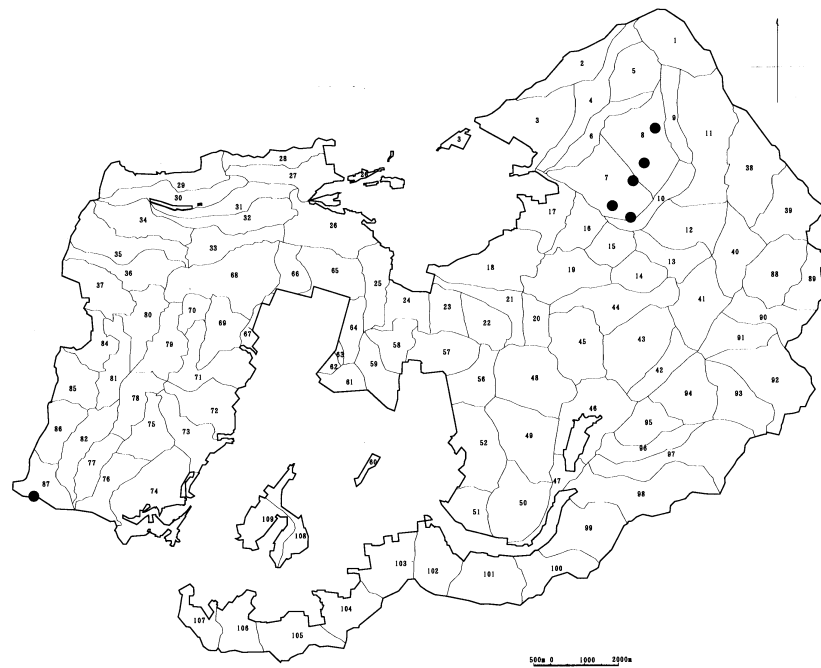
東京大学農学部附属演習林千葉演習林



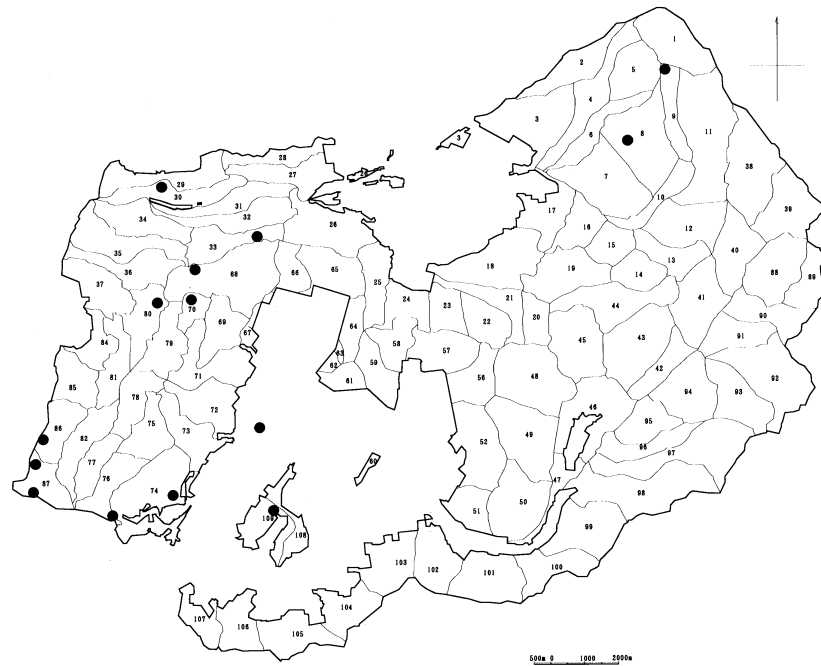
北海道演習林：測定を行った天然林成長試験地



北海道演習林：育種試験地測定位置



北海道演習林：種子採取



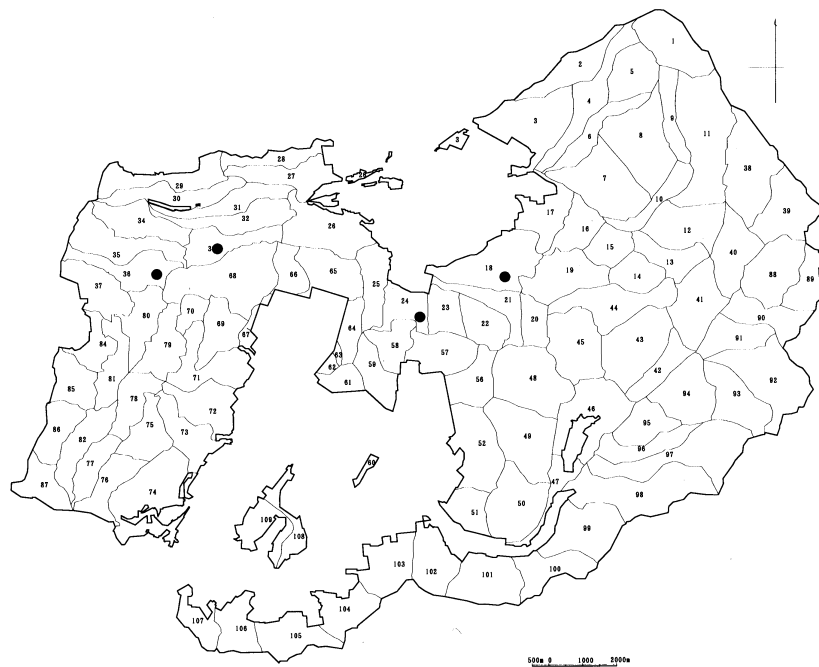
北海道演習林：地拵え



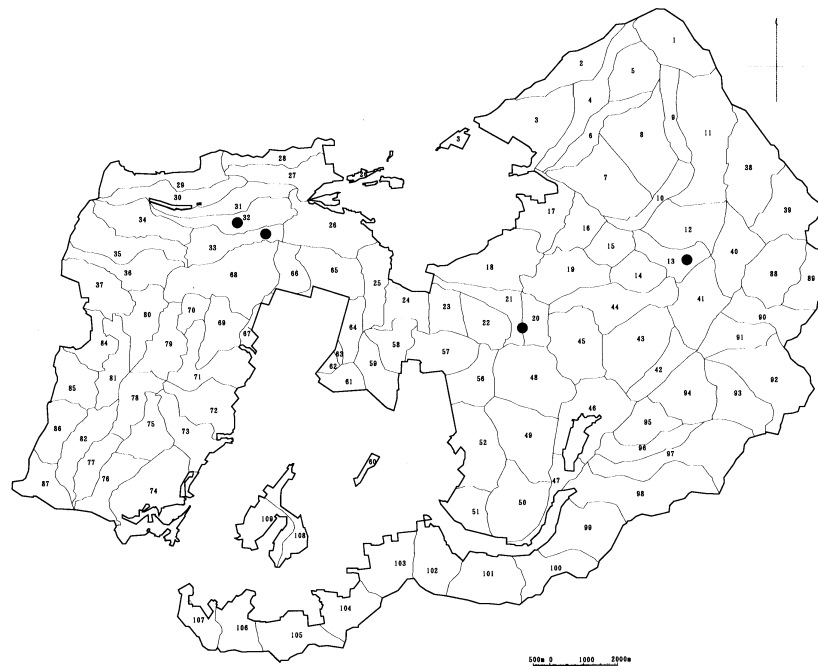
北海道演習林：地がき植え付け播種



北海道演習林：下刈り（直営）



北海道演習林：下刈り（請負）



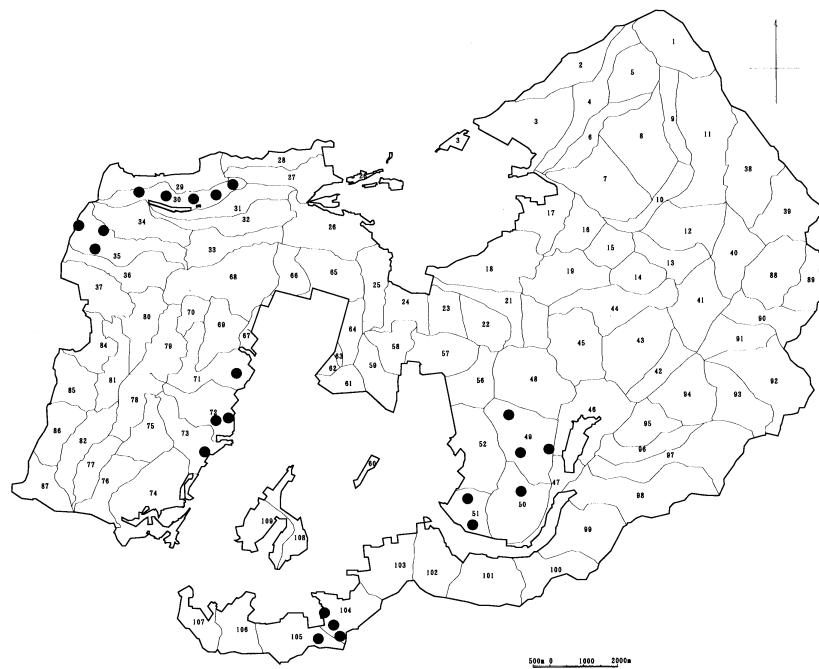
北海道演習林：つる切り除伐（直営）



北海道演習林：つる切り除伐（請負）



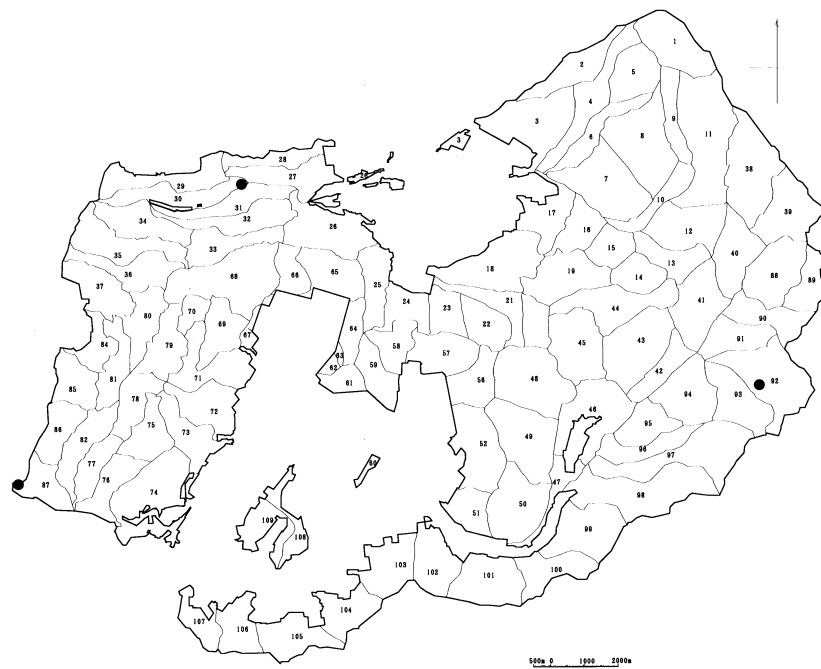
北海道演習林：立木販売（小班単位）



北海道演習林：優良木収穫（単木単位）



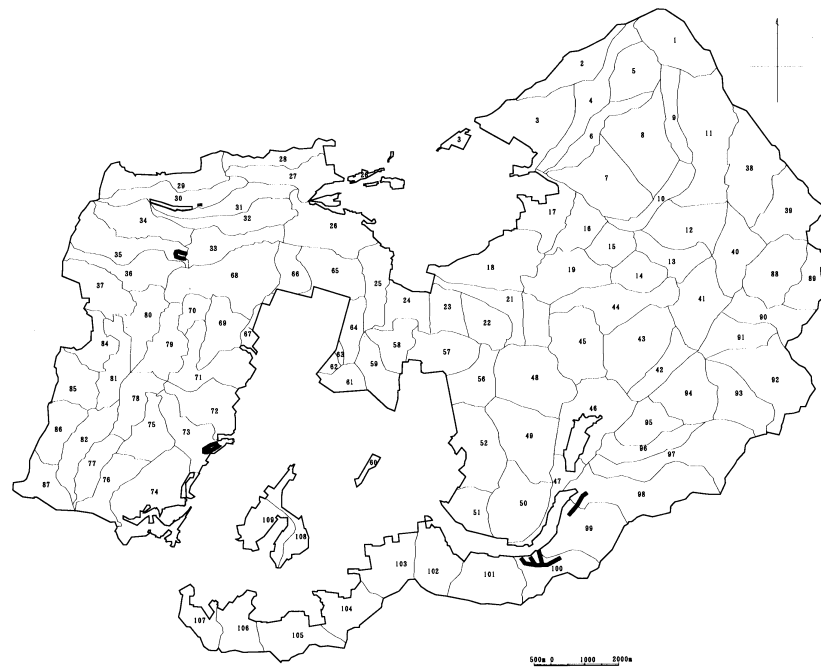
北海道演習林：計画外伐採



北海道演習林：素材直営生産



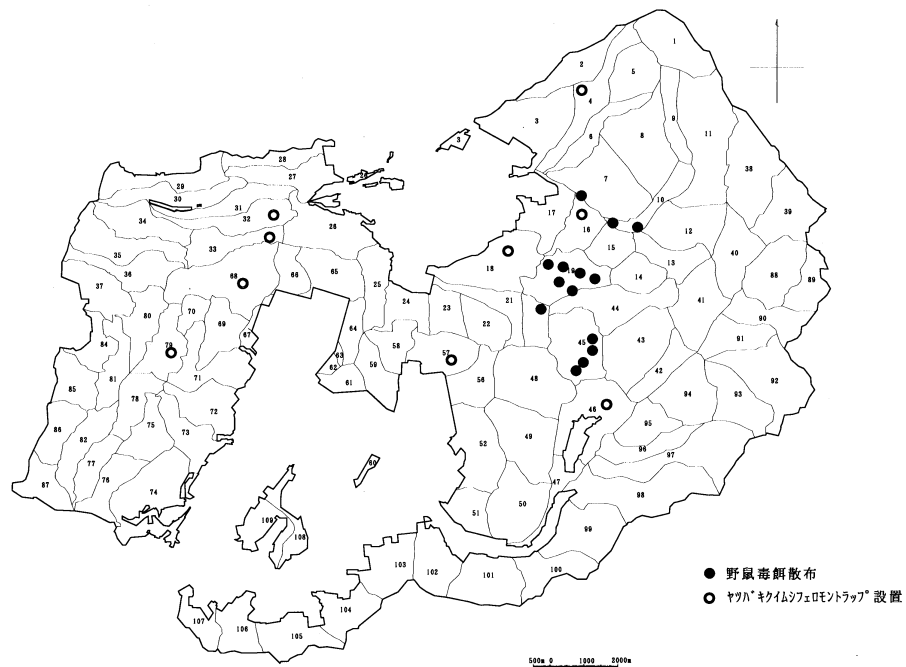
北海道演習林：車道新設



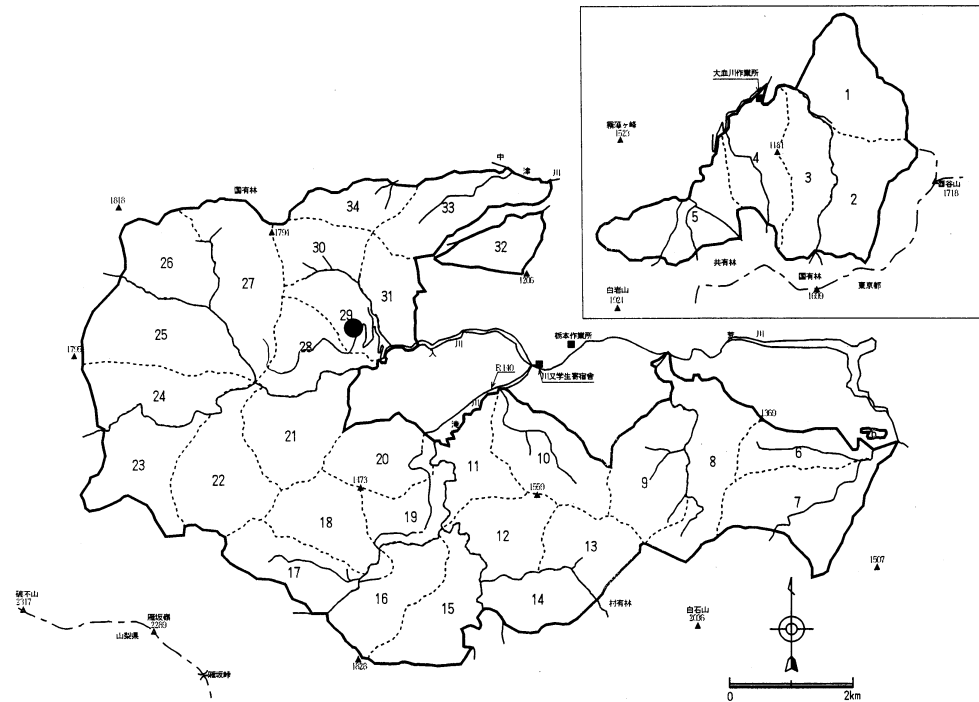
北海道演習林：砂利敷き均し



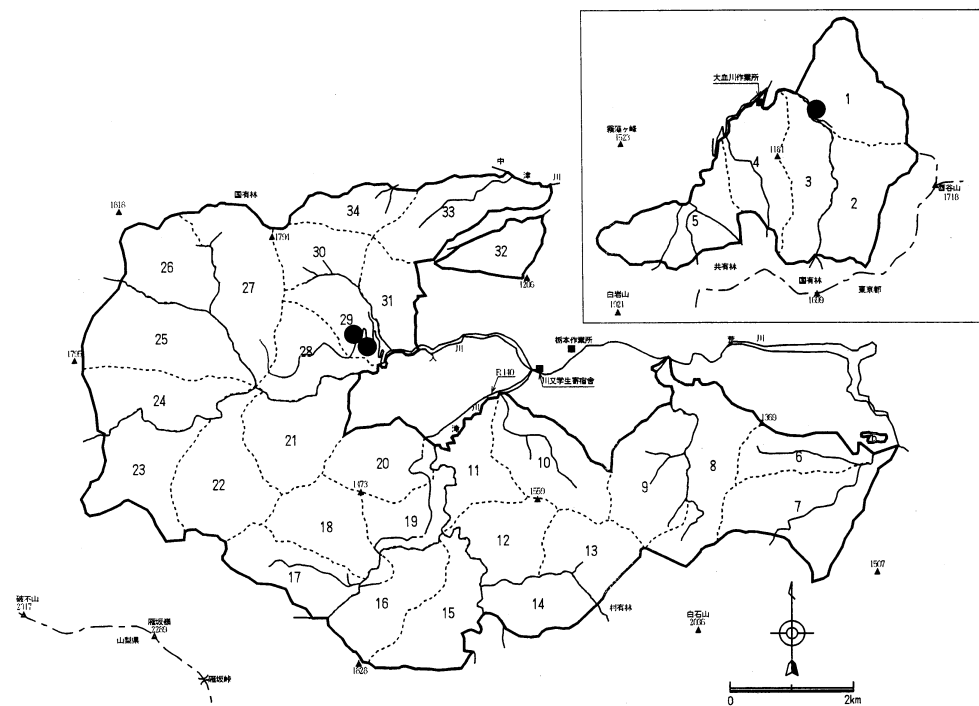
北海道演習林：病虫獣害防除



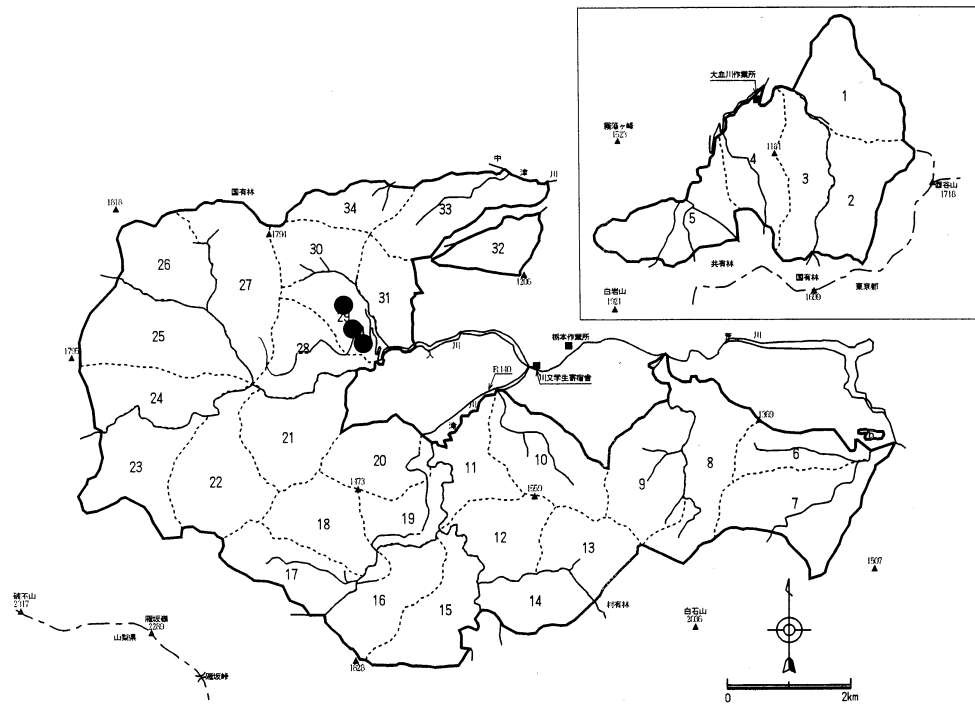
秩父演習林：地拵え



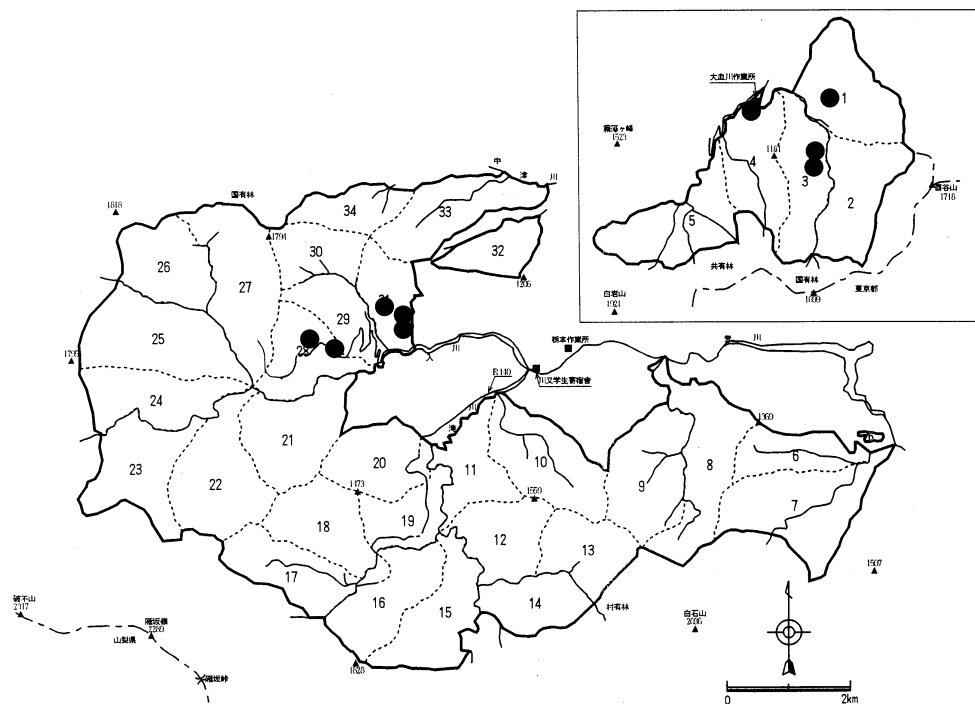
秩父演習林：新植補植



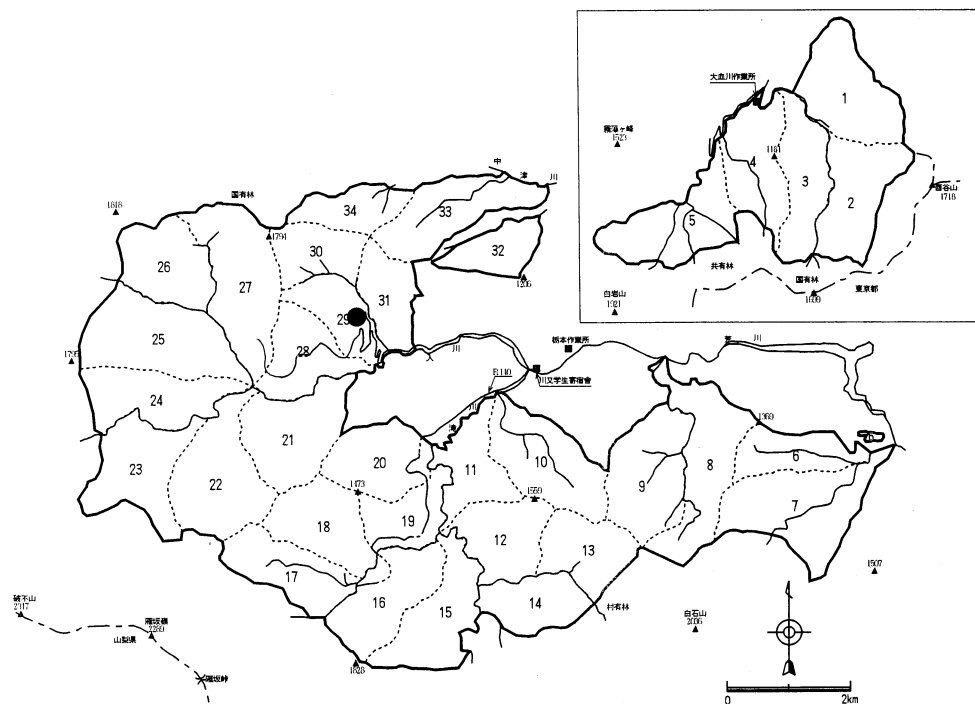
秩父演習林：下刈り



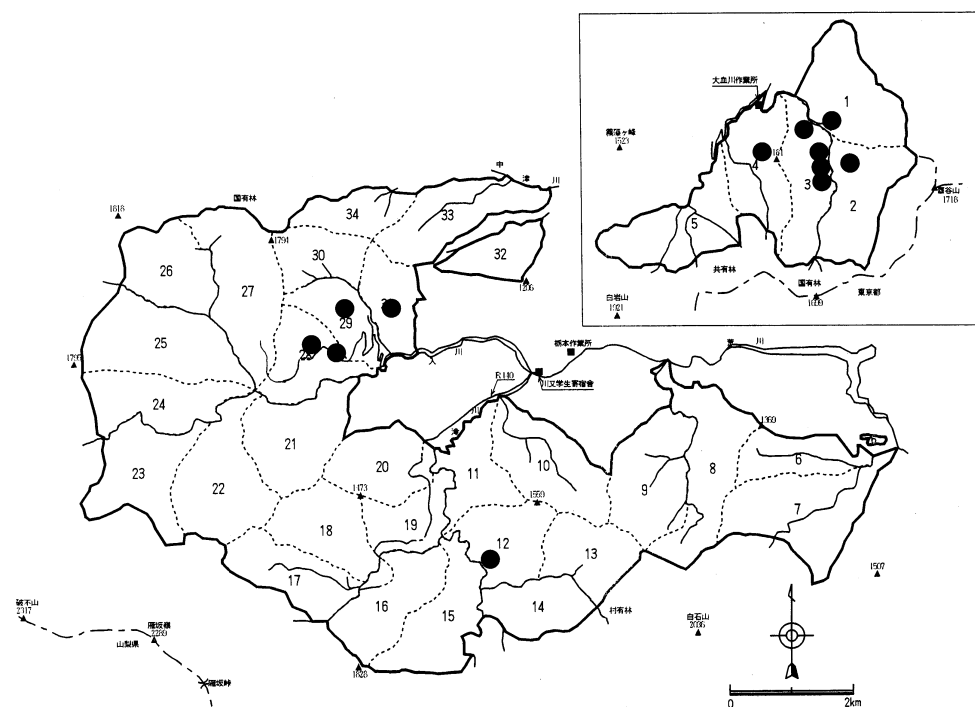
秩父演習林：枝打ち



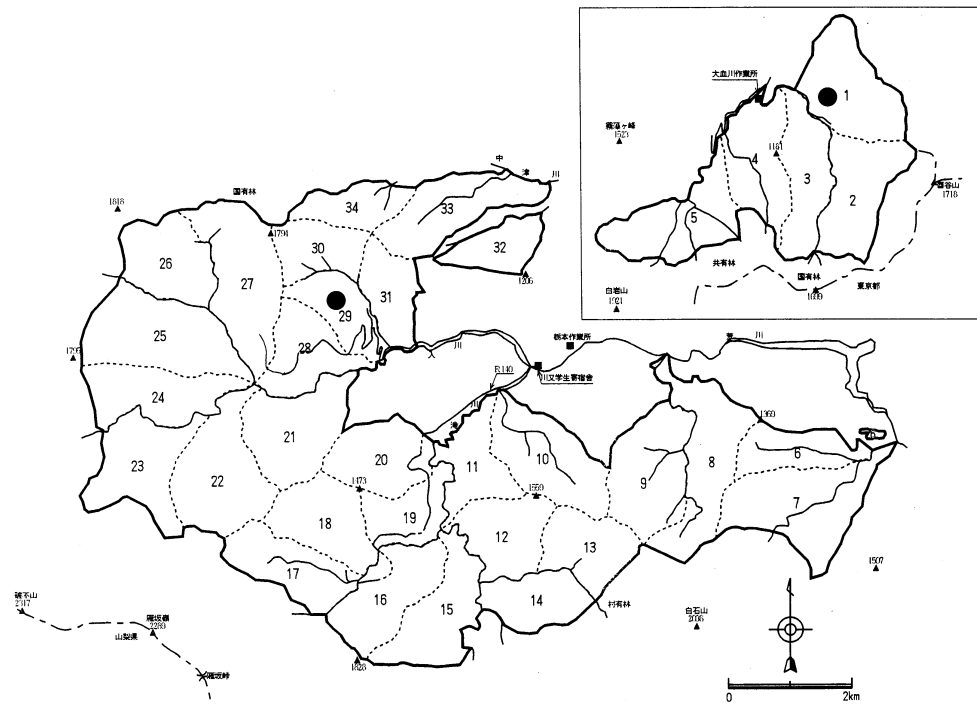
秩父演習林：つる切り



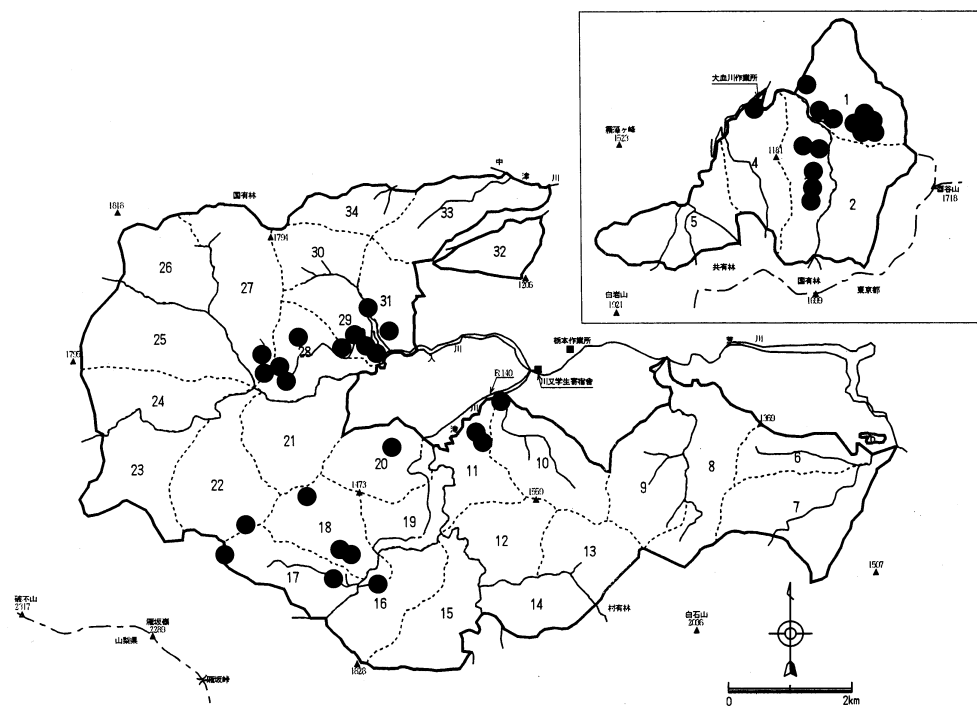
秩父演習林：除伐



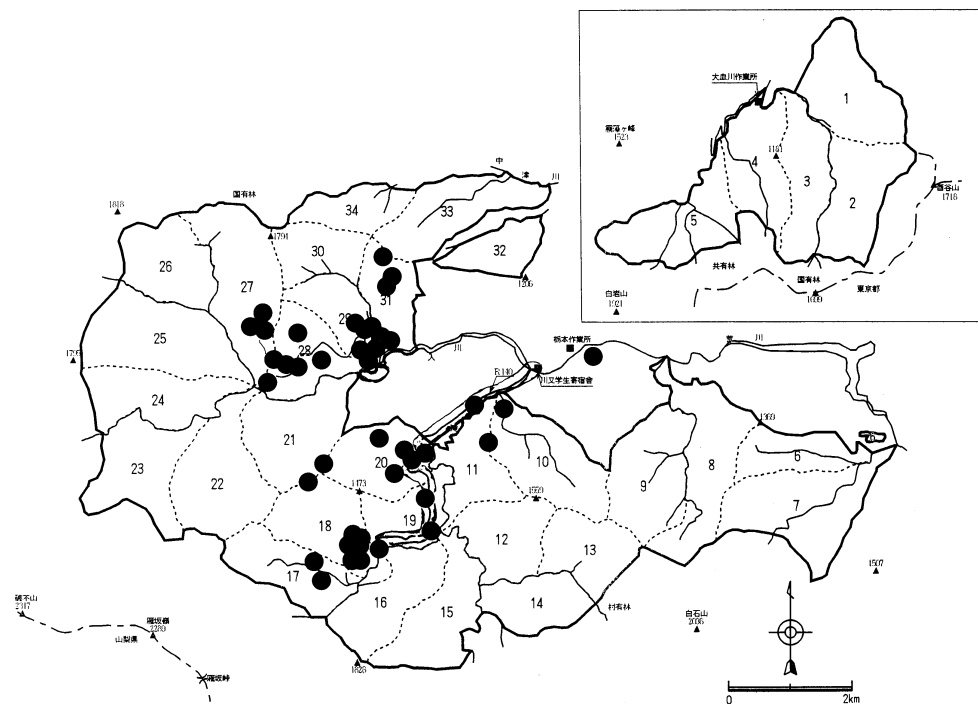
秩父演習林：間伐



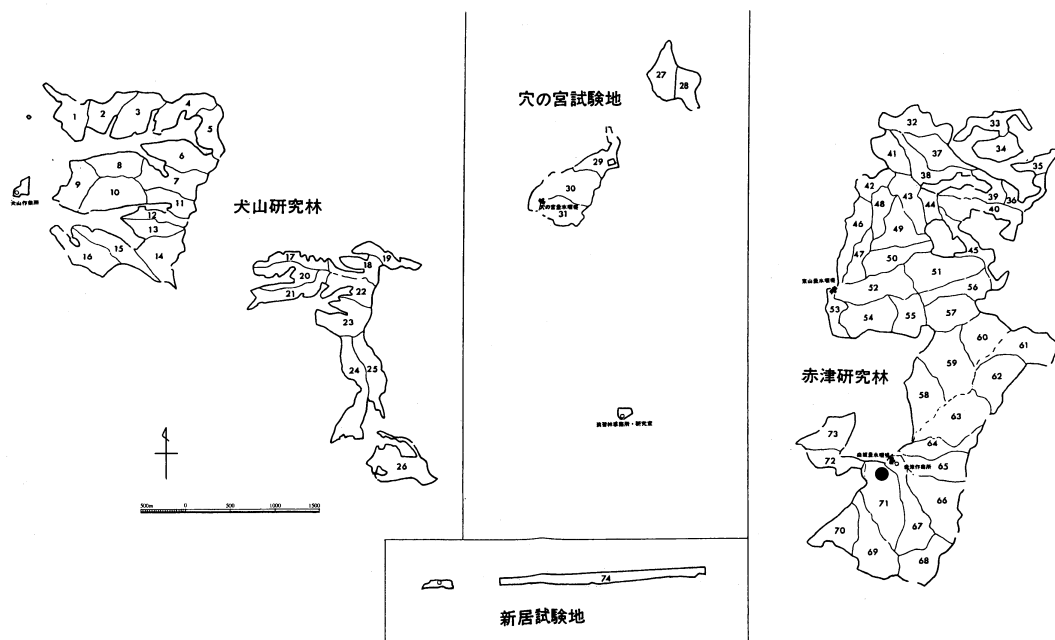
秩父演習林：測定気象量水試験地



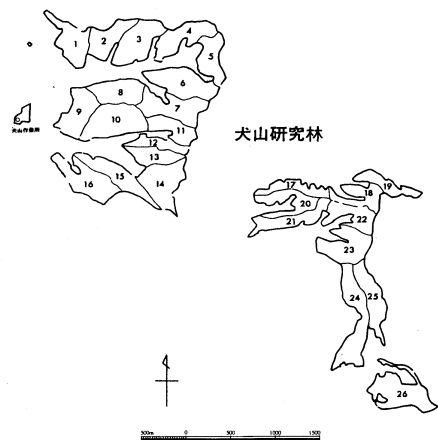
秩父演習林：動物調査



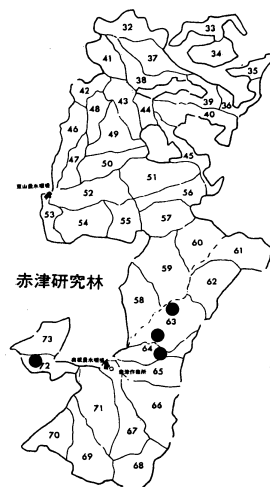
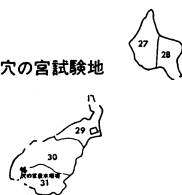
愛知演習林：地拵え



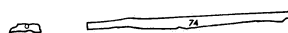
愛知演習林：新植補植



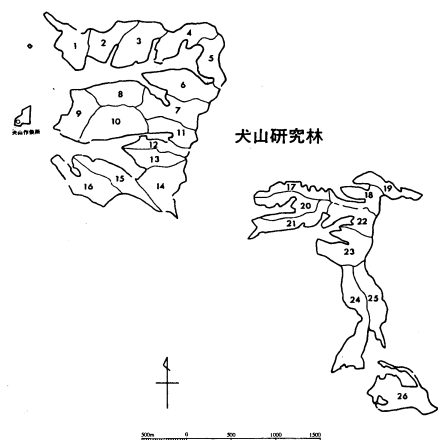
穴の宮試験地



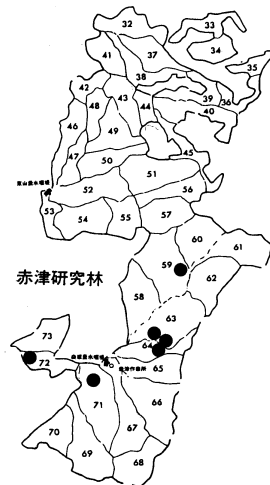
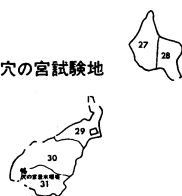
新居試験地



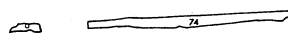
愛知演習林：下刈り



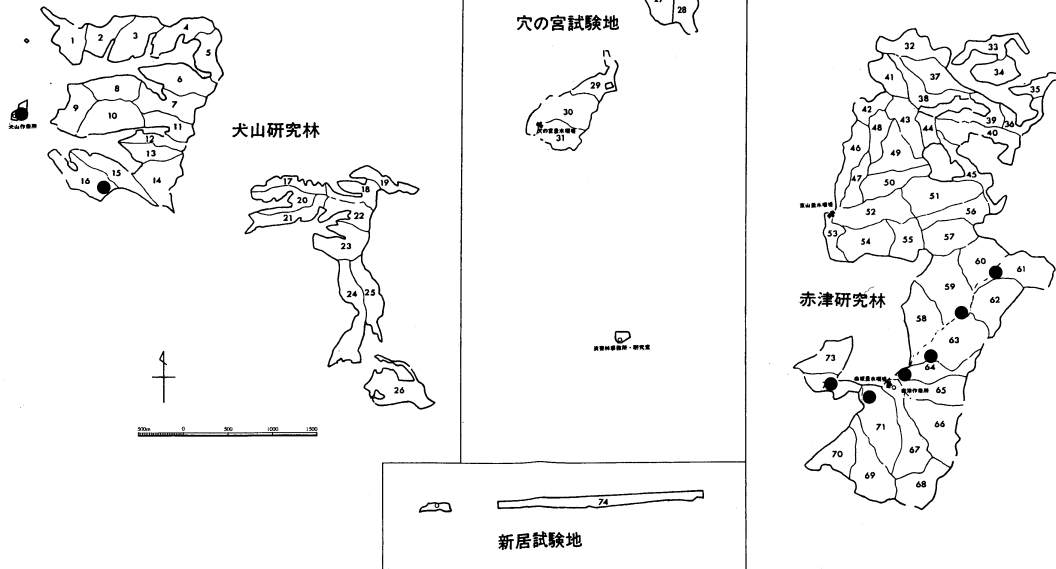
穴の宮試験地



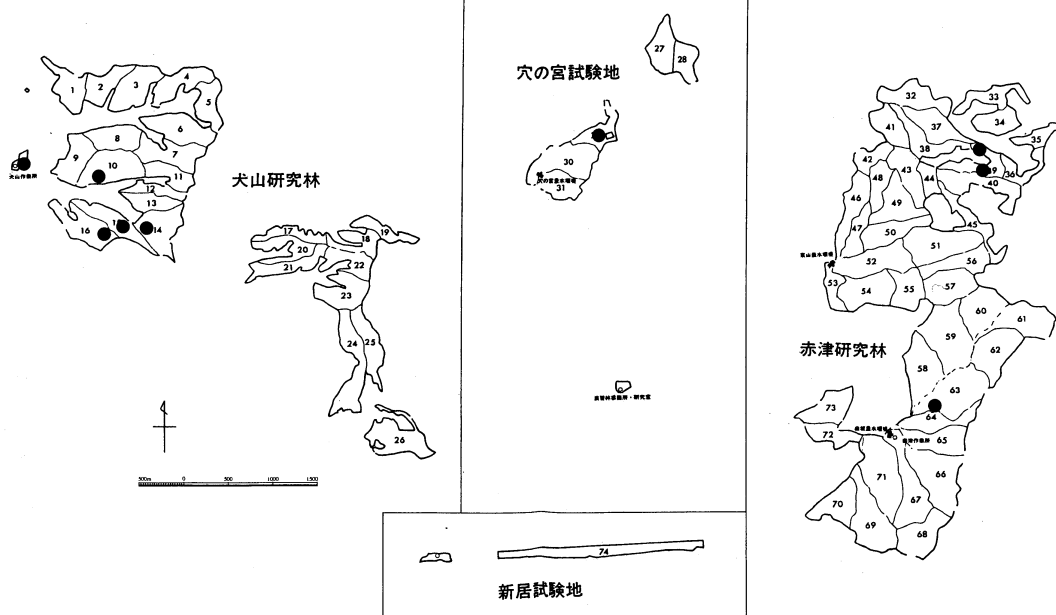
新居試験地



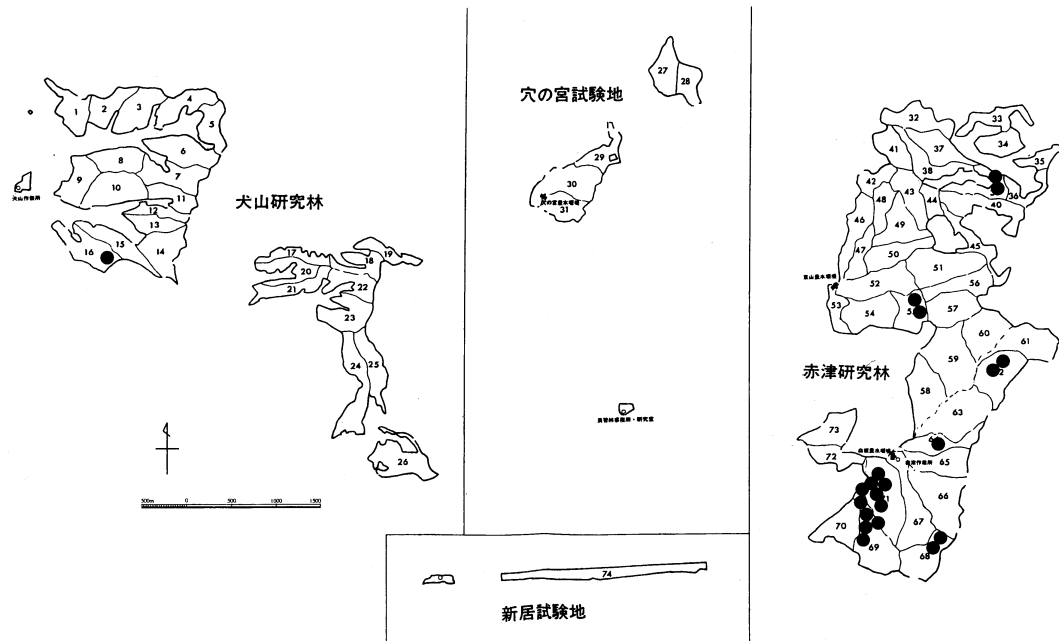
愛知演習林：枝打ち



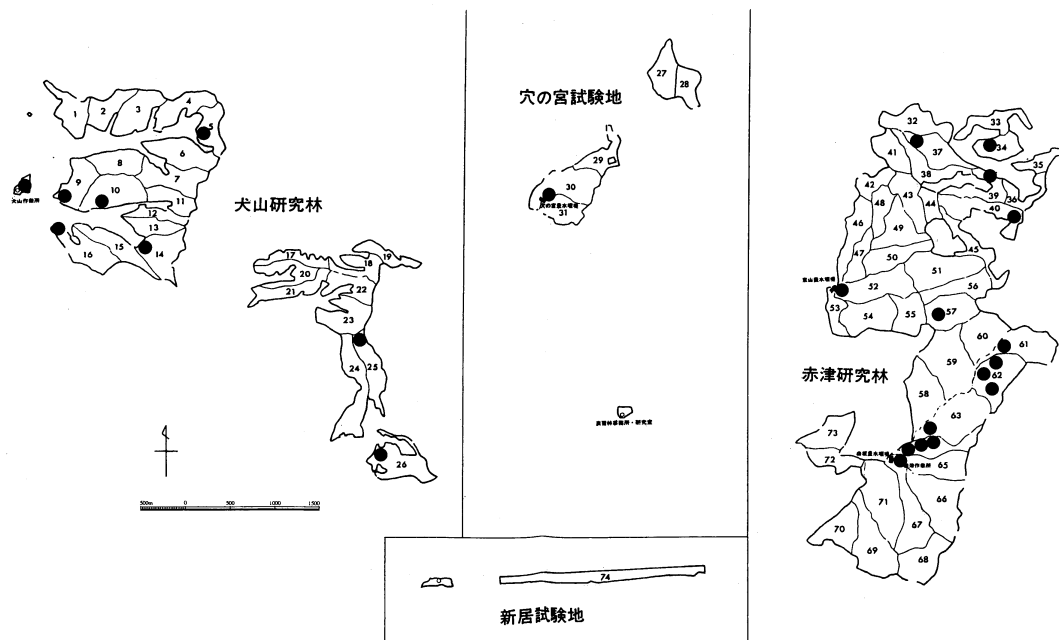
愛知演習林：除伐



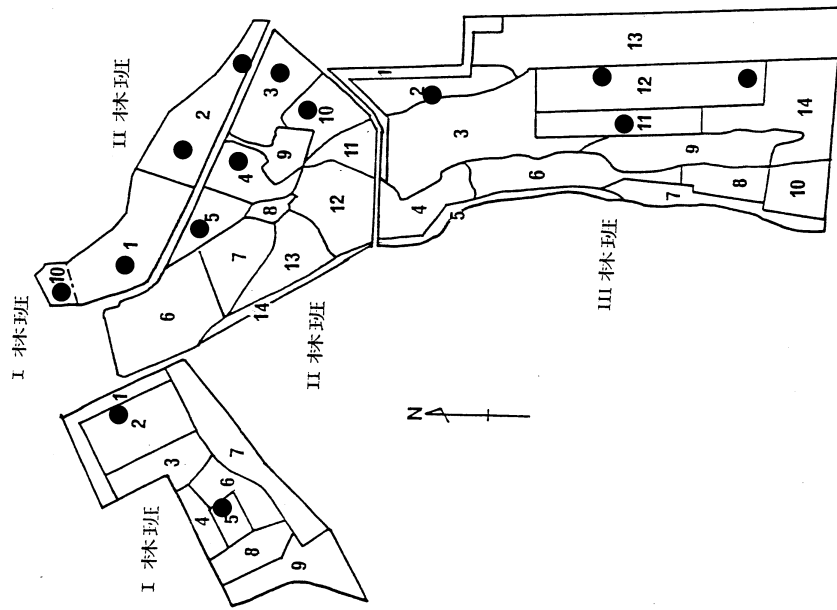
愛知演習林：間伐



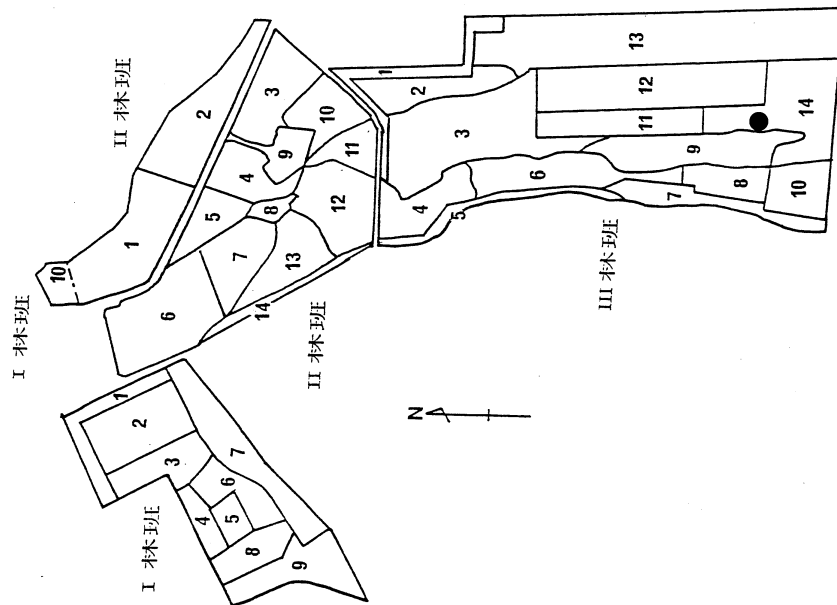
愛知演習林：試験地位置（小規模な固定標準地）



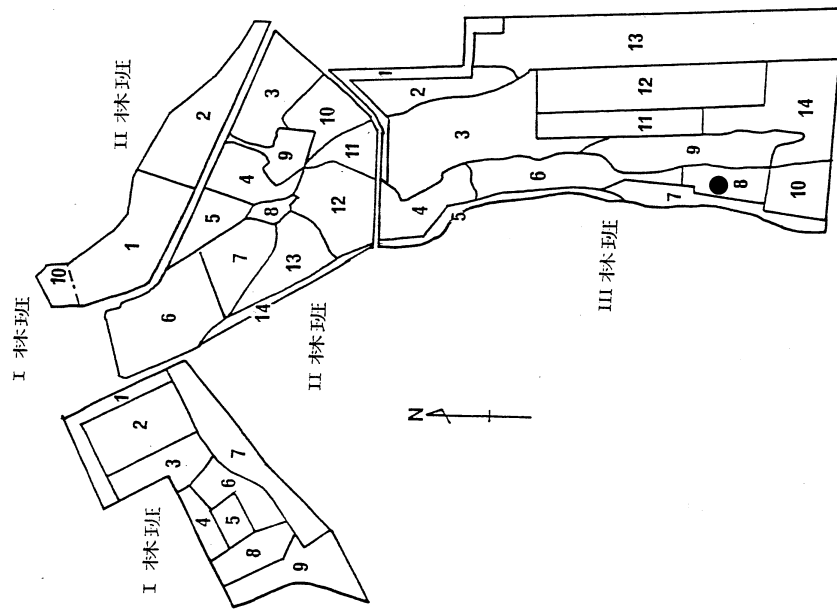
富士演習林：下刈り



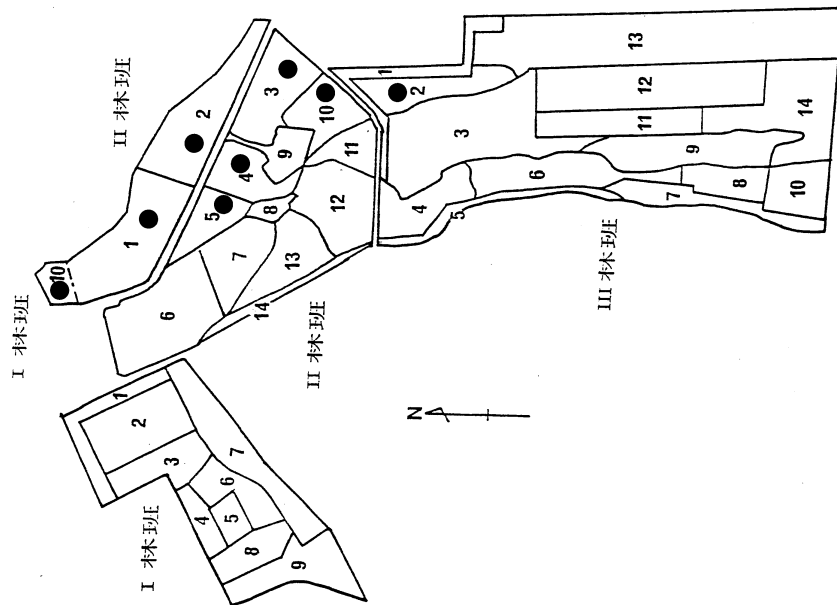
富士演習林：除伐



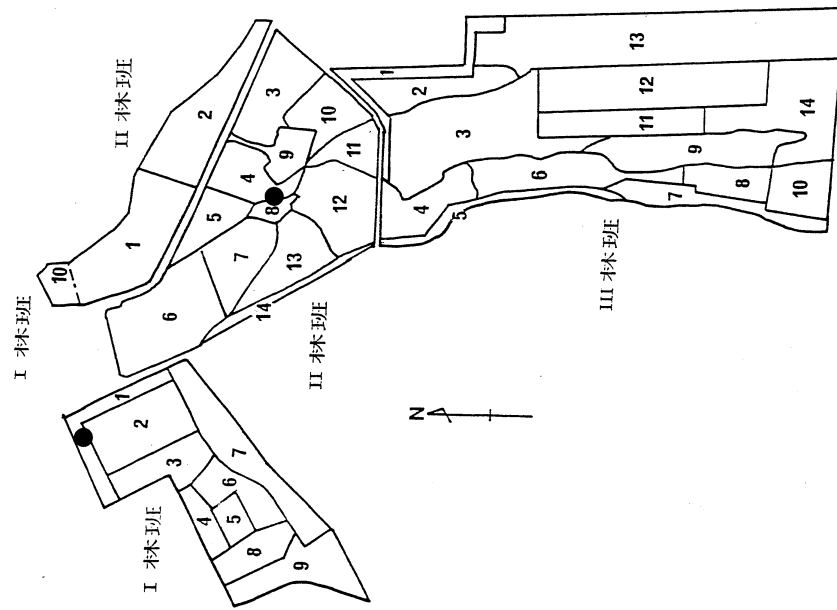
富士演習林：間伐



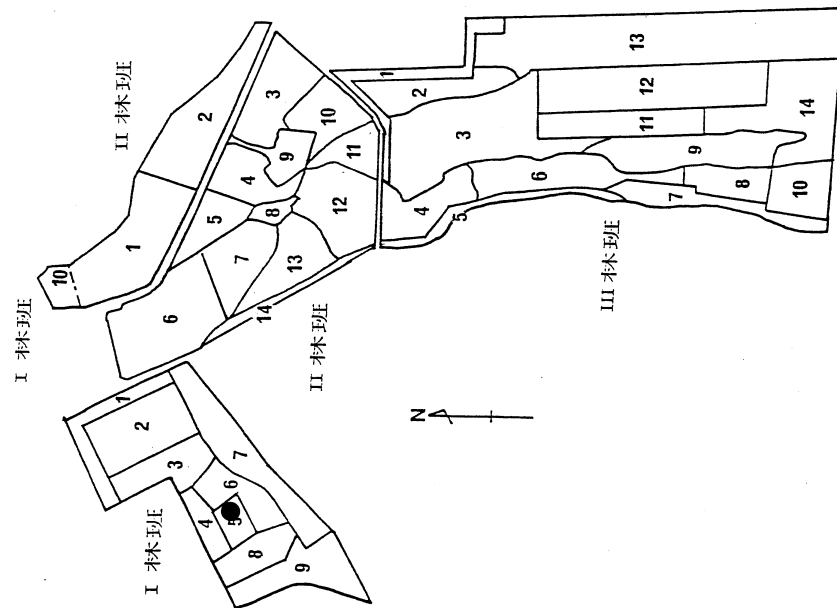
富士演習林：落枝片付け



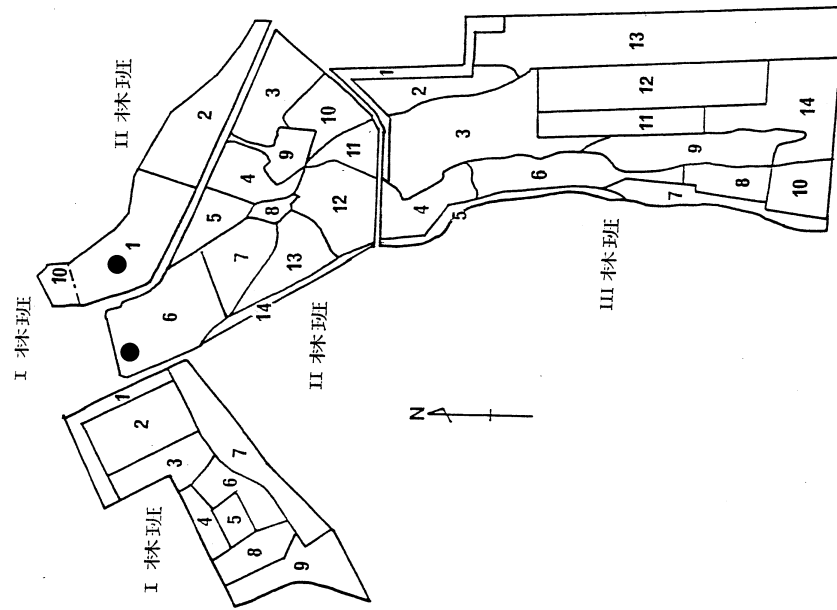
富士演習林：刈り払い



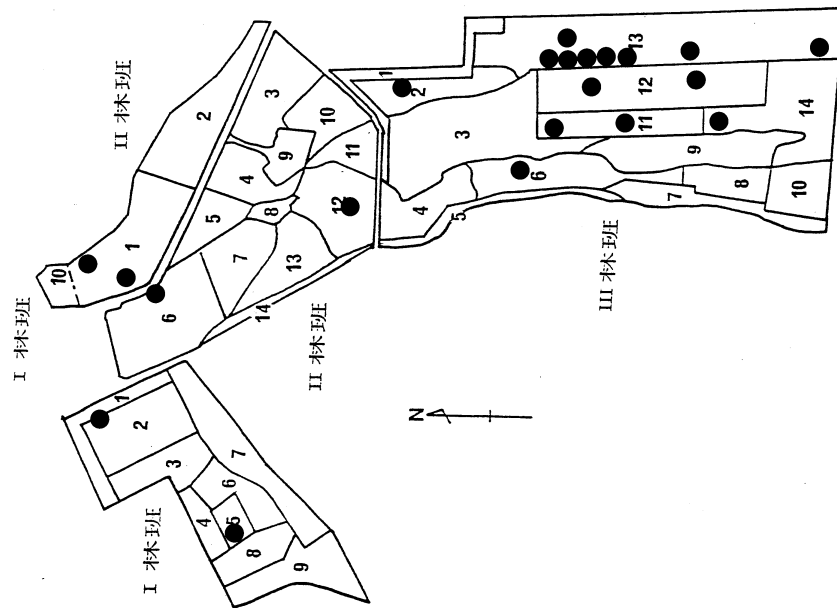
富士演習林：除草



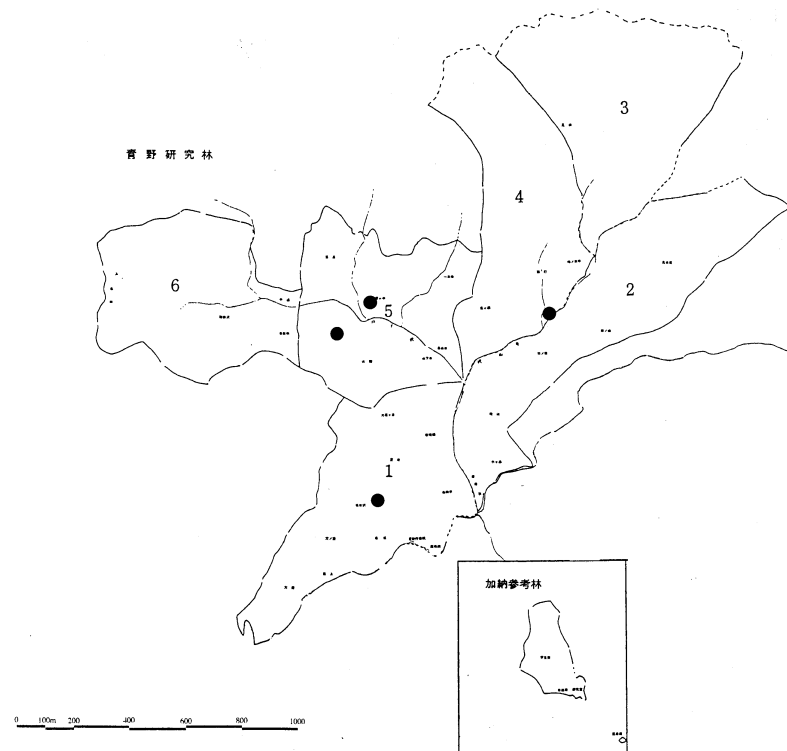
富士演習林：芝刈り



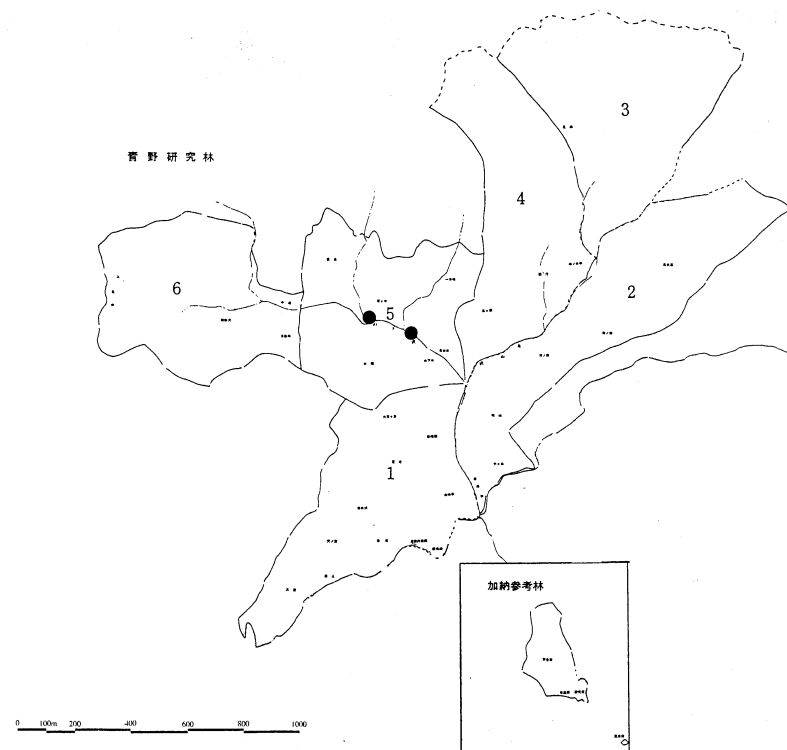
富士演習林：固定試験地



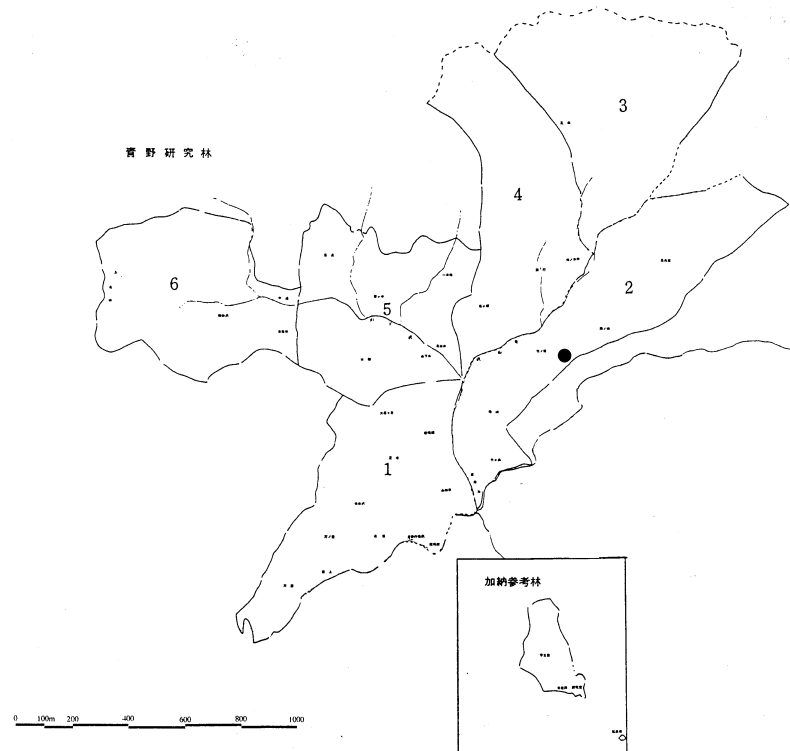
樹芸研究所：地拵え新植



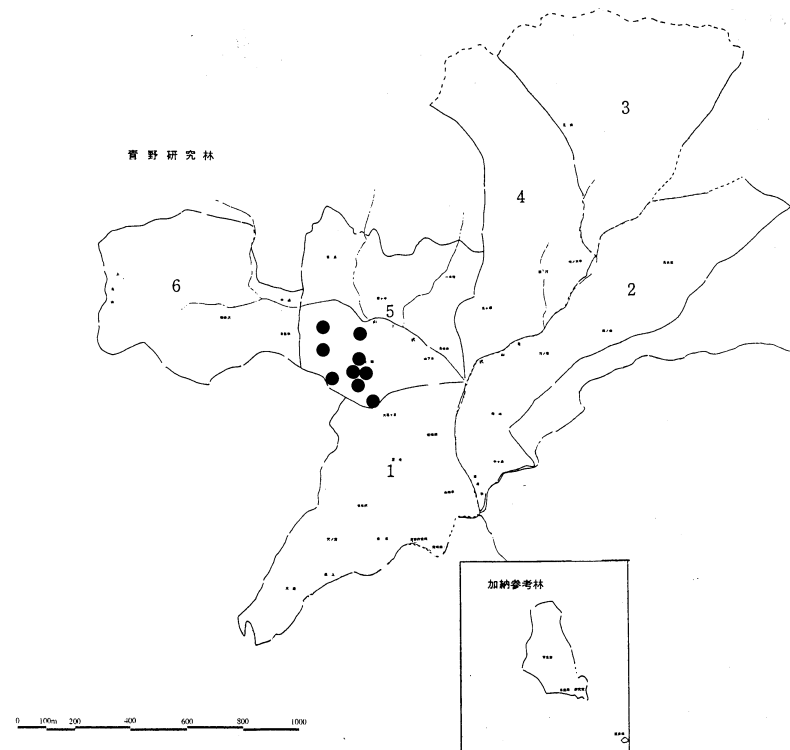
樹芸研究所：下刈り



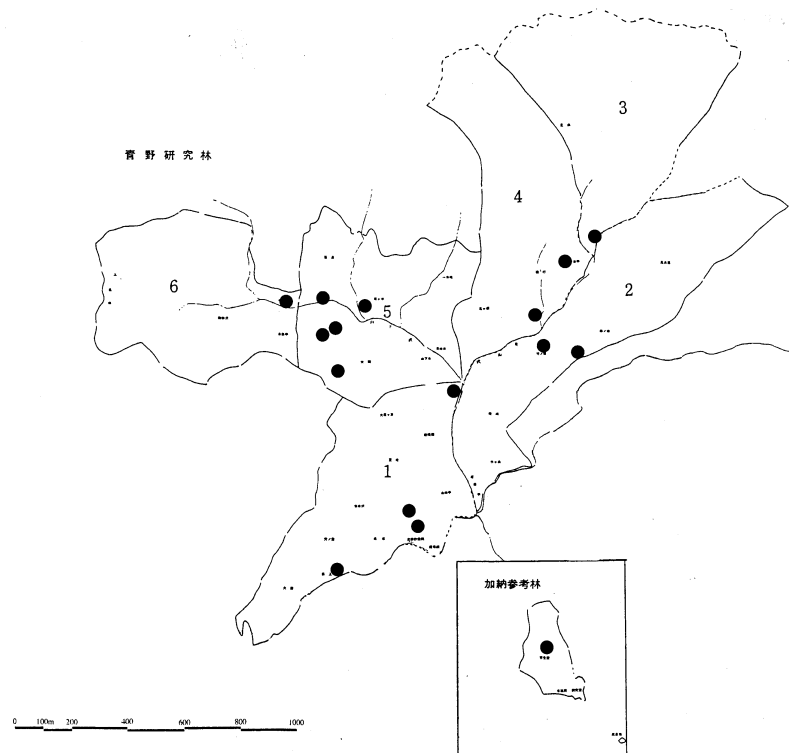
樹芸研究所：枝打ち



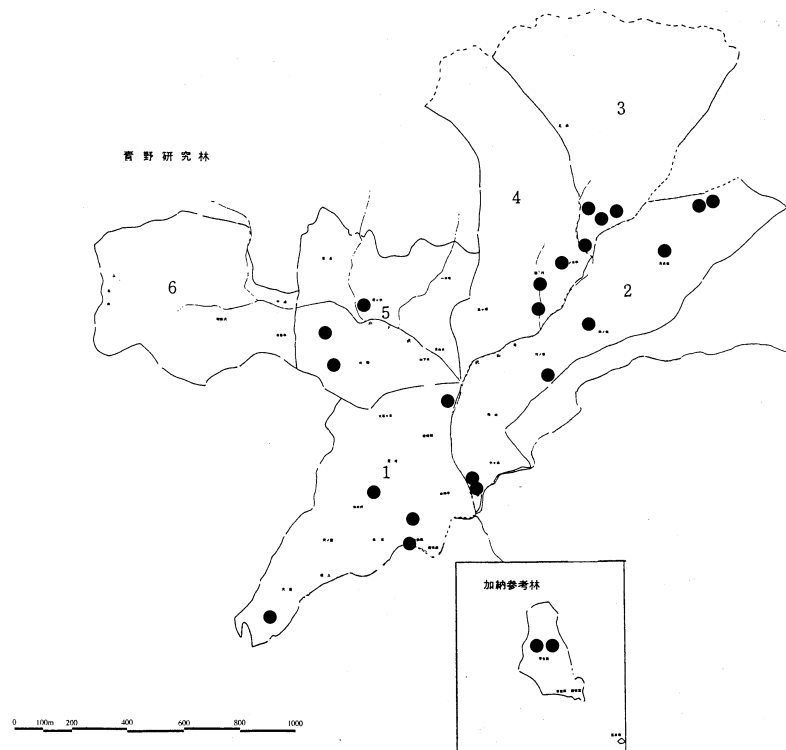
樹芸研究所：除伐

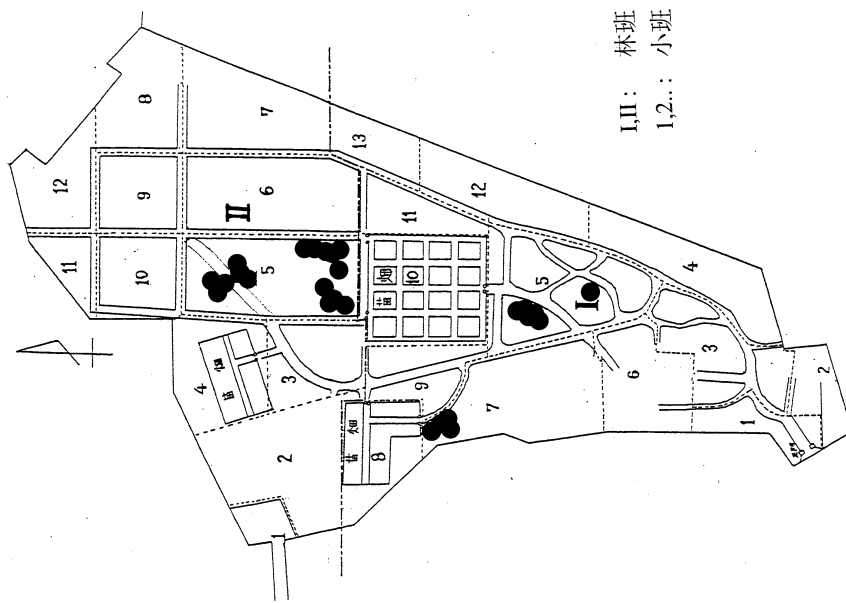


樹芸研究所：樹木園手入れ見本林手入れ



樹芸研究所：調査を行った調査値





林相別面積集計表

ha

	合計	樹林地								竹 林	伐 採 跡 地	未 立 木 地	そ の 他	
		計	人工林				天然林							
			小計	針葉 樹林	混交 林	広葉 樹林	小計	針葉 樹林	混交 林					広葉 樹林
千葉	2,170	2,102	841	811	21	9	1,261		366	895	1		67	
北海道	22,766	20,747	3,343	3,130		213	17,404	1,808	11,723	3,873		914	1,105	
秩父	5,821	5,757	767	749		18	4,990	117	60	4,813			64	
愛知	1,292	1,247	376	369		7	871		871				45	
富士	41	38	38	34	1	3							3	
樹研	246	214	132	73		59	82			82			32	
田無	9	6	6	2	3	1							3	
合計	32,345	30,111	5,503	5,168	25	310	24,608	1,925	13,020	9,663	1	914	1,319	

(備考)
 針葉樹林とは針葉樹蓄積が75%以上占める林
 広葉樹林とは広葉樹蓄積が75%以上占める林
 混交林とは上記以外の林

林相別蓄積集計表

	計	人工林	天然林	m ³
千葉	424,673	265,251	159,422	
北海道	4,038,000	368,000	3,670,000	
秩父	760,677	134,030	626,647	
愛知	195,565	58,751	136,814	
富士	3,493	3,493		
樹研	36,993	26,427	10,566	
田無	194	194		
合計	5,459,595	856,146	4,603,449	

立木伐採量

m³

		伐採材積（主伐）							間伐材積	主間伐合計
		計	人工林			天然林				
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	広葉樹		
千葉	立木処分	721	625	620	5	96		96	1,837	2,558
	素材生産資材量									
	その他									
	合計	721	625	620	5	96		96	1,852	2,573
北海道	立木処分	27,760	5,599	5,249	350	22,161	13,071	9,090	5,599	27,760
	素材生産資材量	3,408	245	245	-	3,163	2,266	897	245	3,408
	その他									
	合計	31,168	5,844	5,494	350	25,324	15,337	9,987	5,844	31,168
秩父	立木処分								1,015.36	1,015.36
	素材生産資材量	219.00	219.00	219.00						219.00
	その他									
	合計	219.00	219.00	219.00					1,015.36	1,234.36
愛知	立木処分	181	181	181					0	181
	素材生産資材量									
	その他									
	合計	181	181	181						181
富士	立木処分									
	素材生産資材量									
	その他									
	合計									
樹研	立木処分									
	素材生産資材量									
	その他									
	合計									
田無	立木処分									
	素材生産資材量									
	その他									
	合計									
合計	立木処分	28,662	6,405	6,050	355	22,257	13,071	9,186	8,451.36	31,514.36
	素材生産資材量	3,627	464	464		3,163	2,266	897	245	3,627
	その他									
	合計	32,289	6,869	6,514	355	25,420	15,337	10,083	8,696	35,141

（備考）北演：人工林はすべて間伐，収入の伴わない間伐は「切り捨て間伐」＝「除伐」として材積は算定せず

育林実行量

	造林		保育 (ha)	備考
	面積 (ha)	植栽本数		
千葉	1.25	3,810 本	27.47	下刈り 2.93ha ツル切り除伐 2.37ha 地拵え 2.06ha 枝打ち 2.83ha (直 1.46ha 請 1.37ha) 間伐 (請) 9.99ha シカ食害防止柵作り 0.55ha 松食い虫被害木除伐倒 6.74ha (直 0.05ha 請 6.69ha)
北海道	61.20	25,850 本	471.78	下刈り (直 36.48ha 請 120.23ha) つる切り (直 154.20ha 請 35.90ha) 間伐 97.28ha 種子散布 27.69ha (ミズナラ)
秩父	新植 0.24	補植含む 1,100 本	63.54	下刈り 2.10ha 除伐 (直 27.42ha 請 7.11ha) つる切り 4.61 ha 枝打ち 14.70ha 撫育間伐 7.60ha
愛知	0.50	1,860 本	16.25	
富士				
樹研	1.11	2,266 本	3.79	下刈り 0.66ha 除伐 3.08ha 枝打ち 0.05ha
田無				
合計	64.3	34,886 本	582.83	

(備考) 育林の内訳など

植栽樹種

	本				
千葉	樹種	スギ	アカマツ	クロマツ	
	本数	2,710	600	500	
北海道	樹種	トドマツ	アカエゾ	エゾマツ	カツラ
	本数	9,000	5,880	9,600	1,370
秩父	樹種	スギ	ヒノキ		
	本数	300	800		
愛知	樹種	ヒノキ			
	本数	1,860			
富士	樹種				
	本数				
樹研	樹種	アカシア	アカマツ		
	本数	2,016	290		
田無	樹種				
	本数				

素材生産総括表

m³

	素材生産資材量			素材生産量			歩留(%)		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹
千葉	15.326	15.326		10.728	10.728		70	70	
北海道	3,408.01	2,511.126	896.75	2,570.636	1,945.989	624.647	75	77	70
秩父	219.00	219.00		181.839	181.839		83	83	
愛知									
富士									
樹研									
田無									
合計	3,642.336	2,754.452	896.75	2,763.203	2,138.556	624.647	228	230	70

土木実行総括表

千葉	実行内容	林道開設	自動車道修繕	作業道修繕	歩道修繕		
	実行数量	46.8m	22,151m	78m	33,741m		
北海道	実行内容	新設	草刈り	補修	法面柴切	砂利運搬	地拵
	実行数量	8,000m	232,000m	56,400m	4,500m	12,300m	29.36ha
秩父	実行内容	自動車道新設	自動車道維持	歩道維持	報道吊り橋修理		
	実行数量	120m	11,636m	4,135m	1カ所 10.0m		
愛知	実行内容						
	実行数量						
富士	実行内容						
	実行数量						
樹研	実行内容	自動車道新設	自動車道維持	歩道維持			
	実行数量	28m	7,896m	554m			
田無	実行内容						
	実行数量						

道路現況

m

	車道延長				歩道延長	
	林道延長	作業道延長	計	密度 (m/ha)	延長	密度 (m/ha)
千葉	22,151	650	22,801	10.4	126,181	58
北海道	484,500	441,150	925,650	40.6	7,800	0.34
秩父	9,802	1,834	11,636	2.0	216,071	37.1
愛知	11,840	1,500	13,340	10.3	12,400	9.6
富士	1,937		1,937	47.3	2,357	57.5
樹研	3,292		3,292	13.4	11,753	47.8
田無						
合計	533,522	445,134	967,020		160,707	

利用状況

演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	題名	誌名	巻(号)	頁	年
酒井 暁子・酒井 聡樹	A Test for the Resource Remobilization Hypothesis: Tree Sprouting using Carbohydrates from Above-ground Parts	Annals of Botany	82	213-216	1998
中西 友子・唐鎌 勇 ・佐倉 詔夫・松林 政仁	Moisture Imaging of a Camphor Tree by Neutron Beam	RADIOISOTOPES	47(5)	387-391	1998
波羅 仁・則定 真利子 ・鈴木 誠・丹下 健 ・八木 久義	スギとタイフンスギの低温にともなう水分生理的变化	東大演報	99	111-123	1998
中嶋 健次・久保田 耕平	房総半島南部のスギ・ヒノキ壮齡林におけるスギカミキリの分布	東大演報	99	209-218	1998
蔵治 光一郎・山中 千恵子 ・永島 利夫・軽込 勉 ・則定 真利子	房総半島清澄山系の降雨特性 (I) —清澄観測点における平均年降雨量の算定—	東大演報	99	235-243	1998
蔵治 光一郎	森林の水質浄化機能 —最近の研究動向について	林業技術	675	11-14	1998
井出 雄二	第7回 バイテク林木育種研究会記録	林木の育種	188	41-42	1998
井出 雄二	林木のDNA分析法 (I) DNA分析の可能性	林木の育種	188	51-53	1998
山本 博一	森林の果たす教育的役割 —東京大学北海道演習林—	新林分化研究	19 特集号	25-40	1998
則定 真利子・丹下 健 ・鈴木 誠・佐々木 恵彦	Temporal and Spatial Variations in CO ₂ Concentration within a Japanese Cedar Forest on a Slope Land	東大演報	99	199-207	1998
宮沢 信一・里見 重成 ・寺島 一郎	Slow Leaf Development of Evergreen Broad-leaved Tree Species in Japanese Warm Temperate	Annals of Botany	82	859-869	1998
中西 友子・岡野 健 ・唐鎌 勇・石原 猛 ・松林 政仁	Three Dimensional Imaging of Moisture in Wood Disk by Neutron Beam during Drying Process	Holzforschung	52(6)	673-676	1998
田中 延亮・蔵治 光一郎・阿達 康真・太田 猛彦	Factors Detemining the Spatial Distyibution Characteristics of Throughfall	Environmental Forest Science - Extended Abstract Volume of IUFRO Division 8 Conference Proceedings		67-68	1998
柴田 英昭・中尾 登志雄・蔵治 光一郎	林内雨・樹幹流の測定法と問題点	ぶんせき	10	50-53	1998
山本 博一	The Forest Planning System of Japan	Proceedings of International Symposium on Global Concerns for Forest Resource Utilization	2	665-674	1998
相川美絵子	千葉演習林における立木単価の推移	平成10年度技術官等試験研究 研修会議報告 (東大演習林)		3-6	1998
塚越 剛史・米道 学	苗畑根切り虫 (コガネムシ類) 生態及び防除試験	平成10年度技術官等試験研究 研修会議報告 (東大演習林)		35-38	1998
笹川 裕史・白石 則彦 ・箕輪 光博	距離従属型の二段林下木成長モデルの作成	日林論	109	185-188	1998
山中 征夫・山根 明臣	ヤマビルの給餌法	日林論	109	403-406	1998
鈴木 誠・龍原 哲 ・山中 千恵子 唐鎌 勇 ・井出 雄二	千葉演習林における林分成長資料 —1976年から1996年までの成長経過—	演習林 (東大)	38	1-71	1999

発表者全氏名	題名	誌名	巻 (号)	頁	年
鈴木 誠	スギ・ヒノキ高齢林の経営論的研究—東京大学千葉演習林における人工林経営に関する実験—	東大演報	100	131-213	1998
山中 征夫	房総丘陵のヤマビル	房総の自然と環境	創刊号	160-163	1998
山本 博一	Der Universitätswald der Universität Tokyo auf Hokkaido	Forst und Holz		39-43	1999
東京大学農学部附属演習林	東京大学演習林気象報告（自1997年1月至1997年12月）	演習林（東大）	38	147-274	1999
蔵治 光一郎・田中 延亮 ・白木 克繁・唐鎌 勇 ・太田 猛彦	風速がスギ、ヒノキ壮齡林の樹幹流下量に及ぼす影響	平成8～10年度 科学研究費研究成果報告書		447-453	1999
山中 征夫・山中 千恵子	ヤマビルの個体数におよぼすニホンジカの捕獲の影響	日林関東支論	49	79-82	1999
小林 智夫	メタセコイアの縦溝形成要因	1998 年度卒論		1-14	1999
秋沢 淳子	様々な森林のA ₀ 層の酸性雨に対する緩衝能	1998 年度卒論		1-28	1999
加山 俊也	千葉演習林袋山沢流域における林床面蒸発量	1998 年度卒論		1-26	1999
吉藤 奈津子	樹冠葉面温度の実態とその形成機構	1998 年度卒論		1-27	1999
井上 彩子	サイクロメーターを用いた樹体内ポテンシャル測定法の開発	1998 年度卒論		1-24	1999
熊谷 明子	山地小流域における渓流水質の変動特性	1998 年度卒論		1-49	1999
新田 麻実子	千葉県安房郡猪ノ川におけるマレーズトラップで捕獲されたトビケラ目相について	1998 年度卒論		3-24	1999
田中 友里	ヒノキ壮齡林における樹冠流の水質形成	1998 年度修論		1-37	1999
波羅 仁	地下部の温度低下がスギの水分整理に与える影響	1998 年度修論		1-31	1999
保々 佐和子	千葉演習林における浮流土砂流出特性の研究	1998 年修論		1-43	1999
中村 大輔	千葉演習林袋山沢流域における森林伐に伴う斜面崩壊の予測	1998 年度修論		1-33	1999
野口 宏典	森林での土中CO ₂ のガス濃度と土壌呼吸の通年観測とその解析	1998 年度修論		1-31	1999
久米 明宣	樹液流測定に基づく熱帯モンスーン林の蒸発散量の解析	1998 年度修論		1-52	1999
楠本 大	ヒノキ漏脂病の発病に関わる傷害エチレンの作用機作	1998 年修論		1-56	1999
坂上 大翼	マツ材線虫病の病徴進展因子の解明	1998 年度修論		1-90	1999
岩本 晋	関東地方のモミ林におけるモミ落葉生息菌類相の比較研究	1998 年度修論		1-53	1999
佐倉 詔夫	スギ人工林における雑草木群落とその動態に関する研究	博士論文		1-118	1999
井上 広喜・鴨田 重裕 ・寺田 珠実・佐分 義正	Ginkgolide production in relation to organogenesis in Ginkgo biloba.	Journal of Wood Science	44(5)	375-378	1998
本橋 伸夫・木佐貫 博光 ・高橋 郁雄・鈴木 和夫	エゾマツ・トドマツ人工林の菌根性子実体組成の標高に伴う変化	日林論	109	285-286	1998
木佐貫博光・倉橋昭夫	エゾマツ7産地苗の開芽期の変異と晩霜害	日林北支論	47	58-60	1999

発表者全氏名	題名	誌名	巻 (号)	頁	年
木佐貫博光・倉橋昭夫	ロシア・中国産カラマツの 成長と黄葉フェノロジー	日林北支論	47	61-63	1999
梶 幹男	似て非なるもの「森林の環境」	日本林業技術協会		126-127	1999
北畠 琢郎・梶 幹男	異なる立地における捕食者の 分布パターンとブナ・ミズナラ 移植実生の生残過程	日林大会講演要旨集（愛媛大 学）			1999
岡村 行治・小笠原 繁男 ・鈴木 憲・梶 幹男	ミズナラの発芽定着と初期成長 に及ぼす幼根切断の影響	日林北支論	47	51-53	1999
梶 幹男・高橋 康夫	東京大学北海道演習林における ブナ産地別フェノロジー －1998年の開葉期と晩霜害－	日林北支論	47	54-57	1999
折橋 健・小島 康夫 ・小澤 修二・寺沢 実 ・夏目 俊二・門松 昌彦 ・梶 幹男・大賀 祥治	エゾシカによる ヨーロッパトウヒの食害 －道北多雪地帯における事例－	日林北支論	47	79-82	1999
折橋 健・小島 康夫・小澤 修 二・寺沢 実・夏目 俊二・門松 昌彦・梶 幹男・大賀 祥治	エゾシカによるカラマツ食害と 化学的防除－木酢液、木ター ル、ロジンの忌避効果－	日林北支論	47	83-86	1999
梶 幹男	ブナの北限問題解明に向けての 二つの新仮説	第7回環境学ワークショップ「自然 環境の構造と創造」講演要旨		5-6	
Homma Kosuke・Akashi Nobuhiro・Abe Tomoyuki・ Hsegawa Mikio・Harada Kenichi・ Hirabuki Yoshihiko・Irie Kiyoshi・ Kaji Mikio・Miguchi Kideo・ Mizoguchi Moriyasu・Mizunaga Hromi・Nkashizuka Tohru・ Natume Syunji・Niiyama Kaoru・ Ohkubo Tatsuhiro・Sawada Shin- ichi・Sugita Hisashi・Takatsuki Seiki・Yamanaka Norikazu	Geographical variation in the early regeneration process of Siebold's Beech(Fagus crenata Blume)in Japan	Plant Ecology	140	129-138	1999
梶 幹男	フクジュソウ「草と木の話106」	林野時報	45(1)	44	1998
梶 幹男	ヤドリギ「草と木の話107」	林野時報	45(2)	41	1998
梶 幹男	ナニワズ「草と木の話108」	林野時報	45(3)		1998
梶 幹男	エゾマツ「草と木の話109」	林野時報	45(4)	37	1998
梶 幹男	ユリノキ「草と木の話110」	林野時報	45(5)		1998
梶 幹男	ノリウツギ「草と木の話111」	林野時報	45(6)	34	1998
梶 幹男	イチイ「草と木の話112」	林野時報	45(7)	37	1998
梶 幹男	ブナ「草と木の話113」	林野時報	45(8)	40	1998
梶 幹男	アポイカンバ「草と木の話114」	林野時報	45(9)	35	1998
梶 幹男	アカエゾマツ「草と木の話115」	林野時報	45(10)	45	1999
梶 幹男	コーラノキ「草と木の話116」	林野時報	45(11)	43	1999
梶 幹男	パラソルトゥリー 「草と木の話117」	林野時報	45(12)	41	1999
梶 幹男	パッドック「草と木の話118」	林野時報	46(1)	36	1999
梶 幹男	ボルネオテツボク 「草と木の話119」	林野時報	46(2)	33	1999
梶 幹男	オオバナノエンレイソウ 「草と木の話120」	林野時報	46(3)	42	1999
仁多見 俊夫・岩本 進一 ・福士 憲司・笠原 久臣	Forest Disturbance and Efficiency of Vehicle Logging Operations through Selective Cutting Harvest in a Natural Forest	Environmental Forest Science	54	75-82	1998

発表者全氏名	題名	誌名	巻 (号)	頁	年
仁多見 俊夫	北欧山岳国の素材生産技術と補助制度	山林	1393	36-41	1998
蒲谷肇・澤田晴雄・大畑茂	ミズナラとコナラの産地別苗のフェノロジー (1)	日林論関東支論	50	75-77	1998
澤田晴雄・蒲谷肇・大村和也・千嶋武	東京大学秩父演習林内ミズナラ6個体のフェノロジー	日林論関東支論	50	79-80	1998
奥田裕規・井上真・安村直樹・立花敏・山本伸幸・久保山裕史	親子の繋がりからみた東北地方山村の現状と今後の展望 ー遠野地域の山村集落を例にー	林業経済研究	44(2)	37-42	1998
立花敏・井上真・安村直樹・奥田裕規・山本伸幸・久保山裕史	人的繋がりからみた首都圏近郊山村の現状と展望 ー埼玉県大滝村を事例にー	林業経済研究	44(2)	67-72	1998
山本伸幸・井上真・立花敏・奥田裕規・安村直樹・久保山裕史	人的繋がりからみた中国地方山村の現状と展望 ー島根県の山村集落を事例にー	林業経済研究	44(2)	79-84	1998
安村直樹・永田信	アンケート結果の概要	東大演報	100	13-27	1998
久保山裕史・永田信・立花敏・安村直樹・山本伸幸	近年の森林施業規制が北米の針葉樹材生産に与えた影響に関する考察	林業経済研究	45(1)	123-128	1999
大畑茂・澤田晴雄・大村和也・五十嵐勇治・小河民也・平野和男・大村幸正・神塚武一・黒沢音治・千島啓之助	大雪による若齢造林木への被害状況	平成10年度技術官等試験研究・研究会議報告		17-27	1998
佐々木和男・田代八郎・斎藤俊浩	秩父演習林影森苗畑のコガネムシ類	平成10年度技術官等試験研究・研究会議報告		51-55	1998
芝野博文				273-282	1998
井上 淳・高德佳絵・原 孝秀	愛知演習林白坂苗畑の概要および経過と課題 ー土壌改良によるヒノキ苗の形質向上をめざしてー	平成10年度技術官等試験研究・研修会議報告		56-65	1999
芝野 博文・八木久義	渇水時における都市近郊水源林の水資源供給量の評価に関する研究	平成8年度ー平成10年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書	46	1-61	1998
桐村 剛	渇水時における都市近郊水源林の水資源供給量の評価に関する研究	平成8年度ー平成10年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書	46	1-77	1998
芝野 博文	渇水時における都市近郊水源林の水資源供給量の評価に関する研究	平成8年度ー平成10年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書	46	1-36	1998
芝野博文	Private idea of research methodology on wide area water balance along 38 ° N latitude in North China Plain	Proceedings of International Workshop on Method of Field Investigation of Water Cycle and China-Japan NCP Project	46	50-62	1998
金澤昭典・服部重昭・朴 昊澤・井上 淳	林内日射量の鉛直分布の実態把握	中部森林研究	47	1-4	1999
劉 若剛・鈴木雅一・芝野博文・太田猛彦	山地流域の流況曲線に与える降雨の年々変動の影響	日本林学会誌	80(3)	184-188	1998
筒井健介	花崗岩流域における浮土砂の流出特性とその供給プロセスに関する研究	千葉大学大学院自然科学研究科修士論文		1-27	1999
白木克繁	3次元飽和不飽和浸透流モデルを用いた山地流域の流出解析に関する研究	東京大学大学院農学生命科学研究科博士論文		1-92	1999
千島 茂・西山 教雄	ヒノキの間伐試験(材積と間伐後の景観)	平成10年度技術官等試験研究研修会議報告		28-34	1998
周志華・三輪誠・宝月岱造	外生菌根の繁殖様式に関する研究: Suillus grevillei の microsatellite について	第109回日本林学会大会講演要旨集		311	1998

発表者全氏名	題名	誌名	巻 (号)	頁	年
会田 あゆみ	太平洋型ブナ林の更新	1998 年度特別問題研究報告書		1-40	1998
藤井尚子	日本海型および太平洋型ブナ林における更新の状態	1998 年度特別問題研究報告書		1-32	1998
太田 祐子・松下 範久 ・長沢 栄史・寺下 隆喜代 ・福田 健二・鈴木 和夫	Biological species of Armillaria in Japan	Plant Disease	82(5)	537-543	1998
湯 定欽・池田 裕行 ・渡邊 良広・村瀬 一隆 ・井出 雄二	異なる繁殖方法により 造成されたヒノキ人工林分の 遺伝的多様性	東大演報	99	125-132	1998
村瀬 一隆・辻 和明・辻 良子 ・渡邊 良広	クスノキ稚樹の被陰条件下 における成長と葉の形態的变化	平成 10 年度技術官等試験研究・ 研修会議報告		66-73	1998
樹芸研究所	東京大学農学部附属演習林 樹芸研究所青野試験林の植物	演習林（東大）	38	73-125	1999
スカルティニンシー	熱帯樹木バイオテクノロジー 研究のためのモデルシステムの 構築	東京大学博士論文		1-296	1999
波羅 仁	地下部の温度低下がスギの 水分生理に与える影響	東京大学修士論文		1-81	1999
小林 智夫	メタセコイアの縦溝形成要因	東京大学卒業論文		1-67	1999
八木 久義・丹下 健 ・小島 克己・芝野 博文 ・春田 泰次	A ₀ 層を用いた酸性雨に起因 する森林土壌の酸性化防止技術	平成 7 年度～平成 9 年度 科学研究費補助金（基盤研究 (A) (2)）研究成果報告書		1-67	1999
小林 智夫	メタセコイアの縦溝形成要因	卒業論文		1-67	1999
古川原 聡	高二酸化炭素濃度下における アカマツ実生苗の 形態的・生理的反応	卒業論文		1-32	1999
秋澤 淳子	様々な森林の A ₀ 層の 酸性雨に対する緩衝能	卒業論文		1-54	1999
波羅 仁	地下部の温度低下が スギの水分生理に与える影響	修士学位論文		1-83	1999
森崎 雅典・福田 健二 ・鈴木 和夫	中国黄土高原に生育する樹種の 水分生理特性と降水量傾度	日林論	109	301-304	1998
坂上 大翼・福田 健二 ・鈴木 和夫	マツ材線虫病およびライト ウットにおける木部通道阻害	日林論	109	363-366	1998
坂上 大翼	マツ材線虫病の 病徴進展因子の解明	修士論文		1-90	1999
伊奈 康治	ダンゴムシ類の 生息環境としてのアオキ群生地	修士論文		1-65	1999
森 直樹	モミジニタイケアブラムシ 春季の繁殖における カエデ生物季節との対応	卒業論文		1-18	1999
山中 靖広	都市近郊林における 下層植生と鳥類散布型樹種	卒業論文		1-38	1999
奈良 一秀・宝月 岱造	樹木-外生菌根菌共生系に おけるリン酸の動態 外生菌根菌	日林論	109	287-288	1998
川原 美千代	熱帯での利用を目的とした 菌根菌接種源の検討	修士論文			1998
篠根 理孝	富士山における一次遷移の研究 - マイクロサテライト DNA 多型解析法を用いた イタドリ の繁殖様式の解析 -	修士論文			1998
宮下 直哉	外生菌根菌の養分吸収と繁殖に 宿主の生理状態が及ぼす影響	修士論文			1998

発表者全氏名	題名	誌名	巻 (号)	頁	年
魏 劉松	人工杉林及び草地における 水収支の時空間分布特性 に関する研究	修士論文		1-41	1999
湯定欽・沈海龍・井出雄二	秩父地域における ヒノキ林のアイソザイム変異	東大演報	99	1-10	1998
沈海龍・渡辺信・井出雄二	"Establishment of a callus culture system of <i>Populus euphratica</i> , <i>Populus alba</i> cv. <i>Pyramidalis</i> and <i>Populus maximowiczii</i> x <i>Populus</i> <i>plantierensis</i> "	Bull. Tokyo Univ. Forests	99	19-26	1998
湯定欽・池田裕行・渡邊良弘 ・村瀬一隆・井出雄二	異なる繁殖方法により 造成されたヒノキ人工林分の 遺伝的多様性	東大演報	99	125-132	1998
井出雄二	林木の DNA 分析法 (1) — DNA 分析の可能性① —	林木の育種	188	51-53	1998
井出雄二	<i>Populus euphratica</i> の 環境耐性機構の解明	Proc. International Symposium on Environmental Ecology Landscape for 21 Century, Korea		10-11	1998
鈴木誠・龍原哲・山中千恵子 ・唐鎌勇・井出雄二	千葉演習林における林分成長 資料 (III) — 1976 年から 1996 年までの成長経過 —	演習林	38	1-72	1999
佐藤孝敏・井出雄二	東京大学農学部附属演習林 樹芸研究所青野試験林の植物	演習林	38	73-125	1999
スカルティニンシー ・中村健太郎・井出雄二	Clonal propagation of <i>Gmelina</i> <i>arborea</i> Roxb. By in vitro culture	J. For. Res.	4(1)	47-51	1999
井出雄二	天然林施業における 植物の種多様性及び 遺伝的多様性の動態解析	平成 8 年度～ 10 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 b)(2)) 研究成果報告書		1-63	1999
スカルティニンシー	Establishment of a model system for biotechnological studies of tropical tree species	東京大学博士論文		1-296	1999
高美喜男・川口和範・石田健	オオトラツグミ <i>Zoothera (dauma)</i> major とトラツグミ <i>Z. d. aurea</i> の保護個体の 形態およびオオトラツグミの 保護対策への付言	Strix	17	191- 196	1999
石田健・杉村乾・山田文雄	奄美大島の自然とその保全	生物科学	50(1)	55-64	1998
石田健	島嶼に生息する キツキ類個体群の保全	Wildlife Forum	3	128-129	1998
石田健	島嶼に生息する キツキ類個体群の保全	野鳥	611	12-13	1998
石田健	森をはかる (鳥の数と種類)	森林科学	24	38-38	1998

全利用者

千葉演習林

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
1	4	5	東大農砂防	1	1	5	0	7	水文・水質観測	
2	4	3	東大秩父演習林	1	0	0	3	4	JICA カウンターパート研修	清澄学生宿舎
3	4	2	東大秩父演習林	1	0	0	5	6	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
4	4	1	筑波大学	0	0	1	0	1	モミのリター分解菌調査	
5	4	6	東大農経理	0	0	1	0	1	根系の広がりや発達に対する樹木地上部・立地	
6	4	2	千葉大学・理	1	0	1	0	2	常緑広葉樹シュートフェノロジー	
7	4	1	樹木を見て歩こう会	1	0	0	4	5	フサザクラの開花を見る	
8	4	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	研究対象地設定予備調査	清澄学生宿舎
9	4	1	千葉県自然保護連合	5	5	0	20	30	七里川溪谷の景観と動植物相の観察	
10	4	2	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの生態調査	清澄学生宿舎
11	4	3	東大演習林研究部	7	0	7	0	14	森林生態圏管理学大講座ゼミ	清澄学生宿舎
12	4	2	東京農工大学	0	0	1	0	1	土壌溶液の採集	
13	4	5	東大農造林	2	28	7	0	37	造林学実験	清澄学生宿舎
14	4	1	日本植物防疫協会	0	0	0	4	4	主に樹木・野生植物・昆虫を対象とした観察	
15	4	2	東大農植物	0	0	1	0	1	Cistella 菌接種木のエチレン生成	
16	4	1	東大農動物	0	0	1	0	1	スギカミキリ飼育の材料採集	
17	5	2	千葉大学・院	0	0	1	0	1	年間利用計画書作成予備調査	
18	5	2	東大農砂防	1	2	4	0	7	水文・水質観測	
19	5	2	東大農砂防	1	0	3	0	4	土壌中 CO2 ガス濃度と土壌呼吸の日変化観測	札郷宿舎
20	5	2	東大農砂防	0	1	4	0	5	水文・水質観測	札郷宿舎
21	5	1	千葉大学・園	3	9	8	1	21	清澄周辺山林見学	
22	5	1	天津小学校	6	0	0	0	6	森林教室の下見	
23	5	1	君津市	0	0	0	35	35	一般市民の自然体験学習	
24	5	2	東大農植物	0	0	1	0	1	エフ処理による傷害樹脂道の生成	
25	5	2	東京工業大学	1	2	0	0	3	酸性雨、降雨分布調査	
26	5	7	東大農経理	0	0	1	0	1	根系の広がりや発達に対する樹木地上部・立地	札郷宿舎
27	5	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	林木の花・果実・種子の形態	清澄学生宿舎
28	5	15	千葉大学・理	1	0	1	0	2	常緑広葉樹のシュートフェノロジー	
29	5	5	東大農経理	2	12	3	0	17	森林経理学実習	札郷宿舎

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
30	5	2	東大秩父演習林	2	0	0	3	5	房総の自然研究会月例会	
31	5	2	東京農工大学	0	0	1	0	1	土壌溶液の採集	
32	5	1	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの採集	
33	5	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	東大教養学部全学自由研究ゼミナール講義	清澄学生宿舎
34	5	2	東大千葉演習林	0	0	0	20	20	東大教養学部全学自由研究ゼミナール講義	清澄学生宿舎
35	6	5	東大理地質	4	11	1	0	16	学部生「地質調査Ⅰ」実習	清澄学生宿舎
36	6	5	新潟大学・農	1	0	0	0	1	環境保全型複層林経営システムに関する研究	札郷宿舎
37	6	3	東大農砂防	0	1	4	0	5	袋山水文観察及びフラックス測定	
38	6	2	東京工業大学	1	1	0	0	2	大雨時の渓流水サンプリング	
39	6	1	東京工業大学	1	1	0	0	2	酸性雨調査に関わる機材の輸送	
40	6	2	東京工業大学	1	2	8	0	11	試験地の見学	清澄学生宿舎
41	6	2	東北大学・理	1	0	4	0	5	常緑広葉樹の光合成特性と生態学的意義	札郷宿舎
42	6	2	東北大学・理	2	0	4	0	6	常緑広葉樹の光合成特性と生態学的意義	札郷宿舎
43	6	2	東北大学・理	2	0	6	0	8	常緑広葉樹の光合成特性と生態学的意義	札郷宿舎
44	6	2	東大秩父演習林	2	0	0	2	4	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
45	6	2	東海大学理化研	1	0	0	0	1	電磁気学的アプローチによる短期的地震予知	
46	6	2	東大農動物	1	0	0	0	1	森林の環境変化と地表性甲虫類の関係	清澄学生宿舎
47	6	2	県立君津農林高校	2	26	0	0	28	樹木見本林及び試験地見学	
48	6	2	泰野市	0	0	2	1	3	流水による岩盤の浸食	札郷宿舎
49	6	2	千葉県野鳥の会	0	0	0	1	1	鳥類の観察	
50	6	1	千葉大学・教	1	1	1	1	4	アモニ菌の発生機作に関する研究	
51	6	7	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
52	6	2	県立安房南高校	1	4	0	0	5	千葉演習林の動植物の見学	郷台宿舎
53	6	2	県立長狭高校	1	4	0	0	5	千葉演習林の動植物の見学	郷台宿舎
54	6	1	多古町教育委員会	0	0	0	6	6	フロンティアアドベンチャー事業の行程下見と打合せ	
55	6	2	東大農砂防	2	6	5	3	16	利用者研究説明会・定期水文観測	清澄学生宿舎
56	6	4	東海大学理化研	3	4	2	0	9	電磁気学的アプローチによる短期的地震予知	
57	6	2	東京農工大学	0	0	2	0	2	林内外雨、土壌溶液の採集	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
58	6	3	東大農生態圏	0	0	1	0	1	コウヨウザンの花芽形成促進に関する研究	清澄学生宿舎
59	6	3	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	ポプラの継代培養及びモミの資料採取	清澄学生宿舎
60	6	1	東大農植物	0	0	1	0	1	ヒキの傷害樹脂道形成位置の季節変化	
61	6	1	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの生態調査	
62	6	5	東大農経理	0	0	1	0	1	根系の広がりや発達に対する樹木地上部・立地	札郷宿舎
63	6	6	静岡大学・理	3	15	1	0	19	演習林内での地質調査	清澄学生宿舎
64	7	1	東大秩父演習林	1	0	0	0	1	林道基板評価整備見直し検討	
65	7	3	東大農砂防	1	2	3	0	6	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	
66	7	3	東大農砂防	1	2	5	1	9	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	札郷宿舎
67	7	3	東大農砂防	0	3	6	0	9	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	札郷宿舎
68	7	1	千葉大学・理	1	0	1	0	2	常緑広葉樹のシュートフェノロジーと芽の構造	
69	7	5	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
70	7	12	東京工業大学	1	2	4	0	7	酸性雨による影響未然防止対策調査	札郷宿舎
71	7	2	東京工業大学	1	3	1	0	5	酸性雨による影響未然防止対策調査	
72	7	1	東京電力環境部	0	0	0	5	5	自然観察会の実施に伴う下見	
73	7	1	東京電力環境部	0	0	0	11 0	11 0	自然観察会の実施	
74	7	2	東京電力環境部	0	0	0	5	5	自然観察会の準備及び撤収	
75	7	5	東大生物材料科学	1	25	1	0	27	森林科学実習	清澄学生宿舎
76	7	1	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	
77	7	3	東大附属高校	2	14	0	0	16	照葉樹林の生態系解析実習	清澄学生宿舎
78	7	1	東大農生態圏	0	0	1	0	1	コウヨウザンの花芽形成促進に関する研究	
79	7	4	東大農経理	0	0	1	0	1	根系の広がりや発達に対する樹木地上部・立地	札郷宿舎
80	7	1	県立中央博物館	1	0	0	0	1	球果の方向とその物理的特性との相関	
81	7	1	東京農工大学	0	0	2	0	2	林内外雨、土壌溶液の採集	
82	8	2	東大千葉演習林	5	3	0	0	8	教養学部ゼミナール	
83	8	2	横浜国立大学	1	6	0	0	7	林業実態の見学	
84	8	5	演習林研究部	1	0	0	0	1	モミの繁殖様式に関する研究	清澄学生宿舎
85	8	3	東大森林科学	1	3	4	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	札郷宿舎

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
86	8	3	九州大学演習林	1	4	0	0	5	CO2 土壌調査（共同研究）	札郷宿舎
87	8	3	九州大学演習林	1	0	0	0	1	千葉演習林現地踏査	札郷宿舎
88	8	2	東大農砂防	0	2	6	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	
89	8	2	東大農砂防	0	2	6	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	札郷宿舎
90	8	2	東大農動物	1	0	0	0	1	森林の環境変化と地表性甲虫類の関係	
91	8	3	宇都宮大学・農	1	44	8	0	53	樹木学実習	
92	8	6 ～ 7	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	小中学校理科講座	清澄学生宿舎
93	8	6 ～ 7	県総合教育センター	28	0	0	0	28	小中学校理科講座	
94	8	12	東京工業大学	1	2	1	0	4	酸性雨による影響未然防止対策調査	
95	8	30	東京工業大学	10	0	0	0	10	試験地の見学	
96	8	31	東京工業大学	1	1	0	0	2	酸性雨による影響未然防止対策調査	
97	8	11	君津亀山少年の家	45	0	5	2	52	自然体験学習	
98	8	12	立正大学・文	0	1	0	1	2	清澄山系での崩壊危険予測	
99	8	1	宇都宮大学・農	0	0	1	0	1	ヤマビルの生息地域調査	
100	8	20	東北大学・理	0	1	0	0	1	房総半島上総層群の古環境解析	札郷宿舎
101	8	3	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
102	8	3	女子栄養大学	1	1	0	0	2	シカ活動域の踏査	
103	8	1	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	
104	8	1	筑波大学	0	0	1	0	1	モミリター分解菌の調査	
105	8	2	東大秩父演習林	2	0	0	3	5	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
106	8	6	京都大学・理	2	18	2	0	22	地質調査法野外実習（3 回生）	清澄学生宿舎
107	8	1	東京農工大学	0	0	2	0	2	林内外雨、土壌溶液の採集	
108	9	4	東大農砂防	0	2	6	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	
109	9	2	東大農砂防	0	2	6	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	郷台宿舎
110	9	3	総野小学校	1	0	0	0	1	蝶の発生数の調査	
111	9	1	東大農植物	0	0	1	0	1	ヒキの傷害樹脂形成位置の季節変化他	
112	9	5	立正大学・文	0	1	0	0	1	清澄山系での崩壊危険予測	札郷宿舎
113	9	1	内浦山県民の森	0	0	0	6	6	自然観察とハイキング（下見）	
114	9	1	内浦山県民の森	0	0	0	1	1	ハイキング	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
115	9	5	宇都宮大学・農	0	0	1	0	1	ヤマビルの地形林層別の生息個体数の相違	
116	9	5	宇都宮大学・農	0	0	1	0	1	ヤマビルの地形林層別の生息個体数の相違	
117	9	3	東大農砂防	0	0	1	0	1	水文・気象観測	札郷宿舎
118	9	5	東大農砂防	0	3	1	0	4	水文・気象観測	札郷宿舎
119	9	2	東大農砂防	0	3	0	0	3	水文・気象観測	札郷宿舎
120	9	4	泰野市	0	0	0	1	1	流水による岩盤浸食	札郷宿舎
121	9	2	千葉大学・理	1	0	1	0	2	常緑広葉樹のシュートフェノロジー	
122	9	3	東大農植物	2	26	3	0	31	森林植物学自習	清澄学生宿舎
123	9	1	県立中央博物館	0	0	0	8	8	菌類調査	
124	9	5	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
125	9	3	東京工業大学	1	1	0	0	2	酸性雨による影響未然防止対策調査	
126	9	16	東京農工大学	0	0	2	0	2	林内外雨、土壌溶液の採集	
127	9	2	東大秩父演習林	2	0	0	3	5	房総の自然研究会月例会	
128	9	4	東大千葉演習林	0	11	0	0	11	総合科目 D 講義の為	清澄学生宿舎
129	9	4	演習林研究部	1	0	0	0	1	総合科目 D 講義の為	清澄学生宿舎
130	9	3	千葉大学・理	4	20	3	0	27	地質学実験 2 (実習) の為	清澄学生宿舎
131	9	1	千葉大学・理	1	0	1	0	2	樹木の葉の撮影と調査	
132	9	4	演習林研究部	1	0	0	0	1	モミの繁殖様式に関する研究	札郷宿舎
133	9	1	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	
134	9	3	静岡大学・農	4	0	1	0	5	林地の見学	清澄学生宿舎
135	10	2	千葉大学・理	4	3	0	0	7	ラ・ラグナ大学の教授の案内	清澄学生宿舎
136	10	1	千葉大学・理	1	0	1	0	2	樹木の葉の撮影と調査	
137	10	7	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
138	10	4	東大農経理	0	0	1	0	1	根系の広がりや発達に対する樹木地上部・立地	札郷宿舎
139	10	10	立正大学・文	0	1	0	0	1	清澄山系での崩壊危険予測	札郷宿舎
140	10	1	新ハイツクラブ	0	0	0	4	4	植生と地質の観察	
141	10	10	東京工業大学	1	2	3	0	6	酸性雨による影響未然防止対策調査	札郷宿舎
142	10	4	東京工業大学	1	2	2	1	6	酸性雨による影響未然防止対策調査	札郷宿舎
143	10	3	東京工業大学	1	1	1	0	3	酸性雨による影響未然防止対策調査	札郷宿舎
144	10	5	東大農砂防	0	2	6	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	
145	10	1	新潟大学・農	1	1	1	0	3	袋山流域及び新田気象観察施設視察	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
146	10	8	宇都宮大学・農	0	0	1	0	1	ヤマビルの地形林層別の生息施設視察	
147	10	1	県立中央博物館	1	0	1	2	4	菌類調査	
148	10	3	東大農造林	1	1	0	0	2	メタセコイヤの肥大成長特性	
149	10	1	君津市	0	0	0	45	45	植物観察	
150	10	1	東京農工大学	1	0	1	0	2	林内外雨、土壌溶液の採集	
151	10	1	岬町	0	0	0	10	10	樹木・草本の勉強及び造林育林の見学	
152	10	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	モミの繁殖様式に関する研究	
153	10	1	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	
154	10	1	天津小学校	4	79	0	79	162	「緑の教室」森林における動植物の学習	
155	10	2	内浦山県民の森	0	0	0	250	250	催事 (房総脊梁ロングハイキング)	
156	10	2	東大秩父演習林	2	0	0	2	4	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
157	10	4	東大秩父演習林	1	0	1	8	10	ニホンザルの生息調査	
158	10	5	東北大学	1	2	5	0	8	常緑広葉樹の光合成特性とその生態学的意義	札郷宿舎
159	10	2	東大演習林研究部	20	0	0	0	20	演習林技術官等試験研究会議	清澄学生宿舎
160	11	1	筑波大学	0	0	1	0	1	モミリター分解菌の調査・採集	
161	11	2	演習林本部	5	0	0	0	5	平成10年度給与簿監査	清澄学生宿舎
162	11	4	東大農砂防	1	3	4	0	8	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	札郷宿舎
163	11	24 ～ 25	東大農砂防	0	3	4	0	7	袋山水文観察・フラックス試験地における観測	札郷宿舎
164	11	4	鴨川市	0	0	0	1	1	植物観察	
165	11	4	立正大学・文	0	1	0	0	1	清澄山系での崩壊危険予測	札郷宿舎
166	11	6	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
167	11	1	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
168	11	2	天津小学校	2	39	0	0	41	社会科学習「森林の働きと私達の生活」	
169	11	8	千葉大学	0	0	1	0	1	地質調査及びサンプリング	
170	11	2	演習林研究部	1	0	0	0	1	「清澄山の森林」特定植物群落調査	清澄学生宿舎
171	11	2	演習林研究部	1	0	0	0	1	袋山沢の林分及び下層植生調査	
172	11	1	静岡県掛川市	0	0	0	100	100	研修視察	
173	11	1	揖斐木材協同組合	0	0	0	10	10	森林見学	
174	11	1	内浦山県民の森	0	0	0	3	3	自然観察と催事の下見	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
175	11	1	八重原公民館	0	0	0	5	5	公民館主催事業 「自然と人間を考える講座」	
176	11	1	日本製紙連合会	0	0	0	12	12	育林技術現地研究会の開催	
177	11	1	東京工業大学	1	0	0	0	1	酸性雨による 影響未然防止対策調査	
178	11	1	千葉大学・理	1	0	1	0	2	常緑広葉樹の シュートフェノロジー	
179	11	3	宇都宮大学・農	0	0	1	0	1	ヤマビルの地形林層別の 生息個体数の相違	
180	11	1	生命の森学園	1	4	0	0	5	環境デザイン科の 教科指導の為	
181	11	4	新潟大学・農	2	2	0	0	4	環境保全型複層林経営 システムに関する研究	清澄学生宿舎
182	11	4	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	
183	11	1	千葉市	0	0	0	10	10	自然観察	
184	11	1	国際協力センター	0	0	0	2	2	更新技術	
185	11	1	亀山ダム事務所	0	0	0	12	12	ダム周辺自然環境現地視察	
186	11	2	県立中央博物館	0	0	0	6	6	ニホンジカの植生への 影響調査	
187	11	1	東大農生態圏	0	0	2	0	2	コウヨウザンの花芽形成促進	
188	11	1	JR 君津駅	0	0	0	10 0	10 0	紅葉と自然観察	
189	11	1	少年自然の家	25	0	20	6	51	紅葉ハイキング	
190	11	1	内浦山県民の森	0	0	0	50	50	自然観察とハイキング	
191	11	1	君津市	0	0	0	12 0	12 0	ハイキング	
192	11	1	アマチュア写真クラブ	0	0	0	20	20	紅葉の撮影会	
193	11	1	県立木更津高校	10	0	0	90	10 0	野鳥・水生生物・地層等の観察	
194	11	1	東大秩父演習林	1	0	0	0	1	リタートラップ回収	
195	11	1	八重原公民館	0	0	0	30	30	公民館主催事業 「自然と人間を考える講座」	
196	12	2	演習林本部	5	0	0	0	5	会計実地監査	清澄学生宿舎
197	12	2	東大農砂防	0	2	4	0	6	袋山水文観察・フラックス 試験地における観測	札郷宿舎
198	12	2	東大農砂防	0	7	4	0	11	新田鉄塔フラックス集中観測	札郷宿舎
199	12	2	東大農砂防	0	5	1	0	6	新田鉄塔フラックス集中観測	札郷宿舎
200	12	3	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
201	12	1	茂原市	0	0	0	1	1	自然観察	
202	12	1	千葉市	0	0	0	4	4	自然観察	
203	12	5	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	清澄学生宿舎

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
204	12	4	東大農経理	2	16	1	0	19	森林計測学野外実習	清澄学生宿舎
205	12	1	ふわくハイキングサークル	0	0	0	4	4	野草観察	
206	12	1	東京工業大学	1	0	0	0	1	酸性雨による 影響未然防止対策調査	
207	12	2	東大秩父演習林	2	0	0	2	4	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
208	12	1	木更津市	0	0	0	3	3	自然観察	
209	12	2	東大農経理	0	1	0	0	1	根系の空間分布に対する 樹木地上部・立地	札郷宿舎
210	1	1	市原植物研究会	0	0	0	9	9	ツリーウォッチング	
211	1	1	ふわくハイキングサークル	0	0	0	10	10	野草観察	
212	1	2	東大千葉演習林	12	0	1	1	14	新プロ「新植物チーム」班会議	清澄学生宿舎
213	1	3	東大農砂防	0	4	2	0	6	袋山水文観察及び フラックス測定	
214	1	2	東大農砂防	0	4	2	0	6	袋山水文観察及び フラックス測定	札郷宿舎
215	1	1	東大農経理	0	1	0	0	1	千葉演習林の第1次計画経営	
216	1	1	森林インストラクター会	0	0	0	5	5	自然観察・演習林内見学(下見)	
217	1	1	森林インストラクター会	0	0	0	50	50	自然観察・演習林内見学	
218	1	2	東京工業大学	1	0	0	0	1	酸性雨による 影響未然防止対策調査	
219	1	2	東大千葉演習林	4	1	0	0	5	ニホンジカの生息数調査	清澄学生宿舎
220	1	5	千葉大学・理	1	1	0	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
221	1	5	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞研究	清澄学生宿舎
222	1	1	千葉大学・理	1	1	0	0	2	常緑広葉樹のシュート フェノロジーと樹型発達	
223	1	3	東大農経理	1	0	0	0	1	持続可能な森林経営の為の 基準・指標	清澄学生宿舎
224	1	2	東大秩父演習林	2	0	0	3	5	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
225	1	1	県立中央博物館	0	0	0	8	8	ゴボウ沢のシダ植物の遷移	
226	2	3	県立中央博物館	0	0	0	2	2	ニホンジカの糞粒調査	
227	2	1	千葉大学・理	1	0	1	0	2	常緑広葉樹のシュート フェノロジー	
228	2	4	東大農砂防	0	2	4	0	6	袋山水文観察及び フラックス測定	
229	2	1	東大農砂防	0	0	2	3	5	水文観察施設見学	
230	2	5	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
231	2	1	内浦山県民の森	0	0	0	4	4	催事(ふれあいウォーク)の下見	
232	2	1	内浦山県民の森	0	0	0	10 0	10 0	催事(ふれあいウォーク)	
233	2	1	千葉県猟友会	0	0	0	33	33	有害鳥獣駆除(ニホンジカ)	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
234	2	1	東大農砂防	0	0	1	0	1	航空写真を用いた崩壊跡地の追跡・地表植生	
235	2	2	東大樹芸研究所	3	0	0		3	アカマツ苗木の分譲及び研究の打ち合わせ	清澄学生宿舎
236	2	1	演習林研究部	1	0	0	0	1	ヒノキ林調査	
237	2	1	朝日新聞	0	0	0	1	1	本多静六博士と演習林の取材	
238	2	2	東大秩父演習林	2	0	0	3	5	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
239	2	1	県立千葉工業高校	0	10	0	13	23	道標の点検及び周辺の清掃	
240	2	2	東大農学国際専攻	1	0	2	0	3	森林 GPS 測位実験	清澄学生宿舎
241	2	1	静岡県	0	0	0	12	12	野生動物被害対策 現地視察研修	
242	2	1	東大教養学部	0	1	0	0	1	視察	
243	3	4	新潟大学・農	1	0	1	1	3	蓄積級による地域の人工林資源の表示方法	清澄学生宿舎
244	3	5	千葉大学・理	1	0	1	0	2	三浦層群の堆積学的研究	
245	3	3	森林総合研究所	0	0	0	2	2	新型横断排水施設の機能状況の調査等	
246	3	2	東大農砂防	0	2	4	0	6	水文観測及び土壌調査	
247	3	1	東大農砂防	0	1	4	0	5	水文観測及び土壌調査	
248	3	1	東大農砂防	1	0	0	0	1	水文観測及び土壌調査	
249	3	1	東大農砂防	0	2	4	0	6	水文観測及び土壌調査	
250	3	2	東大農砂防	0	4	7	0	11	水文観測及び土壌調査	札郷宿舎
251	3	1	東大農砂防	0	0	7	0	7	袋山沢・新田試験地見学	
252	3	1	県立中央博物館	1	0	0	15	16	植物観察会	
253	3	1	勝浦郁文小学校	0	0	0	2	2	卒業記念の学習ハイキング	
254	3	1	勝浦郁文小学校	0	0	0	17	17	卒業記念の学習ハイキング	
255	3	1	演習林研究部	0	0	1	0	1	コウヨウザンの花芽形成の研究	
256	3	1	県立中央博物館	1	0	0	0	1	ヒメコマツの分布調査	
257	3	2	山形大学・農	1	0	0	0	1	スギ科樹木研究の為の下見	
258	3	2	東京工業大学	1	0	0	0	1	酸性雨による影響未然防止対策調査	札郷宿舎
259	3	2	東京医科大学	1	0	0	0	1	ヤマビルの脂肪細胞について	清澄学生宿舎
260	3	2	東大経理部	3	0	0	0	3	営繕調査	
261	3	1	東大農造林	2	0	0	0	2	造林学実習下見・スギ挿木実験	
262	3	2	東大秩父演習林	2	0	0	3	5	房総の自然研究会月例会	郷台宿舎
263	3	2	ジオラントック(株)	1	2	1	3	7	ミツバツツジの生態と自生地環境	
264	3	1	東京農工大学	0	2	0	0	2	演習林の見学	
265	3	2	東大経理部	2	0	0	0	2	金庫検査	

北海道演習林

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設
1	4	105	演友会	0	0	0	1	1	トウヒ属樹木のフェノロジー調査	
2	4	1	北海道観光ガイド郷土研究会	0	0	0	45	45	バスガイド研修会	
3	4	1	道立林業試験場	2	0	0	0	2	ヤツバキクイムシフェロモントラップの実物確認	
4	5	1	北落合小学校	0	0	0	11	11	野鳥の観察	
5	5	12	東京農工大学	0	1	0	0	1	選木技術現場の見学	山部
6	5	1	トマム小中学校	9	0	0	34	43	樹木園の自然観察	
7	5	2	北大農学部	2	0	0	0	2	フェノロジー調査研究打ち合わせ	山部
8	5	2	東大秩父演習林	2	0	0	0	2	植栽機械実験打ち合わせ	山部
9	5	4	森林総合研究所	1	0	0	0	1	台風15号跡地の更新状況の視察	山部
10	5	3	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	修士論文報告	山部
11	5	1	富良野市議会議員連盟	3	0	0	37	40	森林を観る会	
12	5	1	ウタリ協会	0	0	0	4	4	林内見学	
13	5	212	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	樹木の生育と菌根菌の動態に関する研究	東山
14	5	1	山部小学校	3	0	0	58	61	春の遠足	
15	5	318	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	森林植生帯の境界面特性に関する生態学的研究	東山
16	5	2	北海道大学農学部	1	0	1	0	2	エゾシカの食害調査	山部
17	5	1	富良野市中央公民館	3	0	0	28	31	親子野草学習講座	
18	6	1	烏沼小学校	7	0	0	46	53	社会見学	
19	6	2	国際協力事業団	1	0	0	0	1	天然林複層林施業の実施	山部
20	6	1	帯広農業高校	3	0	0	40	43	樹木園見学	
21	6	3	中国東北林業大学	2	0	0	0	2	森林生態系における共生関係の解明	山部
22	6	2	教育学部附属高校	1	0	0	0	1	「森林学習」に関する打ち合わせ	山部
23	6	4	東北大学理学研究科	0	0	1	0	1	北海道の白亜紀テクトニクスと島弧火成活動史	
24	6	3	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	森林における根圏土壌の微生物活性	
25	6	1	旭川地方裁判所	1	0	0	4	5	司法修習生の実務修習	
26	6	1	北海道営林局	26	0	0	0	26	林内見学	
27	6	3	農学生命科学研究科	1	0	0	0	1	劣化した森林を再生するための森林造成システムの確率	山部
28	6	3	九州大学農学部	1	0	0	0	1	カラマツ属樹木の分類に関する研究	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設
29	6	3	愛知演習林	1	0	0	0	1	融雪観測装置設置及び 量水観測メテオス	山部
30	7	4	教育学部附属高校	3	34	0	0	37	北海道コースの森林学習	セミナー
31	7	1	林野弘済会	0	0	0	45	45	森林並びに植物等の観察	
32	7	5	千葉県立中央博物館	1	0	0	0	1	果実・球果野方向と 物理特性に関する調査	山部
33	7	3	札幌市立月寒中学校	4	0	0	9	13	植樹体験及び動植物の観察	セミナー
34	7	1	東京農業大学生物産業 学部	3	19	0	0	22	林内見学	
35	7	1	旭川営林支局	9	0	0	0	9	職員の森林施業研修	
36	7	1	長野林業大学校	3	18	0	0	21	北方の森林施業に関する研修	
37	7	2	北海道大学電子科学研 究所	9	1	12	0	22	ゼミ（人間環境システム における感覚）	セミナー
38	7	2	聖徳大学短期大学部	1	0	0	0	1	冷温帯から亜寒帯における 植生・昆虫相の実態及び 維持管理の調査	山部
39	7	2	聖徳大学短期大学部	1	0	0	0	1	冷温帯から亜寒帯における 植生・昆虫相の実態及び 維持管理の調査	山部
40	7	2	北海道農業土木協会	0	0	0	7	7	林内見学（樹木の観察）	セミナー
41	7	4	釧路山岳クラブ	0	0	0	20	20	自然観察	セミナー
42	7	2	大地を守る会	0	0	0	32	32	森林の持つ 水源かん養機能の学習	セミナー
43	7	6	農学生命科学研究科	1	0	1	0	2	森林 GPS 測位実験	山部
44	7	4	農学生命科学研究科	0	0	0	1	1	日本でのサマープログラム	山部
45	7	2	東大名誉教授	0	0	0	1	1	林内視察及び打ち合わせ	
46	7	2	東京農業大学	4	25	0	1	30	生物生産学実習	セミナー
47	7	2	演習林	1	0	0	0	1	管理事務打ち合わせ	山部
48	7	2	教養学部	0	1	0	0	1	林内視察及び打ち合わせ	山部
49	8	5	東京農業大学地球環境 科学部	3	30	0	1	34	北方林及び樹木についての 実習	セミナー
50	8	1	プール学院高校	1	0	0	0	1	プール学院高校実習の 打ち合わせ	
51	8	1	当別町有林運営委員会	0	0	0	11	11	視察研修	
52	8	3	秩父演習林	1	0	0	0	1	GIS による森林施業データ とりまとめ	山部
53	8	6	農学部森林科学科	5	31	0	0	36	森林動物学実験、 森林利用学実習	セミナー
54	8	2	経理部	7	0	0	0	7	管理事務打ち合わせ	山部
55	8	1	林野庁	3	0	0	0	3	天然林施業の見学	
56	8	2	京大北海道演習林	2	0	0	0	2	林内視察及び打ち合わせ	山部
57	8	3	演習林	3	0	0	3	6	林内視察及び打ち合わせ	山部

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設
58	8	3	帯広畜産大学	1	0	1	0	2	リターの光吸収特性の測定	山部
59	8	5	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	菌根性きのこの採集及び分離	山部
60	8	1	緑の地球ネットワーク	0	0	0	16	16	天然更新・林分施業法の観察	
61	8	4	森林総合研究所	1	0	0	1	2	景観生態学の視点による 日本及び東北アメリカに共通 する分類群の生態学的比較	山部
62	8	1	北海道林業普及指導友 の会	0	0	0	15	15	視察研修	
63	8	2	農学部	1	0	2	1	4	水性昆虫類の採集調査	山部
64	8	2	経理部	6	0	0	0	6	管財事務打ち合わせ	山部
65	8	2	国立極地研究所	3	0	0	0	3	林内見学	山部
66	8	4	演習林	2	0	0	0	2	管理事務打ち合わせ及び 林内視察	山部
67	8	2	鳥取大学農学部	1	9	0	0	10	森林観察	セミナー
68	8	1	森林総合研究所北海道 支所	3	0	0	0	3	複層林施業技術と 事業実態の視察	
69	8	6	元演習林助手	0	0	0	1	1	エゾライチョウの 個体群動態調査	
70	8	4	森林総合研究所	1	0	0	1	2	景観生態学の視点による 日本及び東北アメリカに共通 する分類群の生態学的比較	山部
71	8	1	上越教育大学	1	0	0	0	1	風穴地の植生調査	
72	9	1	秋田県八森町役場	0	0	0	9	9	標高の高い所での 広葉樹の植林について	
73	9	3	事務局長	2	0	0	0	2	管理事務打ち合わせ及び 林内視察	山部
74	9	2	医学部	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ	山部
75	9	2	農学部	2	0	0	0	2	事務打ち合わせ	山部
76	9	2	森林総合研究所	2	0	0	2	4	林木遺伝育種研究の概要及び 天然林等の見学	山部
77	9	1	東山文化振興会	0	0	0	15	15	自然散策	
78	9	1	ことぶき大学東山校	0	0	0	25	25	特別学習（林内研修）	
79	9	2	林業機械化協会	0	0	0	1	1	山林植栽作業用機械作業試験 打ち合わせ	山部
80	9	5	秩父演習林	1	0	0	0	1	山林植栽作業機械作業試験	山部
81	9	2	信州大学理学部	1	18	0	0	19	冷温帯林の構造と 生物多様性の観察	セミナー
82	9	4	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	森林における 根圏土壌の微生物活性調査	山部
83	9	1	富良野市中央公民館	0	0	0	80	80	きのこ学習講座	
84	9	1	富良野市校長会	17	0	0	0	17	森林のしくみの研修	
85	9	2	名誉教授	0	0	0	2	2	森林生態系における 菌類の調査・観察	山部

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設
86	9	1	ことぶき大学山部校	0	0	0	25	25	森林（きのこ）学習	
87	9	3	斉藤機械製作所	0	0	0	1	1	植付作業機械実験	山部
88	9	2	森林総合研究所	2	0	0	1	3	天然林における ヤツバキタイムシ被害視察	山部
89	9	2	施設部	4	0	0	0	4	施設関係事務打ち合わせ及び 視察	山部
90	9	1	富良野高校	20	0	0	0	20	北海道理科学研究会巡検	
91	9	4	教養学部	0	29	0	0	29	教養学部総合科目 D 集中講義	セミナー
92	10	2	北海道教育大学札幌校	4	22	1	0	27	生物科野外実習	セミナー
93	10	3	教養学部	0	7	0	0	7	森林ゼミ	セミナー
94	10	1	江別自然探勝会	0	0	0	3	3	林内見学	
95	10	1	名古屋営林支局	2	0	0	7	9	木質材料高度利用技術 集団研修コース	
96	10	1	プール学院高校	8	16 9	0	0	17 7	森林体験学習	
97	10	1	プール学院高校	7	15 2	0	0	15 9	森林体験学習	
98	10	5	農学生命科学研究科	2	1	2	0	5	収穫作業跡地の 経年変化に関する調査	山部
99	10	1	道立北都高校	0	0	0	3	3	林内見学	
100	10	1	東洋医学会	0	0	0	30	30	菌類、薬用植物の観察	
101	10	1	富貴堂自然散策会	0	0	0	60	60	標本館、見本林、 天然林等の視察	
102	10	1	富良野小学校	6	0	0	0	6	上川地区理科班自主研修	
103	10	2	理学系研究科	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ	山部
104	10	2	経済学研究科	2	0	0	0	2	事務打ち合わせ	山部
105	10	1	薬学系研究科	2	0	0	0	2	事務打ち合わせ	
106	10	1	北海道立林業試験場	0	0	0	2	2	林内視察	
107	10	1	旭川営林署	0	0	0	4	4	林内視察	
108	10	1	林木育種センター	0	0	0	2	2	林内視察	
109	10	3	農学生命科学研究科	2	0	0	0	2	G I S デジタル 施業情報処理検討	山部
110	10	2	演友会	0	0	0	17	17	林内研修	セミナー
111	10	2	文化財研究所	1	0	0	0	1	事務打ち合わせ	山部
112	10	1	総務部	1	0	0	0	1	事務打ち合わせ	
113	10	4	農学生命科学研究科	0	0	1	0	1	森林における 根菌土壌の微生物活性調査	山部
114	10	2	施設部	3	0	0	0	3	施設調査	山部
115	10	3	演習林	2	0	0	0	2	施設調査	山部
116	10	1	フリーカメラマン	0	0	0	2	2	エゾマツ倒木更新の撮影	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設
117	11	3	田無試験地	3	0	0	0	3	林内視察	山部
118	11	2	経理部	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ	山部
119	11	3	広島大学理学部	1	0	0	2	3	日本と中国の関連絶滅危惧植物種の保全と分子細胞遺伝学的特性評価に関する研究	山部
120	11	1	フィリピン人材管理局	0	0	0	2	2	JICA 研修 「天然林及び実習地の管理	
121	12	3	農学生命科学研究科	1	0	0	0	1	更新調査	山部
122	12	2	施設部	3	0	0	0	3	施設関係事務打ち合わせ及び視察	山部
123	12	3	演習林	3	0	0	0	3	施設関係事務打ち合わせ及び視察	山部
124	1	2	北大農学部	1	0	2	0	3	エゾシカ食害調査	
125	2	1	旭川営林署	2	0	0	0	2	天然林の択伐跡地の視察	
126	2	2	農学生命科学研究科	2	0	0	0	2	研究打ち合わせ	山部
127	2	2	経理部	3	0	0	0	3	営繕調査	山部
128	2	3	演習林	4	0	0	0	4	営繕調査	山部
129	3	2	北海道水産林務部	2	0	0	2	4	日本カラマツの観察	山部
130	2	2	原子力研究総合センター	3	0	0	0	3	会計関係事務打ち合わせ	山部
131	3	2	北海道大学農学部	2	0	0	0	2	林内見学	山部
132	3	2	名誉教授	0	0	0	2	2	日経ナショナルグラフィック取材	山部
133	3	3	日経ナショナルグラフィック	0	0	0	1	1	取材のため	山部
134	2	34	東京農工大学	0	1	0	0	1	天然林施業の見学	山部
135	3	2	演習林	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ	山部
136	2	1	農学生命科学研究科	0	1	0	0	1	北方天然林施業地の見学	
137	3	1	農学生命科学研究科	0	1	0	0	1	北方天然林施業地の見学	
138	3	3	経理部	2	0	0	0	2	金庫検査	山部

秩父演習林

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
1	4	16	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
2	4	1	秩父演習林 O B 会	2	0	0	9	11	国道視察	
3	4	3	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
4	4	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	0	0	1	樹木医学実験	
5	4	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	1	1	0	3	樹木医学実験	栃本教官宿舎
6	4	1	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	森林景観調査	
7	4	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
8	4	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	0	2	0	2	六脚機の脚先実験	
9	4	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	1	0	0	0	1	森林土木学実習下見	
10	4	2	埼玉昆虫談話会	0	0	0	7	7	入川溪谷上流部の昆虫相調査	栃本自炊宿舎
11	4	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	3	0	3	溪流内の落葉と水生昆虫の 分布の観察	川俣自炊宿舎
12	4	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	溪流内の落葉と水生昆虫の 分布の観察	川俣自炊宿舎
13	4	2	東大アジア生物資源 環境研究センター	1	0	3	0	4	スズタケ群落の生態調査	栃本教官宿舎
14	4	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	1	1	0	0	2	試験地の検討	栃本自炊宿舎
15	4	2	東大演習林本部	8	0	0	0	8	国道140号視察	川俣学生寄 舎
16	4	1	東京医科歯科大学 教養部	1	1	0	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	
17	4	2	東京医科歯科大学 教養部	1	1	0	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
18	4	4	日本大学 生物資源科学部	0	1	0	0	1	アカネズミ、ヒメネズミ及び ヒミズの生殖発生 の季節的消長に関する 細胞生物学的研究	川俣自炊宿舎
19	4	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	
20	4	1	A R A 編集部	0	0	0	6	6	荒川上流撮影	
21	5	17	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
22	5	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	2	3	2	0	7	森林土木学実習	俣学生寄宿舍
23	5	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	0	1	0	1	森林土木学実習	俣学生寄宿舍
24	5	12	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	
25	5	4	東京医科歯科大学 教養部	1	0	0	0	1	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
26	5	2	東京医科歯科大学 教養部	1	1	0	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
27	5	2	東京医科歯科大学 教養部	1	0	1	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
28	5	3	埼玉県高体連登山部	30	0	0	15 0	18 0	埼玉県高等学校総合体育大会 登山体会	
29	5	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	2	0	2	エチレン処理によるヒノキ 及びサワラの障害樹脂道形成	
30	5	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	1	0	1	エチレン処理によるヒノキ 及びサワラの障害樹脂道形成	
31	5	1	武蔵越生高等学校 四季を楽しむ会	0	0	0	25	25	演習林見学	
32	5	1	よしの会	0	0	0	50	50	演習林見学	
33	5	1	奥秩父フォトクラブ	0	0	0	7	7	入川溪谷写真撮影	
34	5	3	東大大学院 農学生命科学研究科 応用動物野生動物	0	0	1	0	1	ミズナラ調査	川俣自炊宿舎
35	5	1	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
36	5	4	日本大学 生物資源科学部	1	3	0	0	4	アカネズミ、ヒメネズミ及び ヒミズの生殖発生 の季節的消長に関する 細胞生物学的研究	川俣自炊宿舎
37	5	1	東大秩父演習林	0	0	0	25	25	東京大学公開講座奥秩父の 自然と人のかかわり	
38	5	5	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	溪流内の落葉分布と 水生昆虫の分布の関係	栃本教官宿舎
39	5	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	1	0	1	1	3	溪流内の落葉分布と 水生昆虫の分布の関係	栃本教官宿舎
40	5	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	1	0	0	1	溪流内の落葉分布と 水生昆虫の分布の関係	栃本教官宿舎
41	5	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	溪流内の落葉分布と 水生昆虫の分布の関係	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
42	5	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
43	5	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	0	1	0	1	六脚機の脚先実験	
44	5	3	東大千葉演習林	1	0	0	0	1	国道 140 号環境 アセスメント調査	栃本自炊宿舎
45	5	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	1	0	1	0	2	川原と林床との間の ゴミムシ種類相の比較	川俣自炊宿舎
46	6	19	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
47	6	5	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	0	1	0	1	六脚機の脚先実験	
48	6	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	0	1	0	1	六脚機の脚先実験	
49	6	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	1	0	1	0	2	六脚機の脚先実験	
50	6	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	1	1	0	0	2	溪流中の落葉調査	栃本自炊宿舎
51	6	2	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
52	6	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
53	6	2	東京医科歯科大学教養部	1	0	2	0	3	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
54	6	2	東京医科歯科大学 教養部	1	0	0	0	1	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
55	6	2	東京医科歯科大学 教養部	1	1	1	0	3	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
56	6	2	東京医科歯科大学 教養部	1	0	1	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
57	6	2	森林総研 植生制御研究室	0	3	0	49	52	植物観察会	
58	6	9	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	川俣自炊宿舎
59	6	6	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査	
60	6	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ種類相の比較	
61	6	8	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ種類相の比較	川俣自炊宿舎
62	6	2	東大演習林研究部	15	0	0	0	15	長期生態系プロットによる 森林生態系の解明	川俣学生寄宿舍

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
63	6	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	長期生態系プロットによる森林生態系の解明	栃本教官宿舎
64	6	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	長期生態系プロットによる森林生態系の解明	
65	6	3	国際基督教大学教養部	2	0	0	2	4	植物野外実習	
66	6	3	国際基督教大学教養部	0	31	0	0	31	植物野外実習	
67	6	4	東邦大学理学部	2	12	2	0	16	学生野外実習	川俣学生寄宿舍
68	6	2	東邦大学理学部	0	1	0	0	1	学生野外実習	川俣学生寄宿舍
69	6	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	2	0	0	1	3	樹木医学実験	栃本教官宿舎
70	6	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	2	0	3	樹木医学実験	
71	6	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	1	0	0	1	溪流の落葉堆積と水生昆虫の分布の観察	
72	6	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	溪流の落葉堆積と水生昆虫の分布の観察	
73	6	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	1	0	1	酸性雨処理に対するモミとモミ外生菌根の影響	川俣自炊宿舎
74	6	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	1	0	1	エチレン処理によるヒノキ及びサワラの障害樹脂道形成	
75	7	24	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	
76	7	1	森林総研 鳥獣生態研究室	2	0	0	0	2	ノウサギ食害林分の見学	
77	7	1	日本女子大学 桜楓家庭工芸研	1	1	0	0	2	樹皮の特質地域差について	栃本自炊宿舎
78	7	1	千葉大学大学院自然科学研究科建築史研究室	0	0	1	0	1	現存遺構と発掘遺構に見る建築用材の比較研究	
79	7	4	東京医科歯科大学 教養部	1	1	1	0	3	ウグイス繁殖戦略の研究	
80	7	2	東京医科歯科大学 教養部	1	0	0	0	1	ウグイス繁殖戦略の研究	
81	7	2	東京医科歯科大学 教養部	1	1	0	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
82	7	1	東京医科歯科大学 教養部	0	0	1	0	1	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
83	7	4	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
84	7	1	東大大学院 農学生命科学研究科 造林学研究室	1	0	0	0	1	森林土壌学実験野外実習下見	
85	7	4	東大大学院 農学生命科学研究科 造林学研究室	2	19	2	0	23	森林土壌学実験野外実習	川俣学生寄宿舍
86	7	2	日本大学 生物資源科学部	0	1	0	0	1	スギ落葉の水生昆虫 生息場所形成の影響調査	川俣学生寄宿舍
87	7	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	2	0	1	0	3	森林植物学実験野外実習下見	
88	7	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	2	0	0	0	2	森林植物学実験	栃本教官宿舎
89	7	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	25	3	0	28	森林植物学実験	川俣学生寄宿舍
90	7	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	1	0	0	1	森林植物学実験	川俣学生寄宿舍
91	7	7	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	川俣自炊宿舎
92	7	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	川俣自炊宿舎
93	7	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	2	0	3	樹木医学実験	栃本自炊宿舎
94	7	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	1	0	2	モミとモミ外生菌根に対する 酸性雨処理の影響	
95	7	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	0	0	1	モミとモミ外生菌根に対する 酸性雨処理の影響	
96	7	1	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
97	7	7	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ類種類相の比較	川俣自炊宿舎
98	7	5	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	溪流内の落葉と 水生昆虫の分布	川俣自炊宿舎
99	7	6	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査	
100	7	7	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査	
101	7	2	東大大学院 農学生命科学研究科 応用動物野生動物	0	0	1	0	1	クマ調査	川俣自炊宿舎
102	7	2	埼玉昆虫談話会	0	0	0	2	2	入川渓谷における 走光性昆虫の調査	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
103	7	1	森と湖とフルートのアンサンブル	0	0	0	46	46	演習林見学	
104	7	2	埼玉昆虫談話会	0	0	0	3	3	入川、矢竹沢の昆虫相調査	
105	7	1	東大大学院 農学生命科学研究科 応用動物野生動物	1	0	0	20	21	東京クモ談話会観察会	
106	7	4	東大千葉演習林	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査	栃本自炊宿舎
107	7	3	埼玉県立大宮高等学校	3	0	0	13	16	生物部夏季合宿	川俣学生寄宿舍
108	7	2	埼玉県立大宮高等学校	2	0	0	0	2	生物部夏季合宿	川俣学生寄宿舍
109	7	3	日本大学生物資源科学部	0	3	0	0	3	野生ネズミ類とヒミズの生殖発生・季節的変動に関する細胞生物学的研究	川俣学生寄宿舍
110	7	5	立教大学理学部	4	20	0	0	24	博物館学芸員課程野外実習	
111	7	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	1	1	0	2	脚式機械の開発	
112	7	2	東大北海道演習林	1	0	0	0	1	秩父演習林見学	
113	8	2	埼玉県立秩父農工高等学校森林科学科	2	0	0	40	42	樹木採集実習	川俣学生寄宿舍
114	8	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	3	0	2	1	6	樹木医学実験	
115	8	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	2	0	2	樹木医学実験	栃本自炊宿舎
116	8	11	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に生息する昆虫相について	川俣自炊宿舎
117	8	2	日本大学生物資源科学部	0	1	0	0	1	スギ落葉の水生昆虫生息場所形成の影響調査	川俣自炊宿舎
118	8	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	1	0	1	酸性雨に対するモミとモミ外生菌根の影響	
119	8	2	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
120	8	6	東京医科歯科大学生物学教室	0	1	1	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
121	8	2	東京医科歯科大学生物学教室	0	2	1	0	3	ウグイス繁殖戦略の研究	栃本自炊宿舎
122	8	6	東大大学院 農学生命科学研究科 野生動物システム	2	2	4	0	8	溪流沿いの生物群集調査	栃本自炊宿舎
123	8	6	東大大学院 農学生命科学研究科 野生動物システム	0	0	1	0	1	クマ調査	栃本自炊宿舎

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
124	8	2	東大愛知演習林	2	0	0	0	2	秩父演習林内溪流の水質及び流量観測についての研究 打ち合わせ及び踏査	川俣学生寄宿
125	8	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
126	8	2	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	森林景観調査	
127	8	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	0	0	1	酸性雨処理に対する モミとモミ外生菌根の影響	
128	8	3	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査	川俣自炊宿舎
129	8	22	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	
130	8	1	東京農工大学演習林	9	0	0	0	9	秩父地方の動植物の生態観察	川俣自炊宿舎
131	8	1	東京農工大学演習林	1	1	0	0	2	樹木医学実験	
132	8	10	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ種類相の比較	
133	8	2	(株) モンタージュ	0	0	0	14	14	小学生向教育映画 「水源の森を守れ」撮影	
134	9	15	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	川俣自炊宿舎
135	9	3	日本大学 生物資源科学部	0	1	0	0	1	スギ落葉の水生昆虫 生息場所形成の影響調査	
136	9	3	日本大学 生物資源科学部	2	6	1	0	9	天然林、人工林の見学昆虫 採集、森林動物関係研究の研修	川俣学生寄宿 舎
137	9	3	日本大学 生物資源科学部	0	3	0	0	3	野生ネズミ類とヒミズの 生殖産生の季節的変動に 関する細胞生物学的研究	川俣学生寄宿
138	9	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	3	0	3	樹木医学実験	栃本自炊宿舎
139	9	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	2	0	2	林道沿いのツガの 水分生理状態（植生調査）	川俣自炊宿舎
140	9	1	東京医科歯科大学 生物学教室	0	1	1	0	2	ウグイス繁殖戦略の研究	
141	9	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	0	0	1	酸性雨に対するモミと モミ外生菌根の影響	
142	9	18	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	
143	9	2	東大演習林研究部	1	0	1	0	2	森林景観調査	栃本自炊宿舎
144	9	1	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
145	9	4	東大千葉演習林	1	0	0	0	1	秩父演習林の環境調査	川俣自炊宿舎
146	9	6	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ種類相の比較	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
147	9	2	東大演習林研究部	4	1	2	0	7	森林生態圏管理学大講座ゼミ	川俣学生寄宿舍
148	9	4	東大秩父演習林	0	16	0	0	16	本学教養学部集中講義	川俣学生寄宿舍
149	9	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	本学教養学部集中講義	川俣学生寄宿舍
150	10	12	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
151	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	0	0	1	酸性雨に対するモミと モミ外生菌根の影響	
152	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ類種類相の比較	
153	10	8	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	川原と林床との間の ゴミムシ類種類相の比較	川俣自炊宿舎
154	10	3	日本大学 生物資源科学部	1	3	0	0	4	野生ネズミ類とヒミズの 生殖子発生の季節的変動に 関する細胞生物学的研究	栃本教官宿舎
155	10	6	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査	栃本教官宿舎
156	10	2	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
157	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 応用動物野生動物	1	0	2	0	3	造網性クモ類と 土壌動物の相互作用	栃本自炊宿舎
158	10	3	東大演習林研究部	1	0	1	0	2	森林景観調査ロボットカメラ 電線設置等	栃本教官宿舎
159	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林生態社会学研究室	1	0	0	0	1	森林景観調査ロボットカメラ 電線設置等	栃本教官宿舎
160	10	2	東大演習林研究部	0	0	2	0	2	森林景観調査ロボットカメラ 電線設置等	栃本教官宿舎
161	10	2	東大演習林研究部	1	1	0	0	2	森林景観調査	栃本教官宿舎
162	10	2	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	森林景観調査	川俣学生寄宿舍
163	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 応用生命科学研究室	2	17	3	4	26	研修セミナーの 実施秩父演習林の施設見学	川俣学生寄宿舍
164	10	2	東大演習林	3	0	0	0	3	川俣学生寄宿舍に関する 事務打ち合わせ	栃本教官宿舎
165	10	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	ミズナラの結実状況、大面積 プロット、ブナ結実状況、 ミズナラ苗の状態のチェック	
166	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	0	0	1	0	1	研究打ち合わせ	秩父事務所
167	10	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林生態社会学研究室	4	1	6	2	13	情報科学ゼミ森林の デジタル化とフィールド検証	川俣学生寄宿

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
168	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林生態社会学研究室	1	0	0	0	1	情報科学ゼミ森林の デジタル化とフィールド検証	川俣学生寄宿
169	10	4	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、イヌブナ樹冠層に 生息する昆虫相について	川俣自炊宿舎
170	10	3	日本大学生物資源科学 部	0	1	0	0	1	溪流中における スギ落葉枝の生態的機能	川俣自炊宿舎
171	10	1	東大大学院農学生命科 学研究科造林学研究室	1	0	2	0	3	強酸性黒色土の 生成機構の解明	
172	10	2	東大演習林	5	0	0	0	5	平成10年度会計内部監査	栃本教官宿舎
173	10	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	1	0	1	0	2	溪流における 落葉分解実験の準備	川俣自炊宿舎
174	10	1	演習林OB会	0	0	0	3	3	演習林見学	
175	11	5	東大大学院 農学生命科学研究科 野生動物システム	0	3	1	0	4	植生調査	川俣自炊宿舎
176	11	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	栃本教官宿舎
177	11	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
178	11	2	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林景観の保全に関する研究	
179	11	1	東邦大学理学部	1	3	0	0	4	ブナとイヌブナの実生の 初期生長及び 開葉フェノロジー打ち合わせ	
180	11	24	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
181	11	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	2	0	2	溪流における 落葉分解実験の準備	川俣自炊宿舎
182	11	2	東大演習林本部	9	0	0	0	9	秩父演習林見学	川俣学生寄宿 舎
183	11	1	東大演習林本部	1	0	0	0	1	秩父演習林見学	
184	11	3	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	秩父演習林自然環境調査及び ミズナラ結実の遺伝特性 に関する研究	
185	11	1	東大演習林研究部	1	0	0	1	2	秩父演習林見学	
186	11	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	1	1	1	0	3	森林の空間利用のための 基盤整備に関する研究	栃本教官宿舎
187	11	17	名古屋大学農学部 生命農学研究科	0	0	1	0	1	溪流中の落葉堆積サイズが 底生動物のコロニゼーション パターン及び落葉分解 に及ぼす影響	川俣自炊宿舎
188	11	2	北海道大学	1	0	0	0	1	山岳森林利用技術意見交換	
189	11	1	東大アジア生物資源 環境研究センター	1	0	0	1	2	スズタケ群落の生態調査	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
190	11	2	東大演習林本部	3	0	0	0	3	第一回関東甲信越地区演習林技術職員研修会	川俣学生寄宿
191	11	4	北海道大学演習林	12	0	0	0	12	第一回関東甲信越地区演習林技術職員研修会	川俣学生寄宿
192	12	11	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
193	12	2	東大演習林本部	7	0	0	0	7	経理部営繕調査	栃本教官宿舎
194	12	1	東大農学部	14	0	0	0	14	12月企画会議	秩父事務所
195	12	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
196	12	1	東大演習林研究部	2	0	0	2	4	森林景観調査	
197	12	1	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	森林景観調査	
198	12	3	名古屋大学農学部 生命農学研究科	0	0	1	0	1	溪流中の落葉堆積サイズが底生動物のコロニゼーションパターン及び落葉分解に及ぼす影響	川俣自炊宿舎
199	12	3	名古屋大学農学部 生命農学研究科	1	1	1	0	3	溪流中の落葉堆積サイズが底生動物のコロニゼーションパターン及び落葉分解に及ぼす影響	川俣自炊宿舎
200	12	1	埼玉県林業試験場	2	0	0	0	2	森林環境の保全に関する研究	
201	12	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	1	0	1	樹木医学実験	
202	12	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	1	0	0	0	1	酸性雨に対するモミとモミ外生菌根の影響	
203	1	22	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
204	1	1	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	秩父演習林見学	
205	1	1	東大富士演習林	3	0	0	0	3	長期プロット試験地見学	
206	1	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
207	1	3	日本大学 生物資源科学部	1	3	0	0	4	野生ネズミ類とヒミズの生殖産生発生の季節的変動に関する細胞生物学的研究	栃本自炊宿舎
208	1	5	名古屋大学農学部 生命農学研究科	0	0	1	0	1	溪流中の落葉堆積サイズが底生動物のコロニゼーションパターン及び落葉分解に及ぼす影響	川俣自炊宿舎
209	2	2	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
210	2	1	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	森林景観調査	
211	2	3	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	3	0	3	川原と林床との間のゴミムシ種類相の比較、水生昆虫の調査	川俣自炊宿舎
212	2	2	東大大学院 農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	2	0	0	2	川原と林床との間のゴミムシ種類相の比較、水生昆虫の調査	川俣自炊宿舎

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
213	3	14	東大大学院 総合文化研究科	0	0	1	0	1	小林地内のネズミ調査	川俣自炊宿舎
214	3	2	東大愛知演習林	4	0	0	0	4	秩父演習林環境調査 及び林内見学	
215	3	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	0	0	1	0	1	酸性雨処理が樹木に及ぼす 影響葉と土壌のサンプリング	
216	3	1	東大大学院 農学生命科学研究科 森林植物学研究室	4	1	4	0	9	酸性雨処理実験ルート ウィンドウ作成と鉄塔建設	
217	3	1	東大演習林研究部	1	0	0	0	1	森林景観調査	
218	3	1	東大演習林研究部	2	0	0	0	2	森林景観調査	
219	3	1	東大演習林研究部	10	0	0	0	10	秩父演習林 自然環境調査現地検討	
220	3	5	名古屋大学農学部 生命農学研究科	0	0	1	0	1	溪流中の落葉堆積サイズが 底生動物のコロニゼーション パターン及び落葉分解 に及ぼす影響	川俣自炊宿舎
221	3	3	東大大学院 農学生命科学研究科 造林学研究室	1	0	1	0	2	ヒノキ天然林での土壌調査	川俣学生寄宿舎
222	3	2	東大大学院 農学生命科学研究科 造林学研究室	2	0	0	0	2	ヒノキ天然林での土壌調査	
223	3	2	東大経理部主計課	2	0	0	0	2	金庫検査	栃本教官宿舎

愛知演習林

№	月	日数	団 体 名	教職員	学生	院 生	その他	人員計	利用 目的	宿泊施設名
1	4	1	名古屋大学農学部			2		2	林内雨量の観測	
2	4	1	名古屋大学農学部			2		2	林内雨量の観測	
3	4	1	名古屋大学農学部	1		1	1	3	林内雨量の観測	
4	4	1	名古屋大学農学部			2		2	林内雨量の観測	
5	4	1	名古屋大学農学部			2		2	林内雨量の観測	
6	4	1	名古屋大学農学部	1		1		2	森林水文観測	
7	5	4	瀬戸市環境課				2	2	植物・動植物調査	
8	5	1	名古屋大学農学部	1	1			2	林内雨量の観測	
9	5	1	中部地質調査業協会				38	38	猿投山北断層の断層変位地形の見学	
10	5	1	名古屋大学農学部	1				1	平成10年度利用者集会の参加	白坂教官学生 宿舎
11	5	1	名古屋大学農学部	1	1			2	平成10年度利用者集会の参加及び林内雨量観測	
12	5	2	東京大学農学部	1	4	1		6	平成10年度利用者研究集会の参加及び水文・気象観測、ライシメータ計測	
13	5	7	千葉大学理学部	1	1	2		4	平成10年度演習林利用者集会の参加及び観測器具の設置・整備	
14	5	1	名古屋大学農学部	1				1	平成10年度演習林利用者集会の参加及び観測器具の設置・整備参加	
15	5	1	名古屋大学農学部		2			2	林内雨量の観測	
16	5	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
17	5	1	東京大学農学部	2				2	自然環境調査	
18	6	3	東京大学農学部	1	2	16		19	森林保全学実習	
19	6	1	名古屋大学農学部	1	3			4	林内雨量の観測	白坂教官学生 宿舎
20	6	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
21	6	2	東京大学農学部		2			2	強酸性黒色土の生成機構の解明	
22	6	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測と樹幹流測定装置の取り付け	
23	6	2	東京大学農学部		3	1		4	斜面ライシメータ観測、白坂南谷での水収支観測	
24	6	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	林内雨量の観測	
25	7	3	瀬戸市環境課				2	2	植物・動植物調査	
26	7	1	名古屋大学農学部	1		22		23	測樹学実習	
27	7	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	

Nº	月	日数	団 体 名	教職 員	学 生	院 生	そ の 他	人 員 計	利用 目的	宿泊施設名
28	7	1	名古屋大学農学部	2		23		25	資源生物環境学実験実習 水文観測地見学	白坂教官学生 宿舎
29	7	1	名城大学農学部	1				1	土壌採取	
30	7	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
31	7	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	林内雨量の観測	
32	7	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林分の葉量測定	
33	8	8	千葉大学理学部		1	1		2	研究流域の整備及び観測	白坂教官学生 宿舎
34	8	1	名古屋大学農学部		3			3	水文観測のために	
35	8	2	東京大学農学部		4			4	斜面ライシメータでの 土中水挙動の研究	
36	8	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	樹幹流装置の取り付け	
37	8	1	瀬戸市環境課				2	2	市全域を対象とした 生態系調査と 航空写真判読調査の現地確認	
38	8	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	樹幹流装置の取り付け	白坂教官学生 宿舎
39	8	1	名古屋大学農学部	1	2			3	日射量の観測	
40	8	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林分の葉量測定	
41	9	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	林内雨量の観測	
42	9	2	名古屋大学農学部	3	1	1		5	水文観測施設の見学	
43	9	1	瀬戸市環境課				2	2	市全域を対象とした 瀬戸市生態系調査のうち 植物調査のため	白坂教官学生 宿舎
44	9	2	東京大学農学部		1			1	犬山ライシメータにおける 表面流水みち観測および 土砂採取	
45	9	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
46	9	3	東京大学農学部		3			3	斜面ライシメータでの土中 水移動・表面流出の研究および 白坂流域の水循環の研究	
47	9	1	瀬戸市環境課				2	2	市全域を対象とした 植物調査のため	
48	9	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	里山の維持管理に関する 研究	白坂教官学生 宿舎
49	9	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	林内雨量の観測	
51	9	3	東京大学教養学部			15		15	総合科目 「森林と人間の関わり」	
52	9	1	名古屋大学農学部	2	2	2		6	林内雨量の観測	
53	10	1	東京大学教養学部			15		15	総合科目 「森林と人間の関わり」	
54	10	6	東京大学農学部	1		14		15	測量学実習	白坂教官学生 宿舎
55	10	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	

Nº	月	日数	団 体 名	教職 員	学 生	院 生	そ の 他	人 員 計	利用 目的	宿泊施設名
56	10	1	瀬戸市環境課				2	2	市全域を対象とした 瀬戸市生態系調査のうち 動物調査のため	
57	10	1	名古屋大学農学部	1	2			3	林内雨量の観測	
58	10	1	瀬戸市環境課				2	2	市全域を対象とした 瀬戸市生態系調査のうち 動物調査のため	
59	10	5	東京大学農学部		5			5	森林での蒸発散観測	白坂教官学生 宿舎
60	10	9	千葉大学理学部		1			1	観測および測量	白坂教官学生 宿舎
61	10	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
62	10	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
63	11	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
64	11	2	東京大学農学部	4				4	林内視察	白坂教官学生 宿舎
65	11	1	瀬戸市民				17	17	公開講座	
67	11	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
68	11	2	東京大学農学部	5				5	平成10年度給与簿監査	白坂教官学生 宿舎
69	11	2	東京大学農学部	4				4	営繕関係視察	白坂教官学生 宿舎
70	11	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
71	11	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
72	11	1	名古屋大学農学部	1				1	集材架線に関する 構造力学解析 機材の調整	
73	11	1	千葉大学理学部		1	3		4	測量および観測	
74	12	4	千葉大学理学部		1	2		3	測量および観測	白坂教官学生 宿舎
75	12	1	地球緑化センター				9	9	砂漠緑化のため、日本の戦後の 荒廃地から緑の山への 植林経過の記録等見学	
76	12	2	東京大学農学部	1				1	国道140号雁坂道路 環境調査打ち合わせ	白坂教官学生 宿舎
77	12	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
78	12	4	東京大学農学部	2	5			7	白坂水文観測、 犬山ライシメータ観測、 水文データ読み取り	白坂教官学生 宿舎
79	12	7	千葉大学理学部	1	1			2	測量	白坂教官学生 宿舎
80	12	1	植物グループ				9	9	植物の観察	
81	12	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
82	12	3	名古屋大学農学部		2	1		3	試験木の形態測定調査及び リターバックの設置	白坂教官学生 宿舎

Nº	月	日数	団 体 名	教職 員	学 生	院 生	そ の 他	人 員 計	利用 目的	宿泊施設名
83	12	1	名古屋大学農学部	1	2			3	林内雨量及びリ ターバ ッ ク の 設置	
84	12	1	名古屋大学農学部	1	1			2	林内雨量の観測	
85	12	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
86	12	3	東京大学農学部			1	1	2	土壌中 CO2 濃度の測定	
87	1	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
88	1	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
89	1	1	名古屋大学農学部	1	1	5		7	林内雨量の観測	
90	1	2	東京大学農学部		1			1	土壌中 CO2 濃度の測定	
91	1	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
92	1	1	名古屋大学農学部	1		5		6	森林環境保全学実験・ 実習（架線の索張り検定）	
93	1	1	東京大学農学部	1	2		1	4	土壌中 CO2 濃度の測定	
94	2	2	東京大学農学部		4	3		7	白坂水文観測、 犬山ライシメータ観測、 水文データ読み取り	白坂教官学生 宿舎
95	2	2	東京大学農学部	5				5	管財関係打ち合わせ	白坂教官学生 宿舎
96	2	2	東京大学農学部	2				2	事業関係打ち合わせ	白坂教官学生 宿舎
97	2	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
98	2	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測	
99	2	5	千葉大学理学部		1	1		2	測量、流域整備	白坂教官学生 宿舎
100	2	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
101	2	9	東京大学農学部		1			1	定期観測、測器セッティング、 データ回収、 南谷テンシオメータ現況確認	
102	2	1	北海道大学農学部	3				3	業務打ち合わせ	白坂教官学生 宿舎
103	2	2	名古屋大学農学部	3				3	植生回復に伴う流出特性の 変化に関する研究	白坂教官学生 宿舎
104	2	1	名古屋大学農学部	1	2	1		4	林内雨量の観測	
105	3	1	東京大学農学部		1			1	定期観測	
106	3	3	東京大学農学部	4				4	愛知演習林の自然環境調査	白坂教官学生 宿舎
107	3	1	名古屋大学農学部	1	3	1		5	林内雨量の観測観測	
108	3	1	東京大学農学部	1				1	事務打ち合わせ	
109	3	7	名古屋大学農学部	1	2	13		16	測量学実習	
110	3	1	名古屋大学農学部	1	1	1		3	林内雨量の観測	
111	3	4	東京大学農学部	4	14	2		20	斜面ライシメータでの 表面流出特性の研究	白坂教官学生 宿舎

Nº	月	日数	団 体 名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用 目的	宿泊施設名
112	3	10	東京大学農学部		1		1	2	定期観測	白坂教官学生 宿舎
113	3	1	名古屋大学農学部	1		1		2	林内雨量観測	
114	3	4	東京大学農学部		1		1	2	定期観測	
115	3	2	東京大学農学部	2				2	出納官吏等の帳簿及び 金庫の定時検査	

富士演習林

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
1	4	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
2	4	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
3	4	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
4	4	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
5	5	1	東邦大学理学部	1				1	イヌブナ及び産地別の異なる ブナ開葉フェノロジー	
6	5	1	東京大学理学系研究科	1	4			5	樹皮着生地衣の調査	
7	5	18	渋谷区教育委員会	63			633	696	自然観察	
8	5	1	田無試験地	1			5	6	演習林見学	
9	5	1	東邦大学理学部	1				1	イヌブナ及び産地別の異なる ブナ開葉フェノロジー	
10	5	1	中央大学付属高校	4			90	94	自然観察会	
11	6	1	東邦大学理学部	1	5			6	ブナ植栽におけるブナ実生の 生存と成長	
12	6	9	山梨県森林総合研究所	1				1	林野庁の委託による 酸性雨等のモニタリング	
13	6	1	横浜市立岡村中学校	10			250	260	自然観察会	
14	6	2	日本大学 生物資源科学部		3			3	野生ネズミ類とヒミズの 生殖発生の季節的変動 に関する研究	
15	7	3	渋谷区教育委員会	9			95	104	植物観察	
16	7	1	日本大学生物資源学科	1	3			4	野生ネズミ類とヒミズの 生殖発生 of 季節的変動 に関する研究	
17	7	1	青葉学園幼稚園	25			112	137	自然観察	
18	7	1	澁谷区幼稚園	11			28	39	自然観察	
19	7	3	関東学院小学校	5			76	81	自然観察	
20	7	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
21	7	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
22	7	1	清心女子高等学校		10	150		160	自然観察会	
23	7	2	丸山幼稚園	3			47	50	自然観察	
24	7	1	八幡幼稚園	17			64	81	自然に触れる体験学習	
25	7	10	東京大学運動会馬術部		25			25	夏期合宿	
26	8	25	東京大学運動会馬術部		25			25	夏期合宿	
27	8	2	丸山幼稚園				50	50	自然観察	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
28	8	1	大乘漱徳学園				80	80	演習林見学	
29	8	1	日本児童家庭文化協会				150	150	自然観察	
30	8	1	東京ガールスカウト 20 団				14	14	自然観察	
31	8	1	小平市職員相互会				16	16	自然観察	
32	8	1	日本動植物環境カレッジ				19	19	森林体験	
33	8	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
34	8	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	
35	9	6	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤工学専攻	4	59			63	測量実習	
36	9	4	理学部生物科学 植物生態研	3	11			14	生態野外実習	
37	9	1	自然観察会				10	10	演習林の林況と研究課題	
38	9	1	アジア生物資源 環境研究センタ -	1		3		4	菌根菌の調査及び採取	
39	9	1	森林生態圏管理学	4	1	3		8	見学	
39	10	6	アジア生物資源 環境研究センタ -	1		3		4	菌根菌の調査及び採取	
40	10	1	聖ヨゼフ学園小学校	6	79			85	レクリエーション	
41	10	1	富士フェニックス 短期大学	2			48	50	演習林内の植物と野鳥	
42	11	3	東大田無試験地	1			5	6	カラマツ林分調査	
43	12	1	農学生命科学研究科 造林学研究室	1	1	1		3	Ao 層を用いた酸性雨に起因する 森林土壌の酸性化防止技術	
44	1	1	Dept Forestry Virgina Tech Research Assisan	1				1	見学	
45	3	3	東大田無試験地	3				3	カラマツ林分調査	
46	3	1	東邦大学理学部	1				1	ブナ植栽における ブナ実生の生存と成長	

樹芸研究所

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
1	4	1	一般見学者				4	4	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	下賀茂寮
2	5	1	一般見学者				11	11	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
3	5	1	下田市立下田小学校	5			79	84	小学5年生対象に森林に対する理解を深めるための森林教室 環境を守る森林の働き	
4	5	3	農学部 森林植物学研究室			1		1	樹木の環境ストレスに対する適応に関する研究	
5	6	1	一般見学者				1	1	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
6	6	1	農学部森林科学専攻 造林学教室			1		1	樹木の低温適応反応（熱帯系マツ）に関する研究	
7	6	1	農学生命科学 森林生態圏管理学			1		1	熱帯樹木（フタバガキ）の組織培養に関する研究	
8	7	1	一般見学者				5	5	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
9	7	2	農学部森林科学専攻	1		1		2	メタセコイア植栽木の肥大成長特性に関する研究	
10	7	1	清水市農業委員会				19	19	熱帯・亜熱帯特用樹木の利用・管理に関する研修	
11	7	1	東邦大学 理学部生物学科植物 植物生命機構部門	1	1			2	植物群落内の光エネルギー分布の測定	
12	7	5	静岡県立下田南 高等学校南伊豆分校				2	2	林学教育・研究を内容の体験学習	
13	7	4	農学部 森林植物学研究室			1		1	樹木の環境ストレスに対する適応に関する研究	
14	8	1	一般見学者				21	21	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
15	8	1	東邦大学 理学部生物学科植物 植物生命機構部門	1				1	植物群落内の光エネルギー分布の測定	
16	8	1	静岡県環境部 自然保護課				1	1	植物群落調査	
17	8	3	東京大学 学生・職員及び家族	20	1	14	5	40	森林体験セミナー	下賀茂寮
18	8	1	静岡県環境部 自然保護課				1	1	植物群落調査	
19	8	5	農学部 森林植物学研究室			1		1	樹木の環境ストレスに対する適応に関する研究	
20	9	1	一般見学者				10	10	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
21	9	4	演習林研究部	4	18	1		23	国際開発農学専修森林実習	
22	9	2	演習林	1				1	森林実習及び公開講座等の教育施設施設	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
23	10	1	一般見学者				23	23	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
24	11	1	一般見学者				33	33	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
25	11	1	国土館大学文学部 地理学教室	1	14			15	熱帯・亜熱帯植物見学実習	
26	11	1	地元農業者				1	1	モウソウチク林の 管理について	
27	11	1	演習林研究部	5			4	9	演習林見学	
28	12	1	一般見学者				9	9	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
29	12	2	農学部 森林植物学研究室			1		1	樹木の環境ストレスに対する 適応に関する研究	
30	12	1	K K. 永昌源				4	4	ユーカリ属（グロブラス） 造林に関する諸問題研究 打合わせ	
31	1	1	一般見学者				9	9	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
32	1	1	農学生命科学 森林生態圏管理学			1	1	2	コウヨウザンに関する研究	
33	1	1	N T T 静岡				1	1	N T T インターネット 「静岡県の森と水」取材	
34	2	1	一般見学者				12	12	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
35	3	1	一般見学者				13	13	温室内の熱帯・亜熱帯植物見学	
36	3	1	伊豆新聞 下田支社南伊豆支局				1	1	炭窯の取材	
37	3	1	北海道 木材チップ協同組合				15	15	早成樹種現地適応試験の 状況見学	
38	3	1	富士演習林	2				2	長期プロット試験地見学と 試験打合わせ	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
1	4	4	動物	1	0	0	0	1	生物季節と個体群動態	
2	4	20	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアブラムシ、オオモミジの生態調査	
3	4	4	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
4	4	1	植物	1	0	1	0	2	マツ材線虫病の誘導抵抗性機構	
5	4	1	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
6	4	9	造林	0	1	0	1	2	高濃度 CO2 施与の樹木の成長	
7	4	6	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
8	4	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
9	4	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
10	4	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
11	4	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
12	4	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
13	4	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の細胞生物学的解析	
14	4	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
15	4	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
16	4	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
17	4	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
18	4	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
19	4	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
20	4	1	千葉大学	1	1	0	1	3	武蔵野台地における地下水涵養機構に関する研究	
21	4	1	造林	2	28	0	0	30	造林学実験	
22	4	1	一般 4 月計	0	0	0	559	559	林内見学	
23	5	5	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態	
24	5	7	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアブラムシ、オオモミジの生物季節について	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
25	5	11	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
26	5	1	植物	1	0	1	0	2	マツ材線虫病の誘導抵抗性機構	
27	5	3	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
28	5	1	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
29	5	6	造林	0	1	0	1	2	高濃度 CO2 施与の樹木の成長	
30	5	1	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
31	5	9	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
32	5	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
33	5	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
34	5	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
35	5	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
36	5	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
37	5	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の細胞生物学的解析	
38	5	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
39	5	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
40	5	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
41	5	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
42	5	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
43	5	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
44	5	1	千葉大学	1	1	0	1	3	武蔵野台地における地下水涵養機構に関する研究	
45	5	1	静岡大学	0	0	0	1	1	改良ポプラ穂木採取	
46	5	1	造林	2	28	0	0	30	造林学実験	
47	5	1	動物	3	31	0	0	34	森林動物学実験	
48	5	1	一般 5 月計	0	0	0	998	998	林内見学	
49	6	2	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
50	6	4	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアプラムシ、オオモミジの生物季節について	
51	6	14	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
52	6	3	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
53	6	2	造林	1	1	0	0	2	熱帯早成樹の成長と土壌物理生	
54	6	1	造林	0	1	0	1	2	高濃度 CO2 施与の樹木の成長	
55	6	5	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
56	6	1	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
57	6	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
58	6	2	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	1	2	フタバガキ科樹木の共生系に関する研究	
59	6	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
60	6	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
61	6	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
62	6	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
63	6	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
64	6	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
65	6	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
66	6	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
67	6	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
68	6	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
69	6	1	千葉大学	1	1	0	1	3	武蔵野台地における地下水涵養機構に関する研究	
70	6	2	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
71	6	1	動物	3	31	0	0	34	森林動物学実験	
72	6	1	一般6月計	0	0	0	356	356	林内見学	
73	7	2	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアプラムシの個体群動態	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
74	7	4	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアプラムシ、オオモミジの生物季節について	
75	7	14	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
76	7	6	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
77	7	11	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の萎凋機構の解明	
78	7	8	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
79	7	11	造林	1	1	0	0	2	熱帯早成樹の成長と土壌物理生	
80	7	4	造林	0	1	0	1	2	高濃度 CO2 施与の樹木の成長	
81	7	5	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
82	7	6	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
83	7	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
84	7	3	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	1	2	フタバガキ科樹木の共生系に関する研究	
85	7	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
86	7	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
87	7	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
88	7	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
89	7	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
90	7	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
91	7	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
92	7	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
93	7	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
94	7	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
95	7	1	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
96	7	1	造林	2	28	0	0	30	造林学実験	
97	7	1	一般 7 月計	0	0	0	276	276	林内見学	
98	8	1	演習林	1	0	0	2	3	JACA 研修	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
99	8	4	モミジニタイケアブラムシ、オオモミジの生物季節について							
100	8	15	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
101	8	7	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
102	8	10	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の萎凋機構の解明	
103	8	7	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
104	8	7	造林	1	1	0	0	2	熱帯早成樹の成長と土壌物理生	
105	8	1	造林	0	1	0	1	2	高濃度 CO2 施与の樹木の成長	
106	8	8	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
107	8	13	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
108	8	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
109	8	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
110	8	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
111	8	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
112	8	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
113	8	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
114	8	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
115	8	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
116	8	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
117	8	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
118	8	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
119	8	2	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
120	8	1	一般 8 月計	0	0	0	254	254	林内見学	
121	9	2	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態	
122	9	4	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアブラムシ、オオモミジの生物季節について	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
123	9	7	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
124	9	4	動物	0	0	1	0	1	田無試験地におけるアオキ群落の環境因子と大型土壌動物相の関係	
125	9	5	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
126	9	5	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の萎凋機構の解明	
127	9	1	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
128	9	7	造林	1	1	0	0	2	熱帯早成樹の成長と土壌物理生	
129	9	2	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
130	9	20	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
131	9	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
132	9	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
133	9	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
134	9	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
135	9	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
136	9	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
137	9	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
138	9	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
139	9	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
140	9	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
141	9	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
142	9	1	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
143	9	1	動物	3	31	0	0	34	森林動物学実験	
144	9	1	一般 9 月計	0	0	0	276	276	林内見学	
145	10	4	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアプラムシの個体群動態	
146	10	14	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
147	10	7	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節と アブラムシの個体群密度	
148	10	3	動物	0	0	1	0	1	田無試験地における アオキ群落の環境因子と 大型土壌動物相の関係	
149	10	2	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の 枯死機構の解明	
150	10	2	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の 萎凋機構の解明	
151	10	15	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
152	10	21	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
153	10	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
154	10	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の 栄養吸収促進機能の解析	
155	10	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の 遺伝学的研究	
156	10	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の 造林学的用法の開発	
157	10	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の 分子生物学的解析	
158	10	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
159	10	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の 森林生態学の応用法の開発	
160	10	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、 親水空間の計画、デザイン	
161	10	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持 管理システムに関する研究	
162	10	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の 細胞生理学的研究	
163	10	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による 繁殖様式の解析	
164	10	1	千葉大学	1	1	0	1	3	武蔵野台地における 地下水涵養機構に関する研究	
165	10	2	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
166	10	1	一般 10 月計	0	0	0	108 8	108 8	林内見学	
167	11	4	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの 個体群動態	
168	11	24	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアブラムシ、 オオモミジの生物季節 について	
169	11	6	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
170	11	4	動物	0	0	1	0	1	田無試験地におけるアオキ群落の環境因子と大型土壌動物相の関係	
171	11	2	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
172	11	8	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
173	11	4	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
174	11	15	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
175	11	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
176	11	6	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	1	2	フタバガキ科樹木の共生系に関する研究	
177	11	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
178	11	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
179	11	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
180	11	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
181	11	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
182	11	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
183	11	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
184	11	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
185	11	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
186	11	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
187	11	1	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
188	11	1	一般 11 月計	0	0	0	999	999	林内見学	
189	12	3	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態	
190	12	13	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアブラムシ、オオモミジの生物季節について	
191	12	3	動物	0	0	1	0	1	田無試験地におけるアオキ群落の環境因子と大型土壌動物相の関係	
192	12	8	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
193	12	2	造林	0	0	0	1	1	アカマツ菌根菌共生系の高 CO2 濃度に対する研究	
194	12	21	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
195	12	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
196	12	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
197	12	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
198	12	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
199	12	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
200	12	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
201	12	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
202	12	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
203	12	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
204	12	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
205	12	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
206	12	1	千葉大学	1	1	0	1	3	武蔵野台地における地下水涵養機構に関する研究	
207	12	4	東京都立衛生研究所	0	0	0	1	1	野ネズミの野外分布及び生態調査	
208	12	1	一般 12 月計	0	0	0	192	192	林内見学	
209	1	1	動物	0	0	1	0	1	田無試験地におけるアオキ群落の環境因子と大型土壌動物相の関係	
210	1	11	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
211	1	2	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
212	1	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
213	1	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
214	1	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
215	1	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
216	1	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
217	1	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
218	1	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の 森林生態学の応用法の開発	
219	1	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、 親水空間の計画、デザイン	
220	1	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持 管理システムに関する研究	
221	1	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の 細胞生理学的研究	
222	1	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による 繁殖様式の解析	
223	1	1	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
224	1	1	一般 1 月計	0	0	0	85	85	林内見学	
225	2	1	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアプラムシの 個体群動態	
226	2	1	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
227	2	1	動物	0	0	1	0	1	田無試験地における アオキ群落の環境因子と 大型土壤動物相の関係	
228	2	7	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
229	2	20	森林生態圏管理学	0	0	1	0	1	熱帯マメ科樹種の組織培養	
230	2	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
231	2	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の 栄養吸収促進機能の解析	
232	2	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の 遺伝学的研究	
233	2	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の 造林学的用法の開発	
234	2	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の 分子生物学的解析	
235	2	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
236	2	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の 森林生態学の応用法の開発	
237	2	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、 親水空間の計画、デザイン	
238	2	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持 管理システムに関する研究	
239	2	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の 細胞生理学的研究	

No.	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的	宿泊施設名
240	2	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
241	2	2	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
242	2	1	一般 2 月計	0	0	0	284	284	林内見学	
243	3	7	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態	
244	3	2	動物	0	0	1	0	1	モミジニタイケアブラムシ、オオモミジの生物季節について	
245	3	4	動物	0	0	1	0	1	Effects of acid rain to soil invertebrates	
246	3	2	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明	
247	3	5	造林	0	0	1	0	1	樹木の低温適応反応	
248	3	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	森林共生系の解析	
249	3	21	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	外生菌根の栄養吸収促進機能の解析	
250	3	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	菌根菌繁殖様式の遺伝学的研究	
251	3	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根の造林学的用法の開発	
252	3	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根菌感染過程の分子生物学的解析	
253	3	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	外生菌根のストレス生理学	
254	3	21	アジア生物資源環境研究センター	0	0	0	1	1	DNA 多型解析の森林生態学の応用法の開発	
255	3	20	アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	景観形成、解析に関する研究、親水空間の計画、デザイン	
256	3	20	アジア生物資源環境研究センター	0	0	1	0	1	水辺空間の計画と利用、維持管理システムに関する研究	
257	3	21	ICU	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
258	3	21	日本大学	0	1	0	0	1	DNA 多型分析による繁殖様式の解析	
269	3	1	東京都土木技術研究所	0	0	0	1	1	地下水位観測	
260	3	2	東京都立衛生研究所	0	0	0	1	1	野ネズミの野外分布及び生態調査	
261	3	1	一般 3 月計	0	0	0	956	956	林内見学	

教育活動

大学院（講義および演習）

教官	講義名	対象研究科	専攻	課程
山本博一	持続的森林経営論	農学生命科学		修士課程
山本博一	森林情報システム学	農学生命科学		修士課程
山本博一	森林科学特別実験	農学生命科学		修士課程
山本博一	森林科学特別演習	農学生命科学		修士課程
山本博一	森林生態圏管理学特別実験Ⅱ	農学生命科学		博士課程
山本博一	森林生態圏管理学特別演習Ⅱ	農学生命科学		博士課程
佐倉詔夫	森林生態圏管理学特別演習Ⅰ	農学生命科学		博士課程
佐倉詔夫	森林生態圏管理学特別実験Ⅰ	農学生命科学		博士課程
中村 昇	持続的林業経営論	農学生命科学	森林科学	修士課程
中村 昇	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士課程
中村 昇	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士課程
中村 昇	森林生態圏管理学特別演習Ⅱ	農学生命科学	森林科学	博士課程
中村 昇	森林生態圏管理学特別実験Ⅱ	農学生命科学	森林科学	博士課程
梶 幹男	森林生態利用システム学			
梶 幹男	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士課程
梶 幹男	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士課程
梶 幹男	森林生態圏管理学特別演習Ⅰ	農学生命科学	森林科学	博士課程
梶 幹男	森林生態圏管理学特別実験Ⅰ	農学生命科学	森林科学	博士課程
高橋郁雄	森林生態圏管理学特別演習Ⅰ	農学生命科学	森林科学	博士課程
高橋郁雄	森林生態圏管理学特別実験Ⅰ	農学生命科学	森林科学	博士課程
高橋郁雄	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士課程
高橋郁雄	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士課程
高橋郁雄	森林遺伝子管理学	農学生命科学	森林科学	修士課程
仁多見 俊夫	森林情報システム学	農学生命科学	森林科学	修士課程
仁多見 俊夫	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士課程
仁多見 俊夫	森林生態圏管理学特別演習Ⅱ	農学生命科学	森林科学	博士課程
仁多見 俊夫	森林生態圏管理学特別実験Ⅱ	農学生命科学	森林科学	博士課程
蒲谷 肇	森林生態システム利用学	農学生命科学	森林科学	修士課程
蒲谷 肇	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士課程
蒲谷 肇	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士課程
蒲谷 肇	森林生態圏管理学特別演習。	農学生命科学	森林科学	博士課程
蒲谷 肇	森林生態圏管理学特別実験。	農学生命科学	森林科学	博士課程

教官	講義名	対象研究科	専攻	課程
芝野博文	森林水資源管理学	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士課程
芝野博文	森林科学特別実験	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士課程
芝野博文	森林科学特別演習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士課程
大橋邦夫	国際森林学特論	農学生命科学	森林科学	修士
大橋邦夫	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士
大橋邦夫	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士
大橋邦夫	森林生態圏管理学特別演習・	農学生命科学	森林科学	博士
大橋邦夫	森林生態圏管理学特別実験・	農学生命科学	森林科学	博士
井出雄二	森林遺伝子機能開発学	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士課程
井出雄二	森林科学特別実験	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士課程
井出雄二	森林科学特別演習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士課程
井出雄二	森林生態圏管理学特別実験Ⅰ	農学生命科学研究科	森林科学専攻	博士課程
井出雄二	森林生態圏管理学特別演習Ⅰ	農学生命科学研究科	森林科学専攻	博士課程
石田健	森林科学特別実験	農学生命科学研究科	森林科学	修士
石田健	森林科学特別演習	農学生命科学研究科	森林科学	修士
石田健	森林生態圏管理学特別演習。	農学生命科学研究科	森林科学	博士
石田健	森林生態圏管理学特別実験。	農学生命科学研究科	森林科学	博士

学部講義など

教官名	講義名	対象学部	専修（科類）	学年	演習林
山本博一	森林実習	農学部	国際開発農学専修	3年	
山本博一	総合科目 D	教養学部	全科類	1・2年	
山本博一	全学自由ゼミナール	教養学部	全科類	1・2年	
佐倉詔夫	全学自由ゼミナール	教養学部	全科類	1・2年	
中村 昇	総合科目一般 D(人間・環境一般)	教養学部	全科類	1,2年	
中村 昇	全学自由研究ゼミナール	教養学部	全科類	1,2年	
梶 幹男	総合科目一般 D(人間環境一般)	教養学部	全科類	1・2年	北海道
梶 幹男	森林動物学実験	北海道演習林	東京大学	農学部	3年
梶 幹男	森林利用学実習	北海道演習林	東京大学	農学部	3年
高橋郁雄	総合科目一般 D(人間環境一般)	教養学部	全科類	1・2年	北海道
高橋郁雄	森林動物学実験	北海道演習林	東京大学	農学部	3年
宮本義憲	森林利用学実習	北海道演習林	東京大学	農学部	3年
宮本義憲	総合科目一般 D(人間環境一般)	教養学部	全科類	1・2年	北海道

教官名	講義名	対象学部	専修（科類）	学年	演習林
木佐貫博 光	総合科目一般 D（人間環境一般）	教養学部	全科類	1・2 年	北海道
木佐貫博 光	森林動物学実験	北海道演習林	東京大学	農学部	3 年
鴨田重裕	総合科目一般 D（人間環境一般）	教養学部	全科類	1・2 年	北海道
鴨田重裕	森林動物学実験	北海道演習林	東京大学	農学部	3 年
仁多見 俊夫	森林土木学実習	農学部	森林科学	4 年	秩父
仁多見 俊夫	総合科目 D「森林と人のかかわり」	教養学部		1.2 年	秩父
蒲谷 肇	森林土壌学実験	農学部	森林科学	3 年	秩父
蒲谷 肇	森林実習	農学部	国際開発農学 専修	3 年	樹研
芝野博文	測量学実習	農学部	森林環境科学 専修	3 年	愛知演習 林
大橋邦夫	総合科目一般 D(人間・環境一般)	教養学部	全科類	1・2 年	田無
井出雄二	林木育種学	農学部	3 類	4 年	
井出雄二	全学自由研究ゼミナール「森林 （対話編）」	教養学部		1・2 年	
石田健	森林動物学実験	農学部	森林科学		
石田健	全学自由研究ゼミナール「世界 の森林・日本の森林」	教養学部	学部前期	研究部	

他大学への非常勤講師

教官名	講義名	対象学部	学科	学年	演習林
梶幹男	森林立地学	千葉大学	園芸学部	3 年	
芝野博文	森林水文学	農学部	林学	2 年	東京農業大学
石田 健	立教大学全学共通カリキュラム （生命の科学 3・4）				

講習会・セミナー等

講座名	主催	場所	日程
自然観察	千葉演習林・東京電力	千葉演習林	7 月 2 4 日
小学校理科講座（生物野外）	千葉演習林・千葉県総合教育セ ンター	清澄作業所	8 月 6 日～ 8 月 7 日
中学校理科講座（生物的領域）	千葉演習林・千葉県総合教育セ ンター	清澄作業所	8 月 2 5 日～ 8 月 2 7 日
公開セミナー「東大演習林の樹 海めぐり」	北海道演習林	北海道演習林	5 月 23 日

講座名	主催	場所	日程
東京大学公開講座「奥秩父の自然と人のかかわり」	秩父演習林	秩父演習林	5月16日
下田小学校森林教室	樹芸研究所	樹芸研究所	5月27日
森林体験セミナー	農学部附属演習林	樹芸研究所	8月18日～20日
田無試験地祭日開放	田無試験地	田無試験地	5月5日
田無試験地休日開放	田無試験地	田無試験地	8月23日
田無試験地休日開放	田無試験地	田無試験地	3月28日

実習

教官名	実習名	実習地	学校名	対象学部	学科	学年	日程	対応した教職員の延べ人数	宿泊施設名
山本博一	森林生態圏管理学実習	千葉演習林	東京大学	農学部		3年	4月23日～4月25日		清澄学生宿舎
八木久義	造林学実験	千葉演習林	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	4月27日～5月1日	40	清澄学生宿舎
箕輪光博	森林経理学実習	札郷24・25・26林班	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	5月18日～5月22日		札郷宿舎
井出雄二	東京大学教養学部全学自由研究ゼミナール	清澄・郷台	東京大学	教養学部			5月29日～5月30日		清澄学生宿舎
大路樹生	学部生「地質調査。」実習	千石～四方木	東京大学	理学部	地学科		6月1日～6月5日		清澄学生宿舎
小磯静一	森林植物生態調査実習	千葉演習林	千葉県立君津農林高校				6月11日～6月12日		
北里洋	地質調査実習	七里川・池の沢	静岡大学	理学部	地学科		6月29日～7月3日		清澄学生宿舎
小野拓邦	森林科学実習	千葉演習林	東京大学	農学部	生物材料系2専修	3年	7月13日～7月17日		清澄学生宿舎
山岡寛人	照葉樹林の生態系解析実習	千葉演習林	東京大学	教育学部附属高校			7月22日～7月24日		清澄学生宿舎
井出雄二	東京大学教養学部全学自由研究ゼミナール	千葉演習林	東京大学	教養学部			8月3日～8月4日		
谷本丈夫	樹木学実習	千葉演習林	宇都宮大学	農学部	森林科学	1年	8月5日～8月7日		
矢矧茂夫	小中学校理科講座	千葉演習林	千葉県総合教育				8月6日～8月7日		
矢矧茂夫	小中学校理科講座	千葉演習林	千葉県総合教育				8月25日～8月26日		
前田晴良	地質調査法野外実習(3回生)	池ノ沢・七里川周辺	京都大学	理学部		3年	8月31日～9月5日		清澄学生宿舎
鈴木和夫	森林植物学実験	郷台林道	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	9月8日～9月10日		清澄学生宿舎
中村昇	総合科目D講義の為	千葉演習林	東京大学	教養学部			9月28日～10月1日		郷台・札郷宿舎・清澄学生宿舎

教官名	実習名	実習地	学校名	対象学部	学科	学年	日程	対応した教職員の延べ人数	宿泊施設名
山口寿之	地質学実験2(実習)の為	七里川・池の沢	千葉大学	理学部	地学科		10月28日 ～10月30日		清澄学生宿舎
渡邊文男	「緑の教室」森林における動植物の学習	清澄～郷台～荒樫	天津小学校				10月23日		
八木久義	演習林技術官等試験研究会議	千葉演習林	東京大学	農学部			10月29日 ～10月30日		清澄学生宿舎
渡邊文男	社会科学習「森林の働きと私達の生活」	清澄～郷台～荒樫	天津小学校				11月10日		
渡邊文男	社会科学習「森林の働きと私達の生活」	清澄～郷台～荒樫	天津小学校				11月20日		
白石則彦	森林計測学野外実習	千葉演習林	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	12月14日 ～12月17日		清澄学生宿舎
高橋郁雄	森林生態観察	北海道演習林	東京農業大学	生物産業学部		3年	7月1日	1	
鴨田重裕	ゼミ(人間環境システムにおける感覚)	北海道演習林	北海道大学	電子科学研究所		院生	7月1日～ 7月2日	1	セミナーハウス
宮本義憲	北方林の森林施業に関する研修	北海道演習林	長野林業大学校			2年	7月10日	1	
中村 昇	生物生産学実習	北海道演習林	東京農業大学	生物産業学部		3年	7月29日～ 7月30日	1	セミナーハウス
梶 幹男	北方林及び樹木についての実習	北海道演習林	東京農業大学	地球環境科学部	造園科学科	3年・4年	8月3日～ 8月7日	2	セミナーハウス
高橋郁雄									
梶 幹男	森林動物学実験、森林利用学実習	北海道演習林	東京大学	農学部		3年	8月17日～ 8月22日	8	セミナーハウス
高橋郁雄									
鴨田重裕									
宮本義憲									
木佐貫博光									
宮本義憲	冷温帯林の構造と生物多様性の観察	北海道演習林	信州大学	理学部		3年	9月20日～ 9月22日	1	セミナーハウス
梶 幹男	総合科目 D	北海道演習林	東京大学	教養学部		3年	9月28日～ 10月1日	8	セミナーハウス
鴨田重裕									
宮本義憲									
木佐貫博光									
高橋郁雄	生物科野外学習	北海道演習林	北海道教育大学	教育学部	生物科	3年・4年	10月8日～ 10月9日	1	セミナーハウス
小林洋司	森林土壌学実習	秩父	東京大学	農学部	森林系3専修	4年	5月6日～ 5月9日	12	川俣学生寄宿舎
勝見允行	植物野外実習	秩父	国際基督教大学	教養学部	理学科	1・2年	6月25日～ 6月27日		川俣学生寄宿舎、栃本宿舎
丸田恵美子	植物野外実習	秩父	東邦大学	理学部	生物学科		6月29日～ 7月2日		川俣学生寄宿舎

教官名	実習名	実習地	学校名	対象学部	学科	学年	日程	対応した教職員の延べ人数	宿泊施設名
鈴木和夫	森林植物学実験	秩父	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	7月13日～7月16日	13	栃本宿舎、川俣学生寄宿舍
丹下健	森林土壌学実験	秩父	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	7月21日～7月24日	12	川俣学生寄宿舍
上田恵介	博物館学芸員課程 巡検実習	秩父	立教大学	理学部		3年	7月27日～7月31日		民泊泊
浅田章一	樹木実習	秩父	埼玉県秩父農工高等学校	森林科学科		1年	8月3日～8月4日	2	川俣学生寄宿舍
仁多見俊夫	教養学部集中講義 「森林と人の関わり」	秩父	東京大学	教養学部		1・2年	9月28日～10月1日	23	川俣学生寄宿舍
清水英範	測量実習	富士演習林	東京大学	工学系	科社会基盤工学専攻(修士)	3年			
9月21日～26日	1	山中寮							
渡辺昭	生態野外実習	富士演習林	東京大学	理学部	生物学科	3年	9月1～4日	山中寮	
蒲谷 肇・ 山本博一・ 前原 忠・ 井出雄二・ 池田裕行・ 松下範久	森林実習	樹芸研究所	東京大学	農学部	国際開発農学専修	3年	9月1日～9月4日	12	下賀茂寮
八木久義	造林学実験	田無試験地	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	4月20日	4	
八木久義	造林学実験	田無試験地	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	6月8日	3	
久保田耕平	森林動物学実験	田無試験地	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	5月22日	4	
久保田耕平	森林動物学実験	田無試験地	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	5月23日	4	
八木久義	造林学実験	田無試験地	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	9月14日	4	
久保田耕平	森林動物学実験	田無試験地	東京大学	農学部	森林系3専修	3年	9月18日	4	

科学研究費・受託研究費等によって行われた研究

科学研究費

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者名	研究代表者所属
山本博一	基盤研究 (c)	劣化した森林を再生するための森林造成システムの確立	山本博一	演習林研究部
山本博一	基盤研究 (A)	大径材及び高品位材の供給に関する研究	八木久義	東京大学農学生命科学研究科
山本博一	基盤研究 (B)	天然林施業における植物の種多様性および遺伝的多様性の動態解析	井出雄二	千葉演習林
山本博一	基盤研究 (B)	長期生態系プロットによる森林生態系の解明	梶幹男	北海道演習林
佐倉詔夫	基盤研究 (A) 〈2〉	環境保全型複層林経営システムに関する研究	箕輪光博	東京大学農学生命科学研究科
山中征夫	基盤研究 (A) (2)	ヤマビルの発生予測と防除方法に関する基礎的研究	山中征夫	
齊藤陽子	基盤研究 (B)(2)	長期生態系プロットによる森林生態系の解明に関する研究	梶幹男	北海道演習林
梶幹男・高橋郁雄・鴨田重裕・木佐貫博光	基盤研究 (C)	劣化した森林を再生するための森林造成システムの確立	山本博一	東京大学農学生命科学研究科
木佐貫博光	奨励研究 (A)	DNA マーカーを用いた北方林構成樹種の遺伝的多様性の評価	木佐貫博光	北海道演習林
梶幹男・木佐貫博光	基盤研究 (B)	天然林施業における植物の種多様性および遺伝的多様性の動態解析	井出雄二	千葉演習林
梶 幹男・蒲 谷 肇・木佐貫博光	基盤研究 (A)	産地試験設定を伴うミズナラのフェノロジーの地理変異に関する研究	今田盛夫	九州大学
仁多見俊夫	基盤研究 (B)(1)	森林の利用形態別、森林基盤整備計画手法に関する研究	小林洋司	東京大学農学部
蒲 谷 肇	基盤研究 (A)(1)	産地試験設定を伴うミズナラのフェノロジーの地理的変異に関する研究	今田盛生	九州大学農学部
蒲 谷 肇	基盤研究 (B)(2)	長期生態系プロットによる森林生態系の解明	梶幹男	東京大学大学院農学生命科学研究科
安村 直樹	奨励研究 (A)	交通網整備による交流人口の増加が山村活性化に与える影響について	安村 直樹	東京大学農学部
澤田 晴雄	奨励研究 (B)	山地帯主要樹種における樹液の季節変化と胸高部直径の収縮現象との関連	澤田 晴雄	東京大学農学部
芝野博文, 桐村剛	基盤研究 (B)(2)	渇水時における都市近郊水源林の水資源供給量の評価に関する研究	芝野博文	東京大学農学部

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者名	研究代表者所属
芝野博文	基盤研究 (A)(2)	水源涵養林施業マニュアルの作成に関する実証的研究	太田猛彦	東京大学大学院農学生命科学研究科
芝野博文	基盤研究 (B)(2)	長期生態系プロットによる森林生態系の解明	梶幹男	東京大学農学部
池田裕行	基盤研究 (B)	熱帯樹木バイオテクノロジー研究のためのモデルシステムの構築	井出雄二	東京大学農学部附属演習林千葉演習林
大橋邦夫	基盤研究 (A) (1)	大径材及び高品位材の供給に関する研究	八木久義	東京大学大学院農学生命科学研究科
大橋邦夫	基盤研究 (B) (2)	林業労働の参入・退出のコウホート分析 - 新規参入者の定着条件と退出要因 -	永田信	東京大学大学院農学生命科学研究科
井出雄二	基盤研究 (B,2)	天然林施業における植物の種多様性および遺伝的多様性の動態解析	井出雄二	東京大学
井出雄二	基盤研究 (B,2)	熱帯樹木バイオテクノロジー研究のためのモデルシステムの確立	井出雄二	東京大学
井出雄二	創成的基礎研究	東アジアにおける地域の環境に調和した持続的生物生産技術開発のための基礎研究	佐々木恵彦	日本大学
石田健	基盤研究 B(2)	長期生態系プロットによる森林生態系の解明	梶幹男	北海道演習林
石田健	基盤研究 C(2)	コゲラ個体群の生態的・分子生物学的な比較	石田健	研究部
石田健	特別研究員奨励研究 (外国人特別研究員)	奄美大島の固有鳥類の保全生物学的研究	石田健	研究部

他機関との共同研究

氏名	研究課題	共同研究機関
山本博一	スギ花粉症克服に向けた総合研究	科学技術庁 科学技術振興調整費
齊藤陽子	河川における自然生態系の評価手法に関する研究	財団法人日本生態系協会
梶幹男	ブナの実生の初期成長, 丸田恵美子	東邦大学理学部
梶幹男・鴨田重裕	エゾシカ食害防除に関する研究	小島康夫, 北海道大学農学部
仁多見 俊夫	山林植栽作業の機械化に関する研究	社団法人林業機械化協会
仁多見 俊夫	山林下刈作業の機械化に関する研究	社団法人林業機械化協会
石田健	ノグチゲラの保護増殖	環境庁

受託研究

氏名	研究課題	受託機関
山本博一	秩父演習林自然環境調査	埼玉県
佐倉詔夫	秩父演習林自然環境調査	埼玉県
梶幹男	秩父演習林自然環境調査	建設省
井出雄二・梶幹男・高橋郁雄・松下範久・木佐貫博光	森林生態系における共生関係の解明と共生機能の高度利用のための基礎研究（代表：鈴木和夫）	農林水産省
仁多見 俊夫	秩父演習林自然環境調査	埼玉県
蒲谷 肇	秩父演習林自然環境調査	埼玉県
安村 直樹	秩父演習林自然環境調査	埼玉県
松下範久	森林生態系における共生関係の解明と共生機能の高度利用のための基礎研究（代表：鈴木和夫）	農林水産省
大橋邦夫	秩父演習林自然環境調査	建設省
井出雄二	秩父演習林自然環境調査	埼玉県
石田健	秩父演習林自然環境調査	埼玉県

奨学寄付金

教官名	研究課題
井出雄二	樹木の組織培養研究
井出雄二	マツクイムシ抵抗性マツの育種

研修

技官

研修名	研修場所	日程	参加人数
平成10年度技術職員初任者研修	東京大学	5月12日～5月15日	1名
技術職員研修（遺伝子操作の基礎技術関係）	東京大学	9月1日～9月3日	1名
東京大学職員海外研修（短期）	フィンランド	9月2日～9月9日	1名
第5回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	名古屋大学	9月8日～9月11日	1名
第5回京都大学演習林技術職員研修	京都大学	9月28日～10月1日	1名
第1回関東甲信越地区演習林技術職員研修	東京大学	11月24日～11月27日	1名
第8回北海道大学農学部附属演習林技術職員研修	北海道大学	11月17日～11月20日	1名
中堅係員研修	札幌	9月28日～10月2日	1
技術官等試験研究・研修会	千葉演習林	10月29日～10月30日	2
北海道大学演習林技術職員研修	雨竜	11月17日～11月20日	2

研修名	研修場所	日程	参加人数
関東甲信越地区演習林技術職員研修	秩父演習林	11月24日～11月27日	1
旭川営林支局業務研究発表会	旭川	2月26日	10
森林総合研究所北海道支所研究発表会	札幌	3月19日	3
林業講演会	埼玉県林業試験場	6月25日	3
フォークリフト運転技能講習会	信濃町・大田区	6月26日、7月26日	1
平成10年度東京大学安全管理講習会	東京大学	7月6日～7月7日	1
第5回京都大学演習林技術職員研修	京都大学芦生演習林	9月28日～10月1日	1
第5回TNTmips勉強会	国際農林水産業研究センター	10月1日	1
第50回日本林学会関東支部大会	千葉幕張	10月26日～10月27日	1
平成10年度技術官等試験研究・研修会議	千葉演習林	10月29日～10月30日	4
平成10年度技術職員研修（コンピュータ関係）	東京大学	11月4日～11月6日	1
第5回森林利用学会	愛知県豊田市	11月13日～11月15日	5
第1回関東甲信越地区演習林技術官研修	秩父演習林	11月24日～11月26日	7
林業体験発表講演会	埼玉県林業試験場	2月3日	6
林業機械研修	秩父演習林	3月3日	6
平成10年度東京大学技術員研修	水産実験所	平成10年5月12日～15日	1名
平成10年度東京大学演習林技術官等試験研究・研修会議	千葉演習林	平成10年10月29日～30日	1名
第5回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	名古屋大学稲武演習林	平成10年9月8日～11日	2名
第1回関東甲信越地区演習林技術職員研修	秩父演習林	平成10年11月24日～27日	1名
第5回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	名古屋大学	9月7日～9月11日	1
平成10年度技術官等試験研究・研修会議	千葉演習林	10月29日～10月30日	1
関東地区農学部附属演習林技術職員研修	秩父演習林	11月24日～11月27日	1
第8回北海道大学演習林技術職員研修	北海道大学演習林	月日～月日	1

事務官

研修名	研修場所	日程	参加人数
平成10年度掛主任研修	東京大学	5月26日～5月29日	1名
平成10年度会計事務担当者実務研修	東京大学	10月20日～10月23日	1名

研修名	研修場所	日程	参加人数
東京大学掛長研修	東京大学	6月9日～6月12日	1
主任研修	東京大学	9月28日～10月2日	1
人事事務担当者実務研修	東京大学	1月19日～10月22日	1
旅費計算システム講習会	東京大学	1月28日	1
国有財産・宿舍事務担当者実務講習	東京大学	3月2日～3月3日	1
平成10年度掛長研修	東京大学	4月1日～4月2日	1
旅費事務コンピューター講習会	東京大学	1月28日～1月29日	1

安全・防災

研修名	研修場所	日程	参加人数
平成10年度東京大学安全管理講習会	東京大学	7月8日	1名
チェーンソーを用いる伐木等の業務に係る特別教育	千葉県林業サービスセンター	7月8日～7月9日	1名
消防訓練	北海道演習林	4月17日	55
林内作業の安全対策講習会	北海道演習林	7月17日	52
チェーンソー操作に関する講習会	北海道演習林	9月25日	35
交通安全講習会	北海道演習林	12月15日	49
健康管理講習会	北海道演習林	12月15日	49
直営生産安全管理講習会	秩父演習林	8月26日	14
安全検討全体会議	秩父演習林	1月26日	17
総合防災訓練	田無試験地	9月1日	8

国際交流

国際シンポジウム

教官名	シンポジウム名	主催	開催地	日程
山本博一	International Symposium on Global Concerns for Forest resource Utilization	IUFRO	日本	10月5日～8日
芝野博文	Workshop on Methods of Field Investigation of Water Cycle and China-Japan NCP Project.,中国科学院石家庄農業現代化研究所・太行山山地生態試験站	石家荘	5日	
芝野博文	HeadWater 98, the Fourth International Conference on Headwater Control, Merano, Italy, 7日			
井出雄二	The international symposium on environmental ecology landscape for 21 century	Kongju National University	Yesan	1998.10.14
石田健	エコツアーリズムと島の鳥	三宅島	東京	5月13日～5月16日

教官名	シンポジウム名	主催	開催地	日程
石田健	第 22 回国際鳥学会議	国際鳥学会議	南アフリカ ダーバン市	8 月 16 日～ 8 月 22 日

共同研究

教官名	研究テーマ	共同研究者氏名	国籍
芝野博文	華北平原広域水収支に関する研究	中国科学院石家荘中国農業現代化研究所所長劉昌明	中国

外国人研究者の来訪

研究者氏名	国籍	来訪目的	日程
Mr.R.TORRES VELAZZQUEZ	パラグアイ	ニホンジカの生態と保護管理	4 月 2 日～ 4 月 3 日
J. テンフネン教授他 3 名	ドイツ	照葉樹林の見学	9 月 3 0 日～ 1 0 月 2 日
Ms Armi D. Foster	フィリピン	日本における演習林の管理手法	1 1 月 2 4 日
Cullen Whitley	米国	演習林の見学	11.29
Steven Wondzell 助手	オレゴン州立大学	量水施設見学	1 日
姜 志林教授	中国南京林業大学	量水施設・演習林施業見学	1 日

外国人研究者の招聘

外国人研究者の講演会

外国出張

海外研修旅行

出版広報活動

演習林報告

「演習林報告」99・100号を発行した

演習林報告第99号 6月30日発行

Ding-Qin Tan, Hailong Shen and Yuji Ide

Genetic diversity and structure of Hinoki (*Chamaecyparis obtusa*) in Chichibu District.

吉原 浩・太田正光・折口和宏
ねじり試験による木材のせん断応力—せん断ひずみ関係の定式化.....11-18

沈 海龍・渡辺 信・井出雄二
Establishment of Callus culture System of *Populus euphratica*, *Populus alba* cv. *Pyramidalis* and *Populus maximowiczii* × *Populus plantierensis*.....19-26

沈 悦
中国杭州西湖における景観形成とその影響に関する研究.....27-110

波羅 仁・則定真利子・鈴木 誠・丹下 健・八木久義
スギとタイワンスギの低温にともなう水分生理的变化.....111-124

湯 定欽・池田裕行・渡邊良弘・村瀬一隆・井出雄二
異なる繁殖方法により造成されたヒノキ人工林分の遺伝的多様性.....125-132

泉 桂子
東京都水道水源林の形成過程—明治期に現れたいくつかの経営案を中心として—
.....133-184

西谷裕子・高瀬雅子・福田健二・鈴木和夫
クスノキ衰退木の処置と樹体の生理状態.....185-198

則定真利子・丹下 健・鈴木 誠・佐々木恵彦
Temporal and spatial variations in CO₂ concentration within a Japanese cedar forest on a slope land.....199-208

中嶋健次・久保田耕平
房総半島南部のスギ・ヒノキ壮齢林におけるスギカミキリの分布.....209-218

澁谷 栄・鮫島正浩・佐分義正
日本産針葉樹樹皮抽出成分の抗菌活性について.....219-234

蔵治光一郎・山中千恵子・永島利夫・軽込 勉・則定真利子
房総半島清澄山系の降雨特性（I）—清澄観測点における平均年降雨量の算定—
.....235-243

演習林報告第100号 12月25日発行

久保田 耕平

東京大学演習林田無試験地におけるオサムシ科昆虫 (Carabidae) の活動性の季節変動—特に繁殖季節について—
.....1-12

安村直樹・永田 信
国民の森林ニーズについて (I): アンケート結果の概要.....13-28

海津ゆりえ
自然観察における子どもの動植物に対する認識に関する研究.....29-130

鈴木 誠
スギ・ヒノキ高齢林の経営論的研究—東京大学千葉演習林における人工林経営に関する実験—
.....131-214

小林洋司・岩岡正博・酒井秀夫・千嶋 武・仁多見俊夫
急勾配の林道路線設計と施工.....215-225

演習林

演習林に関する資料集である「演習林」38号を印刷発行した

演習林 38号 1月29日発行

鈴木誠・龍原哲・山中千恵子・唐鎌勇・井出雄二

千葉演習林における林分成長資料 (II) — 1976年から1996年までの成長経過—
.....1-72

樹芸研究所
東京大学農学部附属演習林樹芸研究所青野試験林の植物.....73-126

愛知演習林
愛知演習林量水観測結果報告 (VI).....127-146

農学部附属演習林
東京大学演習林気象報告 (自1997年1月至1997年12月).....147-274

著書

教官名	書名
石田健	森の環境 100 不思議（分担執筆）

新聞・雑誌・放送等

新聞など名	日付	表題
読売新聞	1 1 月 2 1 日	紅葉の溪谷見に来て 今日から土・日と祝日 君津の演習林開放 東大農学部
朝日新聞	3 月 1 2 日（埼玉版）	回り舞台 本多 静六
T B S 放送	8 月 30 日	「笑顔がいちばん」- 富良野の豊かな自然の撮影 -
北海道新聞	1 月 1 日	森は小さな宇宙だ
北海道新聞	3 月 27 日	東大演習林に資料館
伊豆新聞	3 月 9 日	東京大学樹芸研究所試験林内に炭焼き窯森林セミナーに活用

学内広報

誌名	号数	題名
学内広報	N o 1 1 4 5	農学部附属千葉演習林で「緑の教室」開催（1 0 月 2 3 日）
文教速報	N o 5 7 9 4	千葉演習林でペアウォッチング親子ら 4 0 組参加 東大農学部附属演習林
学内広報	第 1129 号	新緑の秩父演習林で公開講座催す
学内広報	第 1136 号	農学部附属秩父演習林で市民参加の森林ハイキングを開催
学内広報	第 1146 号	農学部附属演習林秩父演習林で第 1 回関東甲信越地区大学演習林技術職員研修会開催
学内広報	1098	愛知演習林で公開講座「市民のための森林学入門」春季講座開催される
学内広報	1,128	農学部附属演習林樹芸研究所で小型簡易炭窯を製作
学内広報	1,129	平成 1 0 年度「森林体験セミナー」への参加募集
学内広報	1,131	農学部附属演習林樹芸研究所が「第 7 回森林教室」を開講
文教速報	5,769	東大演習林樹芸研究所が第 7 回森林教室を開講
文教速報	5,805	東大演習林樹芸研究所森林体験セミナー
学内広報	1,137	農学部附属演習林樹芸研究所で「平成 1 0 年度森林体験セミナー」開催される

各種委員会報告

運営委員会

運営委員会は、演習林規則第 5 条により設置したもので演習林の管理および運営に関する重要事項を審議する。今年度は平成 10 年 7 月 8 日および平成 11 年 3 月 9 日の 2 回開催された。

また、委員は、委員長である演習林長が

- ・演習林の教授および助教授
 - ・農学部長が推薦する農学部教授又は助教授
- に委嘱する。

地方林長会議

演習林における種々の活動について報告および審議がなされる。今年度の開催は平成 10 年 7 月 8 日、平成 10 年 12 月 9 日および平成 11 年 3 月 9 日の 3 回であった。

会議は、

- ・地方演習林の林長
 - ・事務長、事務長補佐、掛長
- で構成されている。

地方林長会議の前に本部研究部の講師以上の教官を含めた、小委員会を開催し、林長会議の議題整理並びに検討を行った。

補佐会議

本演の林長の補佐会議であり、演習林会議と同様に演習林長の諮問機関である。毎月 1 回会議がもたれた（8 月を除く）。

演習林会議

演習林長の諮問機関の役割を持つ。毎月 1 度開催された（8 月を除く）。会議のメンバーは、助教授以上の教官、事務長である。

将来計画委員会

1992 年 3 月の演習林長会議で、自己点検・評価を行うために発足した。委員会は演習林の教授、助教授によって構成される。拡大将来計画委員会には演習林長、林長補佐、森林科学専攻長、生物材料科学専攻長が加わる。平成 10 年度の開催日は以下の通りである。

拡大将来計画委員会

平成 10 年 5 月 11 日、7 月 31 日、平成 11 年 2 月 12 日

演習林編集委員会

当演習林の発行する「東京大学農学部演習林報告」、「演習林」の発行編集を行う委員会である。平成 10 年度は計 6 回の委員会が開催された。（8 出版・広報活動参照）

演習林施設委員会

演習林の「施設の適正利用と改善の方策について」検討するため、平成 8 年 2 月 16 日から委員会を設置し、平成 10 年度には、1 回の委員会が開催された。

全演の事務主任会議

平成 10 年 7 月 23 日～7 月 24 日に開催された。当初予算配分の説明、地方演の近況報告、各掛所管事項の説明などが行われた。周知確認のための会議であり、構成員は本部事務部掛主任以上、地方演事務主任である。

学外各種委員会

氏名	委員会名称	委員会所轄機関
山本博一	農林水産統計観測審議会	農林水産省
山本博一	多自然居住地域創造推進委員会	国土庁
山本博一	林業技士制度検討委員会	林野庁
山本博一	文化財修理用資材確保検討委員会	文化庁
山本博一	日本林学会評議員	日本林学会
佐倉詔夫	千葉県史編纂	維管束植物・植生執筆委員会(財)千葉県史料研究財団
中村 昇	木質構造限界状態設計法小委員会	日本建築学会
中村 昇	エンジニアリングウッド性能評価委員会	日本住宅・木材技術センター
山中征夫、	千葉県鳥獣保護委員	千葉県
前原忠	千葉県鳥獣保護委員	千葉県
大塚明宏	千葉県鳥獣保護委員	千葉県
仁多見 俊夫	機械化開発委員会	社団法人林業機械化協会
蒲谷 肇	天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止委員会	千葉県富津市・君津市
蒲谷 肇	千葉県史自然誌系維管束植物・植生執筆委員会	(財)千葉県史料研究財団
蒲谷 肇	千葉県自然環境保全審議会	千葉県
井出雄二	農林水産省ジーンバンク事業林木遺伝資源部会委員	林木育種センター
井出雄二	千葉県緑の県民会議委員	千葉県
井出雄二	千葉県森林審議会委員	千葉県
井出雄二	千葉県土地利用計画地方審議会委員	千葉県
井出雄二	日本学術会林学研究連絡委員会委員	日本学術会議
井出雄二	熱帯林再生技術研究組合技術開発委員会委員	熱帯林再生技術研究組合
井出雄二	樹木医研修受講者選抜試験委員	日本緑化センター
井出雄二	理事	林木育種協会
井出雄二	編集委員	林業技術協会
石田健	評議員会	日本鳥学会
石田健	自然保護委員会	日本鳥学会
石田健、	やんばる希少野生生物保護増殖委員	環境庁
石田健	奄美大島希少野生生物保護増殖委員	環境庁
石田健	組織委員	国際鳥学会議

山火事予防活動

名称	場所	日程	参加人数
春季火防警戒	郷台作業所管内	4月18日	25名
冬期火防警戒	清澄作業所管内	2月3日	25名
林野火災予防消防強調期間中の林内巡視及び日直	北海道演習林	4月21日～ 5月31日	48名
消防訓練・救急講習会	秩父演習林栃本管内	1月20日	15
赤津地区山火事予防訓練	赤津作業所	1日	7名
犬山地区山火事予防訓練	犬山作業所	1日	5名

主要設備

平成10年度内に購入した概ね100万円以上の主要設備は以下の通りである。

設備名称	設備要途
日産ディーゼル製 コンドルダンプ kc-mk260BHD	土木用
三菱電機製 超低温フリーザー NDF-392	研究用
いすゞモータ東京 ELF100 ダブルキャップ4WB	業務用
JENOPTIK（製）レーザー・デンドロメーター	研究用9月18日
三菱パジェロバン	造林事業用車両10月16日
ウチダ液晶プロジェクター	麓郷資料館講義室用2月15日
日産ダットサン	造林事業用車両2月25日
ニューホランド トラクター	種苗事業用3月30日
東大北海道演習林立体地形模型	麓郷資料館展示用3月30日
トヨタ・ハイエースワゴン4WD	人員・機材の輸送用

年間行事

月	行事
4月	春季火災予防研修（千葉）消防訓練，安全祈願祭，富良野市林野火災予防消防対策協議会，麓郷森林愛護組合総会，布部地区林野火災予防対策協議会，山部森林愛護組合総会，林野火災予防消防強調月間（北海道）日本林学会大会，土壤肥料学会，植樹祭，苗畑除草施肥灌水（愛知）植樹祭（樹芸）農学部森林系3専修造林学実験（田無）
5月	春季業務研修会（千葉）植樹祭，演習林公開セミナー「東京大学北海道演習林の森林観察」（北海道）東大森林土木学実習，公開講座「奥秩父の自然と人のかかわり」，国道140号調整会議（秩父）利用者研究集会，苗畑除草施肥灌水（愛知）山中湖マラソン大会（富士）農学部森林系3専修造林学実験，農学部森林系3専修森林動物学実験（田無）
6月	一般定期健康診断（北海道）東邦大学野外実習，国際基督教大学植物実習（秩父）森林保全学実習，苗畑除草施肥灌水（愛知）グランド肥料蒔き（富士）農学部森林系3専修森林動物学実験（田無）
7月	安全管理講習，TEPCOペアウォッチング（千葉）安全会議，日本木材学会北海道支部研究発表会，林内作業の安全に関する講習会，教育学部附属高等学校実習（北海道）東大森林植物学実習，東大森林土壌学実習，立教大学博物館巡検実習（秩父）堰堤砂出し，苗畑除草施肥灌水（愛知）山中寮開寮式典，山中湖畔栈橋作り補助（富士）森林教室（小学生），学生実習（高校生）（樹芸）農学部森林系3専修造林学実験（田無）
8月	森林動物学実験・森林利用学実習（北海道）直営生産事業安全講習会，埼玉県秩父農工高校樹木実習（秩父）苗畑除草施肥灌水（愛知）予算会議，森林体験セミナー（樹芸）
9月	胸部・胃部健康診断，教養学部少人数講義，北海道地方演習林業務担当者会議，レクリエーション大会，チェンソー操作に関する講習会（北海道）東大森林生態圏管理学大講座実習，東大教養学部集中講義「森林と人のかかわり」（秩父）立木処分調査，教養学部総合科目「森林と人間の関わり」（愛知）東京大学理学部生物学科，生態学野外実習，東京大学工学部土木学科測量実習（63名），野外トイレ設置現地検討（本部施設掛），長期生態系プロット設置（富士）国際農学専修 森林実習（樹芸）農学部森林系3専修森林動物学実験（田無）
10月	林道工事競争入札，立木処分競争入札（千葉）北海道地方演習林協議会（北海道）日本林学会中部支部会，技術官等試験研究・研修会議，測量学実習，立木処分調査（愛知）健康診断（樹芸）
11月	給与簿監査，秋季業務安全研修，枝打ち請負作業入札（千葉）日本林学会北海道支部大会，特別健康診断，シカ猟解禁（北海道）第1回関東甲信越地区演習林技術職員研修（秩父）山の神祭礼，施設（営繕）関係調査の立ち会い，蔓きり除伐，立木処分調査，愛知演習林公開講座（愛知）
12月	健康診断，会計監査（千葉）交通安全講習会，健康管理講習会（北海道）御用納め，蔓きり除伐（愛知）御用納め（富士）
1月	消防訓練・救急講習会（秩父）御用始め，蔓きり除伐（愛知）御用始め（富士）岩樟園林道延長（8工区）工事入札（樹芸）
2月	冬季火災予防研修・業務安全研修，清澄長期滞在型宿舍新営工事入札，松くい虫被害木駆除請負作業入札（千葉）旭川営林支局業務研究発表会（北海道）地ごしらえ（愛知）野外トイレ完工施設部視察（富士）
3月	保育間伐請負作業入札（千葉）上川地区林野火災予防消防対策協議会，森林総合研究所北海道支所研究発表会，麓郷ラングラウフ，持続的森林経営に関する現地検討会（北海道）秩父演習林自然環境調査現地検討会（秩父）名古屋大学測量学実習，平成10年度末帳簿及び金庫の定時検査，有名林業地見学旅行（愛知）
毎月	主任会議（秩父）

資料

人事異動

1998年4月1日付

新官職名	氏 名	旧官職名
研究部 助 手	齊 藤 陽 子	〔新規採用〕
東京工業大学 大学院総合理工学研究科 講 師	蔵 治 光一郎	千葉演習林 試験掛 助 手
農学部附属演習林 事務長補佐	青 山 芳 久	千葉大学 医学部附属病院総務課人事係長
農学部附属演習林 会計主任・用度掛長（併）	真 弓 貞 雄	地震研究所 会計主任・用度掛長（併）
北海道演習林 総務主任・管財掛長（併）・ 宮繕掛（併）	松 本 光 由	理学部・理学系研究科 用度掛長
農学部附属演習林 庶務掛長	田 渕 章 博	社会科学研究所 庶務掛長
北海道演習林 会計掛長	桑 原 元 道	北海道大学 薬学部会計掛会計主任
秩父演習林 事務主任	小 貫 浩	農学部・農学生命科学研究科 農業資源経済学系事務主任
樹芸研究所 事務主任	山 田 博 明	樹芸研究所 事務室総括主任
千葉演習林 事務室主任	野 山 智	千葉演習林 事務掛
農学部附属演習林 用度掛 文部省学術国際局研究助成課（併）	鎌 形 太 郎	東京水産大学 会計課用度係
北海道演習林 庶務掛 文部事務官	大 屋 裕 子	北海道演習林 庶務掛 文部技官（調理士）
愛知演習林 試験掛 文部技官	荒木田 きよみ	愛知演習林 試験掛 文部技官（実験助手）

新官職名	氏 名	旧官職名
千葉演習林 施業掛 文部技官	相 川 美絵子	〔新規採用〕
愛知演習林 造林掛 文部技官	高 徳 佳 絵	〔新規採用〕
低温センタ _ 事務主任	林 忠 博	農学部附属演習林 会計主任・用度掛長（併）
教育学部・教育学研究科 会計主任・会計掛長（併）	日 向 雅 道	北海道演習林 総務主任・管財掛長（併）・ 宮繕掛（併）
経済学部・経済学研究科 庶務掛長	五十嵐 勉	農学部附属演習林 庶務掛長
北海道大学 低温科学研究所会計掛長	横 田 隆 義	北海道演習林 会計掛長
経理部主計課 文部省学術国際局研究機関課（併）	伊 福 晃	農学部附属演習林 管財掛
千葉演習林 試験掛 講 師	中 村 昇	千葉演習林 調査掛主任・試験掛（併） 講 師
千葉演習林 施業掛主任・生産処分掛主任（併） 助 手	石 原 猛	千葉演習林 施業掛主任 助 手
千葉演習林 事務掛	石 野 裕 昭	千葉演習林 事務掛・生産処分掛（併）
千葉演習林 施設管財掛主任・土木掛主任（併）	鈴 木 祐 紀	千葉演習林 施設管財掛
千葉演習林 造林掛主任	永 島 初 義	千葉演習林 施設管財掛主任
千葉演習林 清澄作業所主任・調査掛主任（併）	鶴 見 康 幸	千葉演習林 生産処分掛主任
千葉演習林 生産処分掛	山 中 千恵子	千葉演習林 試験掛

新官職名	氏 名	旧官職名
千葉演習林 土木掛・施設管財掛（併）	里 見 重 成	千葉演習林 郷台作業所
千葉演習林 試験掛	石 川 敏 朗	千葉演習林 施業掛
千葉演習林 郷台作業所・土木掛（併）	大 石 論	千葉演習林 土木掛
北海道演習林 調査企画掛主任・山麓作業所主任 （併）	高 田 功 一	北海道演習林 東山作業所主任
北海道演習林 東山作業所主任	芝 野 伸 策	北海道演習林 調査企画掛主任
北海道演習林 東山作業所生産掛	平 田 雅 和	北海道演習林 山麓作業所調査第二掛
北海道演習林 山麓作業所調査第一掛	穴 戸 憲 治	北海道演習林 山麓作業所調査第二掛
北海道演習林 山麓作業所調査第二掛	福 士 憲 司	北海道演習林 東山作業所生産掛
北海道演習林 山麓作業所調査第二掛	宅 間 隆 二	北海道演習林 山麓作業所調査第一掛
北海道演習林 土木掛 副車庫長	稲 葉 文 吉	北海道演習林 土木掛
北海道演習林 山部樹木園 車庫主任	鈴 木 憲	北海道演習林 山部樹木園
北海道演習林 東山作業所造林掛 車庫主任	大 屋 一 美	北海道演習林 東山作業所造林掛
秩父演習林 大血川作業所・影森苗畑（併）	平 野 和 男	秩父演習林 大血川作業所

1998年8月1日付

新官職名	氏 名	旧官職名
農学部附属演習林 用度掛	鎌 形 太 郎	農学部附属演習林 用度掛 文部省学術国際局研究助成課（併）

1998年8月13日付

官職名	氏 名	摘要
千葉演習林 試験掛	石 川 敏 朗	〔死 亡〕

1998年9月16日付

新官職名	氏 名	旧官職名
農学部附属演習林 会計主任	真 弓 貞 雄	農学部附属演習林 会計主任・用度掛長（併）
農学部附属演習林 用度掛長	星 野 佳 也	学術情報センター 管理部総務課庶務係長

1998年10月1日付

新官職名	氏 名	旧官職名
千葉演習林 施業掛	軽 込 勉	千葉演習林 札郷作業所
千葉演習林 札郷作業所	相 川 美絵子	千葉演習林 施業掛

1998年11月1日付

新官職名	氏 名	旧官職名
千葉演習林 試験掛 助 手	齊 藤 陽 子	研究部 助 手

1998年12月1日付

新官職名	氏 名	旧官職名
千葉演習林長 研究部 教 授	井 出 雄 二	千葉演習林長 研究部（併） 教 授
千葉演習林 講 師	佐 倉 詔 夫	研究部 講 師

1999年3月1日付

新官職名	氏 名	旧官職名
田無試験地主任 研究部（併） 教 授	大 橋 邦 夫	田無試験地主任 研究部（併） 助教授

1999年3月31日付

現官職名	氏 名	適用
北海道演習林 講 師	高 橋 郁 雄	〔停年退職〕
千葉演習林 施業掛主任・生産処分掛主任（併） 助 手	石 原 猛	〔停年退職〕
北海道演習林 東山作業所事務主任	中 島 満 治	〔定年退職〕
北海道演習林 業務主任	河 原 漠	〔定年退職〕
愛知演習林 調査処分掛主任・ 犬山作業所主任（併）	築 瀬 憲 次	〔定年退職〕

収入・支出

予算及び決算額

人件費	1,107,306 千円
物件費	
校費	433,139 千円
土地建物借料	8,461 千円
市区町村交付金	24,870 千円
受託研究	99,040 千円
施設整備費	28,436 千円
その他	28,436 千円
計	678,335 千円
合 計	1,785,641 千円

歳入決算内訳書

科目及び目の区分	収 納 済 歳 入 額			備 考
	現金分	納入告知書等分	計	
	円	円	円	
(項) 学校財産処分収入	0	30,496,000	30,496,000	
(目) 学校財産処分収入	0	30,496,000	30,496,000	
土地売却代				
(項) 雑収入				
(目) 学校財産貸付料	876,392	16,054	892,446	
土地貸付料	0	16,054	16,054	
建物及物件貸付料	876,392	0	876,392	
(目) 用途指定寄附金受入	0	2,200,000	2,200,000	学術研究費 3 件
(目) 産学連携等研究収入	0	24,706,500	24,706,500	
受託研究調査試験	0	24,706,500	24,706,500	受託研究 24,706,500 円
(目) 弁償及違約金	0	1,095,884	1,095,884	
損害賠償金	0	1,095,884	1,095,884	(愛知：立木補償分)
(目) 農場及演習林収入	0	165,025,198	165,025,198	
演習林収入	0	165,025,198	165,025,198	
(目) 不用物品売却代	0	33,075	33,075	
紙屑	0	1,575	1,575	
鉄屑	0	31,500	31,500	
(目) 雑入	0	507,195	507,195	
延納利子収入	0	507,195	507,195	演習林関係 507,195 円
合 計			224,956,298	

演習林収入歳入決算内訳細分表

区分	立木	素材	その他		合計
			ヒサカキ	苗木	
千葉演習林	2,557.61 m ³	10.728 m ³	202 束		32,644,350 円
	32,034,400 円	434,210 円	175,740 円		
北海道演習林	27,759.58 m ³	2570.636 m ³			124,903,427 円
	78,623,685 円	46,279,742 円			
秩父演習林	1,015.36 m ³	181.839 m ³			5,902,421 円
	670,000 円	5,232,421 円			
愛知演習林	180.73 m ³				1,575,000 円
	1,575,000 円				
合計	31,513.28 m ³	2763.203 m ³	202 束		165,025,198 円
	112,903,085 円	51,946,373 円	175,740 円		

組織図

本部

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）
演習林長	教授	八木 久義			
事務長		植田 榮司			
事務長補佐		青山 芳久			
会計主任		真弓 貞雄 平成 10 年 9 月 16 日から			
庶務掛	掛長	田渕 章博	事務官	伊藤 由利子	
	掛主任	遠藤久美子	事務官	菊池 仁一	
会計掛	掛長	関 辰男	事務官	江頭 裕士	
	給与主任	紺野 喜久恵			
用度掛	掛長	星野 佳也 平成 10 年 9 月 16 日から	事務官	蛭川 聖二	
			事務官 鎌形 太郎 平成 10 年 8 月 1 日まで併任		
管財掛	掛長	野沢 時彦			唐木田 昭子
	掛主任	戸田 浩			
研究部	部長・教授	山本 博一	教授	井出 雄二 平成 10 年 12 月 1 日まで併任	
			（併）教授	大橋 邦夫	
			講師	佐倉 詔夫 平成 10 年 12 月 1 日まで	
			講師	石田 健	
			助手	齊藤 陽子 平成 10 年 11 月 1 日まで	
			助手	藤原 章雄	
			事務官	三井 伸子	

※（併）助教授 大橋 邦夫 平成 11 年 3 月 1 日 教授昇任

千葉演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）
林長	教授	井出 雄二			
林長補佐	講師 講師 平成 10 年 12 月 1 日より	中村 昇 佐倉 詔夫			
事務掛	事務主任 事務室主任	若月 八重子 野山 智	事務官	田山 勝則 石野 裕昭	
宿泊管理掛	主任	永島 利夫			糟谷 育代 鈴木 俊江 行方 和子
調査掛	主任（併）	鶴見 康幸			
施設管財掛	主任	鈴木 祐紀	技官	里見 重成（併）	
施業掛	主任	石原 猛	技官 平成 10 年 9 月 30 日まで 技官 平成 10 年 10 月 1 日より	相川 美絵子 軽込 勉	
生産処分掛	主任（併）	石原 猛	技官	山中 千恵子	
土木掛	主任（併）	鈴木 祐紀	技官 技官	大石 諭（併） 里見 重成	
造林掛	主任（併）	永島 初義	技官	米道 学	
試験掛	主任・助手	鈴木 誠	助手 助手 助手 平成 10 年 11 月 1 日より 技官	山中 征夫 前原 忠 齊藤 陽子 石川 俊朗	
清澄作業所	主任	鶴見 康幸	技官 技官	大塚 明宏 藤平 晃司	瀧川 マサ子 岡本 眸 平成 10 年 5 月 31 日まで 朝生 重行 平成 10 年 10 月 1 日より
札郷作業所	主任	唐鎌 勇	技官 技官 平成 10 年 10 月 1 日より 技官 平成 10 年 9 月 30 日まで	塚越 剛史 相川 美絵子 軽込 勉	糟谷 いさ 黒川 よし子 鈴木 貞夫 鈴木 ユキエ
郷台作業所	主任	村川 功雄	技官 技官	大石 諭 阿達 康真	鴫田 英子 鴫田 美登里 加藤 みよ

北海道演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）
林長	教授	梶 幹男			
林長補佐	講師	高橋 郁雄			
総務主任		松本 光由			
庶務掛	掛長	高橋 克郎	事務官	大屋 裕子	穴澤 三恵子
	主任	五十嵐信春	事務官	天山 学	
会計掛	掛長	桑原 元道	事務官	米田 久和	
	経理主任	越智 俊子	事務官	横山 和宏	
管財掛	掛長（併）	松本 光由	事務官	岡田 教和	
営繕掛			事務官（併）	松本 光由	大地 留美子
セミナーハウス	（併）	高橋 克郎			矢野勝次郎, 松平 安雄 山本ハナ子, 飯沼 芳子
業務主任		河原 漠			
調査企画掛	主任	高田 功一	技官	木村 徳志	
種苗造林掛	主任	廣川 俊英	技官	小澤 慰寛	
			技官	磯崎 靖雄	
生産処分掛	主任	道上 昭夫	事務官（併）	越智 俊子	吉田 幸子, 藤島ノブ子
土木掛	主任	五十嵐秀雄	技官	稲葉 文吉	佐々木政夫
			技官	飯沼 利雄	
資料管理掛	主任	高橋 康夫	技官	井口 和信	伊原 悦子, 穴戸ミエ子 新山美穂子
			技官	犬飼 雅子	
試験掛			助手	宮本 義憲	
			助手	鴨田 重裕	
			助手	木佐貫博光	
東山作業所	主任	芝野 伸策			
事務掛	事務主任	中島 満治			座間 悦子
造林掛	主任	島 強	技官	清水目元一	若菜ヤイコ, 大島スミ子 本田 サタ, 日向 エイ子 押切 春二, 鎌田 敬子 芳賀 一雄, 荒木 寿幸 影山 キヨ, 牧村 博 佐藤 文子
			技官	大屋 一美	

生産掛	主任	岩本 進一	技官	坂口 敏雄	鍋田 博昭, 千徳 勝洋
			技官	平田 雅和	
			技官	笠原 久臣	
			技官	伊原 重男	
山麓作業所	主任（併）	高田 功一			
調査第一掛	主任	犬飼 浩	技官	山本 勝彦	
			技官	穴戸 憲治	
			技官	松井 理生	
			技官	小池 征寛	
調査第二掛	主任	佐藤 烈	技官	高橋 範和	
			技官	福士 憲司	
			技官	宅間 隆二	
			技官	岡平 卓巳	
山部樹木園	主任	小笠原繁男	技官	岡村 行治	佐々木雅子, 五十嵐嘉子 伊藤 君江, 吉川 忠雄
			技官	鈴木 憲	

秩父演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長	助教授	仁多見俊夫		
林長補佐	講師	蒲谷 肇		
事務掛	事務主任	小貫 浩	事務官	柴崎 テル子
	事務室主任	大畑喜久江	事務官	
施業・調査掛	主任	山中 隆平	技官	
			技官	
造林掛	主任	大畑 茂	技官	五十嵐勇治
生産処分掛	主任	佐々木和男		
土木掛	主任	千嶋 武		
試験掛	主任（併）・講師	蒲谷 肇	助手	安村 直樹
			技官（併）	大村 和也
			技官（併）	澤田 晴雄
			技官（併）	千島 武
			技官（併）	齋藤 俊浩
			技官（併）	五十嵐勇治
			技官（併）	高野 充広
栃本作業所	主任	大村 和也	技官	小河 民也
			技官	大村 幸正
			技官	神塚 武一
大血川作業所	主任	澤田 晴雄	技官	平野 和男
				黒沢 音治
影森苗畑	主任	田代 八郎	技官（併）	千島啓之助
				大森己知男

愛知演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長	助教授	芝野 博文		
事務掛	事務室主任	加藤 正勝		
	事務室主任	春田まち子		
調査処分掛			技官（併） 築瀬 憲次 技官 荒木田善隆	
造林掛			技官（併） 原 孝秀 技官 後藤 太成 技官 高德 佳絵	
土木営繕掛			技官 渡部 賢	
試験掛			助手 春田 泰次 助手 吉田 孝久 助手 桐村 剛 助手 荒木田きよみ	
赤津	主任	原 孝秀		熊谷喜美子
白坂苗畑			技官 井上 淳	大川くに子 胡桃沢 清 胡桃沢晃子 長尾志奈子 田中 佳重
犬山作業所	主任	築瀬 憲次		伊藤半二郎
東山試験地			助手（併） 春田 泰次	
穴の宮試験地			技官（併） 後藤 太成	
新居試験地			助教授（併） 芝野 博文	近藤よし江

富士演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長（併）	講師	石田 健		
試験・業務掛			技官 西山 教雄 技官 千島 茂	高村 洋子 坂本 松雄 大森三千男

樹芸研研究所

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）
所長（併）	教授	山本 博一			
所長補佐	助手	池田 裕行			
事務掛	総括主任	山田 博明			
	事務室主任	高橋 久恵			
試験掛	主任（併）	池田 裕行	助手	松下 範久	山田 必子
			技官	村瀬 一隆	須藤 和子
			技官	辻 和明	土屋 福江
			技官	辻 良子	
青野作業所	主任	渡邊 良広			鈴木恵美子 平成10年10月31日まで
					鈴木 光子 平成10年12月31日まで
					犬塚 兌子

田無試験地

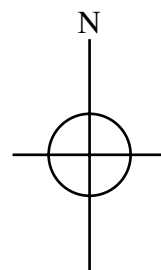
組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
試験地主任	教授	大橋 邦夫				
試験・業務掛			助手	中山 正道	佐々木 スミ子 野中 富雄 澤島 よし江	
			技官	石塚 孝一		
			技官	岩本 則長		
			技官	栗田 直明		

※（併）助教授 大橋 邦夫 平成 11 年 3 月 1 日 教授昇任

付録

東京大学農学部附属演習林 同縮尺図

総面積 32,345ha



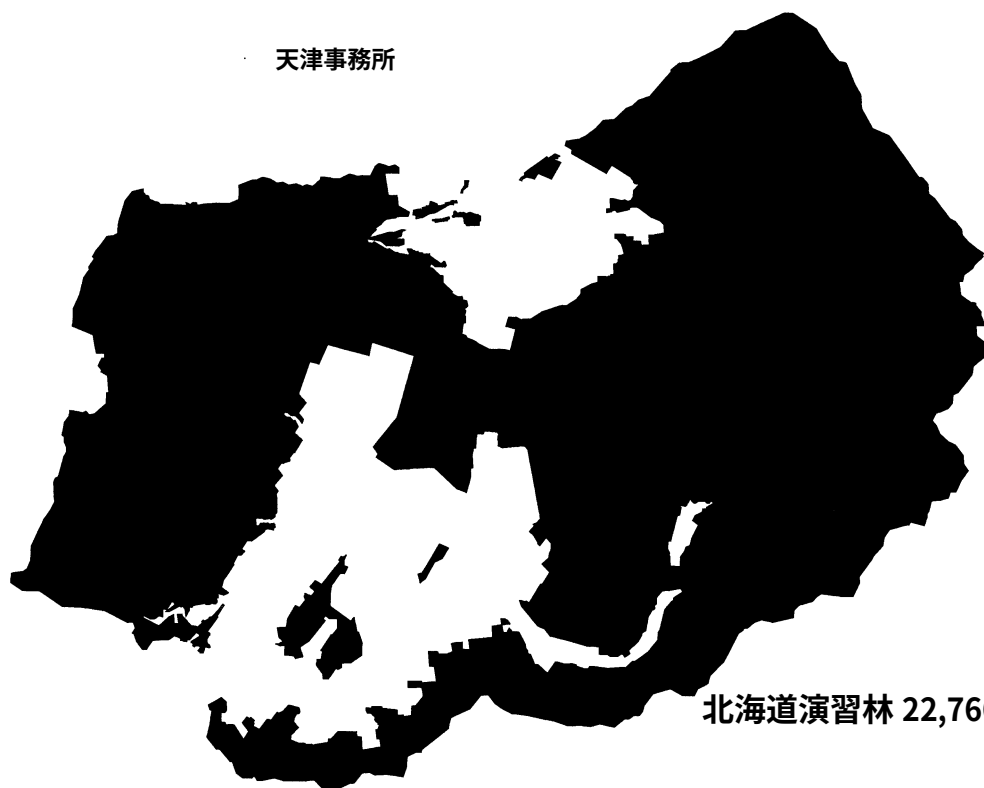
5000m

1:150,000



千葉演習林 2,170ha

天津事務所



北海道演習林 22,766ha

黒石施業実験地、事務所

影森苗畑



栃本地区



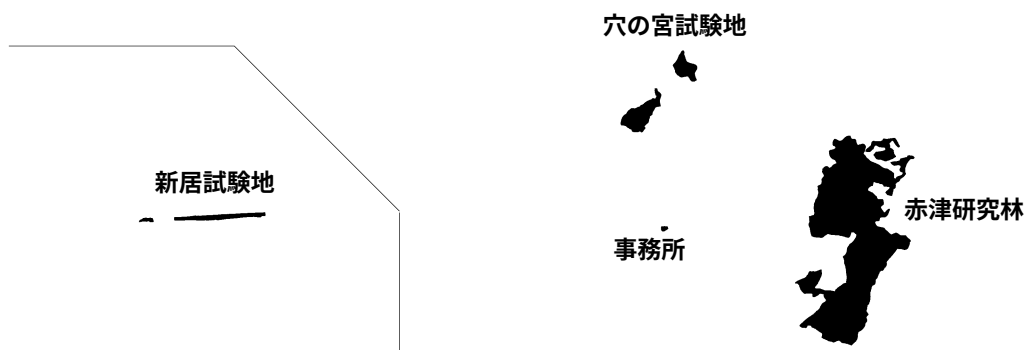
秩父演習林 5,821ha

大血川地区



愛知演習林 1,292ha

犬山研究林



富士演習林 41ha



樹芸研究所 246ha



田無試験地 9ha

研究部 191m²

各演習林所在地および連絡先

研究部

〒 113-8657
東京都文京区弥生 1-1-1
電話 03-5841-5497
ファックス 03-5841-5494

千葉演習林

〒 299-5503
千葉県安房郡天津小湊町天津 770
電話 0470-94-0621
ファックス 0470-94-2321

清澄作業所

〒 299-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄 135
電話 0470-94-0585

札郷作業所

〒 292-0537
君津市黄和田畑字前沢 1442-1
電話 0439-39-3122

郷台作業所

〒 292-0533
君津市折木沢字相ノ沢
電話 0439-39-3121

北海道演習林

〒 079-1561
北海道富良野市字山部 2 条通北 1
電話 0167-42-2111
ファックス 0167-42-2689

セミナーハウス

〒 076-0161
富良野市字麓郷市街地 1
電話 0167-29-2204

東山作業所

〒 076-0202
富良野市字東山 9 号地
電話 0167-27-2116

山部樹木園

〒 079-7582
富良野市字山部第一苗圃
電話 0167-39-6017

秩父演習林

〒 368-0034
埼玉県秩父市日野田町 1-1-49
電話 0494-22-0272
ファックス 0494-23-9620

栃本作業所

〒 369-1901
埼玉県秩父郡大滝村大字大滝 3450
電話 0494-55-0355

大血川作業所

〒 369-1907
埼玉県秩父郡大滝村大字大滝 5198
電話 0494-54-1220

影森苗畑

〒 369-1871
秩父市大字下影森 764
電話 0494-23-9768

愛知演習林

〒 489-0031
愛知県瀬戸市五位塚町 11-44
電話 0561-82-2371
ファックス 0561-85-2838

赤津作業所・白坂苗畑

〒 489-0014
瀬戸市北白坂町 1-1
電話 0561-82-8816

教官，学生寄宿舍

〒 489-0014
瀬戸市北白坂町 1-1
電話 0561-21-1185

犬山作業所

〒 484-0094
犬山市大字塔野地字大畔 178-2
電話 0568-61-0270

穴の宮試験地

〒 489-0008
瀬戸市曾野町 411-1
電話 0561-48-1342
新居試験地
〒 431-0300
静岡県浜名郡新居町ハマンド 3606-1

富士演習林

〒 401-0501
山梨県南都留郡山中湖村山中 341-2
電話 0555-62-0012
ファックス 0555-62-4798

樹芸研究所

〒 415-0304
静岡県加茂郡南伊豆町加納 457
電話 0558-62-0021
ファックス 0558-62-3170

青野作業所

〒 415-0327
静岡県賀茂郡南伊豆町青野 851
電話 0558-62-0254

田無試験地

〒 188-0002
東京都田無市緑町 1-1-8
電話 0424-61-1528
ファックス 0424-61-1528

教職員の写真

(次ページより)

平成 10 年 4 月 1 日から平成 12 年 3 月 31 日（発行日）の期間中に在職した方で、希望のあった方の写真を掲載しております。